（様式４）

一般社団法人　薬学教育評価機構

（　調　書　）

薬学教育評価　基礎資料

（平成２５年５月１日現在）

同志社女子大学薬学部

薬学教育評価　基礎資料

（目次）

	資料概要	ページ
基礎資料１	学年別授業科目	1
基礎資料２	在籍学生数	11
基礎資料３	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯｓ に該当する科目	14
基礎資料４	カリキュラムマップ	66
基礎資料５	語学教育の要素	68
基礎資料６	４年次の実務実習事前学習スケジュール	69
基礎資料７	学生受入状況における志願者数等について	81
基礎資料８	教員・事務職員数	82
基礎資料９	専任教員年齢構成	83
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	84
基礎資料11	卒業研究の配属状況	100
基礎資料12	講義室等の数と面積	101
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	104
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	105
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	106

（基礎資料１－１）学年別授業科目

	１　年　次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	（択）哲学B	後期		1	コ			2
	（択）西洋の思想A	前期		4	コ			2
	（択）日本の思想A（今出川）	前期		1	コ			2
	（択）日本の思想B	後期		1	コ			2
	（択）宇宙の科学（今出川）	後期		1	コ			2
	（択）地球の科学	前期		9	コ			2
	（択）生命の科学	前期		135	コ			2
	（択）物質の科学	後期		1	コ			2
	（択）自然科学史	前期		1	コ			2
	（択）科学技術と人間	前期		1	コ			2
	（択）心理学A	前期		7	コ			2
	（択）心理学B	後期		1	コ			2
	（択）人格心理学	前期		13	コ			2
	（択）臨床心理学	後期		2	コ			2
	（択）薬の発明・発見史Ⅰ	前期		155	コ			2
	（択）薬の発明・発見史Ⅱ	後期		154	コ			2
	（択）日本国憲法	前期		1	コ			2
	（択）異文化間コミュニケーション論	前期		1	コ			2
	（択）マスコミュニケーション論A（今出川	後期		1	コ			2
	（択）マスコミュニケーション論B	後期		1	コ			2
	（択）日本文学と女性	前期		1	コ			2
	（択）ヨーロッパの歴史と文化B	後期		1	コ			2
	（択）日本文化論	後期		1	コ			2
	（択）文化人類学A	前期		1	コ			2
	（択）文化人類学B	後期		1	コ			2
	（択）アメリカ地域研究A	前期		9	コ			2
	（択）美術史	後期		2	コ			2
	（択）日本古典芸能A	前期		1	コ			2
	（択）音楽と諸芸術	前期		1	コ			2
	（択）音楽と社会	前期		1	コ			2
	（択）映像文化論	前期		1	コ			2
	（択）京都の文化A	前期		14	コ			2
	（択）京都の文化B	前期		117	コ			2
	（択）京都の文化C	後期		1	コ			2
	（択）海外事情（アメリカ）	前期		−	コ			1
	（択）海外事情（イギリス）	後期		−	コ			1
	（択）海外事情（ニュージーランド）	後期		−	コ			1
	（択）海外事情（中国）	後期		−	コ			1
	（択）海外事情（カナダ）	前期		−	コ			1
	聖書A	前期		157	コ			2
	聖書B	後期		154	コ			2
	（択）近代日本と同志社B	前期		17	コ			2
	（択）近代日本と同志社C	前期		139	コ			2
	英語講読ⅠA	前期	155/3	155	コ			1
	英語講読ⅠB	後期	157/3	157	コ			1
	英語コミュニケーションⅠA	前期	155/4	155	コ			1
	英語コミュニケーションⅠB	後期	153/4	153	コ			1
	（択）初級ハングル語基礎Ⅰ	前期		1	コ			1
	（択）初級ハングル語基礎Ⅱ	後期		1	コ			1
	（択）初級イタリア語基礎Ⅰ	前期		1	コ			1

教養教育・語学教育	（択）ＴＯＥＦＬⅠ	文部科学大臣が定める学修による単位認定科目		－	コ			2
	（択）ＴＯＥＦＬⅡ			－	コ			2
	（択）ＴＯＥＦＬⅢ			－	コ			2
	（択）ＴＯＥＩＣⅠ			－	コ			2
	（択）ＴＯＥＩＣⅡ			－	コ			2
	（択）ＴＯＥＩＣⅢ			－	コ			2
	（択）英語検定Ⅰ			－	コ			2
	（択）英語検定Ⅱ			－	コ			4
	（択）体育実技A	前期	154/3	154	タ			1
	（択）体育実技B	後期	153/3	153	タ			1
	（択）食物と健康	後期		1	コ			2
薬学専門教育	基礎数学	前期	160/2	160	コ			1.5
	基礎化学	前期		171	コ			1.5
	基礎生物学	前期		155	コ			1.5
	基礎物理化学	前期		160	コ			1.5
	生物統計学	後期		154	コ			1.5
	薬学概論	前期		156	コ			1.5
	臨床医学概論	後期		154	コ			1.5
	看護・介護学概論	後期		155	コ			1.5
	機能形態学Ⅰ	前期		156	コ			1.5
	医薬品物理化学Ⅰ	後期		174	コ			1.5
	医薬品有機化学Ⅰ	後期		193	コ			1.5
	医薬品分析化学Ⅰ	後期		177	コ			1.5
	天然薬物資源学	後期		185	コ			1.5
	生化学Ⅰ	後期		180	コ			1.5
	機能形態学Ⅱ	後期		154	コ			1.5
演習	早期体験学習	前期・後期		156	コ・S			2

単位数の合計		
	（必須科目）	32.5
	（選択科目）	10
	合計	42.5

※卒業までに区分外領域2単位必要

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

[注]
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－２）学年別授業科目

	2　年　次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	（択）大学生活とキャリアデザインⅡ	前期		14	コ			2
	英語コミュニケーションⅡA	前期		134	コ			1
	英語コミュニケーションⅡB	後期		130	コ			1
薬学専門教育	医薬品物理化学Ⅱ	前期		130	コ			1.5
	医薬品有機化学Ⅱ	前期		179	コ			1.5
	医薬品分析化学Ⅱ	前期		144	コ			1.5
	生薬学	前期		150	コ			1.5
	微生物学	前期		129	コ			1.5
	生化学Ⅱ	前期		132	コ			1.5
	病態生理学	前期		129	コ			1.5
	物理薬剤学	前期		132	コ			1.5
	食品衛生化学	前期		154	コ			1.5
	生体有機化学	後期		150	コ			1.5
	機器分析学	後期		137	コ			1.5
	衛生化学	後期		162	コ			1.5
	分子生物薬学	後期		139	コ			1.5
	病理学	後期		129	コ			1.5
	薬理学Ⅰ	後期		136	コ			1.5
	薬物動態学Ⅰ	後期		125	コ			1.5
	臨床製剤学	後期		130	コ			1.5
実習	医薬品分析化学実習	前期	128/2	128	S・タ			1
	生化学実習	前期	129/2	129	S・タ			1
	医薬品物理化学実習	後期	128/2	128	S・タ			1
	医薬品有機化学実習	後期	127/2	127	S・タ			1
	生薬学実習	後期	127/2	127	S・タ			1
演習								
単位数の合計					（必須科目）			32.5
					（選択科目）			0
					合計			32.5

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

[注]

1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝ S

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－３）学年別授業科目

	3　年　次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	（択）健康科学概論	前期・後期		4	コ・オ			2
	（択）インターンシップⅡ	前期・後期		5	コ・タ			2
	薬学英語A	前期	142/3	142	コ			1
薬学専門教育	医薬品無機・放射化学	前期		132	コ			1.5
	創薬有機化学Ⅰ	前期		137	コ			1.5
	生体分析化学	前期		132	コ			1.5
	公衆衛生学	前期		133	コ			1.5
	病態生化学Ⅰ	前期		153	コ			1.5
	薬理学Ⅱ	前期		133	コ			1.5
	薬物作用学Ⅰ	前期		135	コ			1.5
	薬物治療学Ⅰ	前期		134	コ			1.5
	調剤学	前期		143	コ			1.5
	薬物動態学Ⅱ	前期		135	コ			1.5
	創薬有機化学Ⅱ	後期		137	コ			1.5
	天然医薬品化学	後期		147	コ			1.5
	環境衛生学	後期		132	コ			1.5
	免疫・感染症学	後期		147	コ			1.5
	病態生化学Ⅱ	後期		140	コ			1.5
	医薬品毒性学	後期		132	コ			1.5
	薬物作用学Ⅱ	後期		143	コ			1.5
	薬物治療学Ⅱ	後期		145	コ			1.5
	臨床薬剤学Ⅰ	後期		144	コ			1.5
	薬物代謝学	後期		143	コ			1.5
実習	薬剤学実習	前期	132/2	132	S・タ			1
	微生物学実習	前期	132/2	132	S・タ			1
	薬理学実習	前期	132/2	132	S・タ			1
	衛生薬学実習	前期	132/2	132	S・タ			1
	薬物動態学実習	後期	132/2	132	S・タ			1
演習								
単位数の合計					（必須科目）			36
					（選択科目）			0
					合計			36

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

[注]

1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－４）学年別授業科目

	4　年　次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	薬学英語B	前期		7	コ			1
薬学専門教育	臨床薬剤学Ⅱ	前期		140	コ			1.5
	内科学総論	前期		124	コ			1.5
	臨床病態生化学	前期		115	コ			1.5
	医療安全性学	前期		144	コ			1.5
	臨床検査学	前期		126	コ			1.5
	日本薬局方概論	前期		139	コ			1.5
	医薬品情報学	後期		136	コ			1.5
	薬事法規・制度	後期		145	コ			1.5
	薬局管理学	後期		120	コ			1.5
	薬業経済学	後期		118	コ			1.5
	薬学研究Ⅰ	前期・後期	129/17	129	S・タ			4
実習	薬物治療学実習	前期	129/2	129	S・タ			1
	模擬病院・薬局実習	後期	128/2	128	S・タ			3
演習	実務実習事前学習ⅠA	前期		118	コ・S			3
	実務実習事前学習ⅠB	前期		118	コ・S			3
	実務実習事前学習ⅡA	後期		117	コ・S			3
	実務実習事前学習ⅡB	後期		117	コ・S			3
単位数の合計					（必須科目）			35
					（選択科目）			
					合計			35

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

[注]
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－５）学年別授業科目

	5　年　次（2009年度入学生適用カリキュラム）							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	薬学研究II	前期・後期	110/17	110	S・タ			4
実習	病院実務実習 薬局実務実習	前期・後期 前期・後期		108 108	S・タ S・タ			10 10
演習								
単位数の合計					（必須科目）			24
					（選択科目）			0
					合計			24

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－６）学年別授業科目

	6　年　次（2008年度入学生適用カリキュラム）							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	薬理学特論	前期		56	コ			1
	臨床薬理学特論	前期		92	コ			1
	創薬理論科学特論	前期		7	コ			1
	ゲノム創薬特論	前期		6	コ			1
	新薬開発特論	前期		23	コ			1
	院内感染対策特論	前期		52	コ			1
	臨床医学特論A	前期		104	コ			1
	臨床医学特論B	前期		23	コ			1
	免疫・感染症学特論	前期		52	コ			1
	東洋医学特論	前期		58	コ			1
	薬剤管理指導特論A	前期		102	コ			1
	薬剤管理指導特論B	前期		73	コ			1
	薬学研究III	前期・後期	102/17	102	S・タ			4
実習								
演習	薬学特別演習	後期		115	コ・オ			8
単位数の合計					（必須科目）			12
					（選択科目）			6
					合計			18

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　自習＝ジ
オムニバス＝オ　その他＝タ

[注]
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の2つ以外は、学校独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－７）学年別授業科目

（基礎資料1－1）から（基礎資料1－6）までの結果から下記の（1）および（2）を記入してください。

（1）下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	11	35
教養教育科目	52	94.5
語学教育科目	19	39
医療安全教育科目	7	11.5
生涯学習の意欲醸成科目	4	12
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	4	14

（2）学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学　年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1　年　次	32.5	10	42.5
2　年　次	32.5		32.5
3　年　次	36		36
4　年　次	35		35
5　年　次	24		24
6　年　次	12	6	18
合計	172	18	188

※上記以外に卒業までに区分外領域2単位必要

（基礎資料２－１）在籍学生数

			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	
入学年度における	入学定員数		120	120	120	120	120	120	720	A
	編入定員数									B
	入学者数		154	140	132	149	113	113	816	
基準日における	各学年の在籍学生数		170	140	138	128	111	115	802	C
	編入学生数（内）		0	0	0	0	0	0	0	D
	留年者数（内）		16	14	21	10	12	18	91	
	留年者の入学年度	平成20年度	0	0	0	0	8			
		平成21年度	0	0	1	10				
		平成22度度	0	5	19					
		平成23年度	2	9						
		平成24年度	14							
		平成25年度								

C／（A＋B）	
D／B	

[注]　1　「C／（A＋B）」と「D／B」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

2　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

3　平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料２－２）休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
総在籍学生数	571		528		671		797		800		802	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
１年次	5	1	4	2	9	0	17	1	8	2	7	2
２年次	5	3	2	0	2	0	3	1	3	3	2	1
３年次	1	0	3	5	7	5	2	4	2	1	2	1
４年次	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
５年次					3	0	3	0	0	0	2	0
６年次									0	0	9	0
合計	11	4	9	7	21	5	25	6	14	6	23	4

［注］　平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料2－3） 学士課程修了状況

		平成23年度（平成24年3月卒業）	平成24年度（平成25年3月卒業）	平成25年度（平成26年3月卒業）	平成26年度（平成27年3月卒業）	平成27年度（平成28年3月卒業）	平成28年度（平成29年3月卒業）
卒業者総数		128 名	147 名	名	名	名	名
卒業者の入学年度内訳	平成18年度入学者	128 名	8 名	名	名	名	名
	平成19年度入学者	名	139 名	名	名	名	名
	平成20年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名

入学者総数		卒業率（%）
平成18年度	152 名	84.2%
平成19年度	169 名	82.2%
平成20年度	113 名	0.0%
平成21年度	113 名	0.0%
平成22年度	149 名	0.0%
平成23年度	132 名	0.0%

（基礎資料３－１）薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

［注］　1　薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
　　2　同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A　全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
（1）生と死						
【生命の尊厳】						
1）人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
2）誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
3）医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
4）死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
5）自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
【医療の目的】						
1）予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
【先進医療と生命倫理】						
1）医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
（2）医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1）医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）	臨床医学概論 薬学概論		調剤学	医療安全性学		薬学特別演習
2）医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）	臨床医学概論 薬学概論		調剤学	医療安全性学		薬学特別演習
3）医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
【医療行為に関わるこころ構え】						
1）ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学 病態生化学Ⅰ	医療安全性学		薬学特別演習
2）医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学 病態生化学Ⅰ	医療安全性学		薬学特別演習
3）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学 病態生化学Ⅰ	医療安全性学		薬学特別演習
4）患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論		調剤学 病態生化学Ⅰ	医療安全性学		薬学特別演習
5）医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論		調剤学 病態生化学Ⅰ	医療安全性学		薬学特別演習
【研究活動に求められるこころ構え】						
1）研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
2）研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
3）他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1）医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
2）医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自己学習・生涯学習】						
1）医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
2）医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
（3）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
3）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
【相手の気持ちに配慮する】						
1）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
2）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
3）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）	臨床医学概論、薬学概論、早期体験学習					薬学特別演習
【患者の気持ちに配慮する】						
1）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
2）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
3）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
4）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
5）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）	臨床医学概論、薬学概論					薬学特別演習
【チームワーク】						
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
【地域社会の人々との信頼関係】						
1）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
2）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
B　イントロダクション						
（1）薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
2）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】						
1）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
2）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
3）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
4）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
5）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		調剤学			薬学特別演習
【薬について】						
1）「薬とは何か」を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
2）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
3）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
4）種々の剤形とその使い方について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
5）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	臨床医学概論 薬学概論		医薬品毒性学			薬学特別演習
【現代社会と薬学との接点】						
1）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
2）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
3）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	臨床医学概論 薬学概論			医療安全性学		薬学特別演習
【日本薬局方】						
1）日本薬局方の意義と内容について概説できる。	臨床医学概論 薬学概論			日本薬局方概論		薬学特別演習
【総合演習】						
1）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）	臨床医学概論 薬学概論					薬学特別演習
2）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）	臨床医学概論 薬学概論			日本薬局方概論		薬学特別演習
（2）早期体験学習						
1）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					薬学特別演習
2）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）	早期体験学習					薬学特別演習
3）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						薬学特別演習
4）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						薬学特別演習
C　薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1　物質の物理的性質						
（1）物質の構造						
【化学結合】						
1）化学結合の成り立ちについて説明できる。	基礎化学 医薬品有機化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）軌道の混成について説明できる。	基礎化学 医薬品有機化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）分子軌道の基本概念を説明できる。	基礎化学 医薬品有機化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）共役や共鳴の概念を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】						
1）静電相互作用について例を挙げて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）分散力について例を挙げて説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）水素結合について例を挙げて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）電荷移動について例を挙げて説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【原子・分子】						
1）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）スピンとその磁気共鳴について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）偏光および旋光性について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）散乱および干渉について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
8）結晶構造と回折現象について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【放射線と放射能】						
1）原子の構造と放射壊変について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）核反応および放射平衡について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）放射線の測定原理について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
（2）物質の状態 Ⅰ						
【総論】						
1）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、基礎物理化学	物理薬剤学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
2）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
3）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【エネルギー】						
1）系、外界、境界について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学					薬学特別演習
2）状態関数の種類と特徴について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ					薬学特別演習
3）仕事および熱の概念を説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ					薬学特別演習
4）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ					薬学特別演習
5）熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学					薬学特別演習
6）代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学					薬学特別演習
7）エンタルピーについて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学					薬学特別演習
8）代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ					薬学特別演習
9）標準生成エンタルピーについて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ					薬学特別演習
【自発的な変化】						
1）エントロピーについて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
2）熱力学第二法則について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
3）代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。（知識、技能）	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
4）熱力学第三法則について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
5）自由エネルギーについて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
6）熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
7）自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
8）自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van' t Hoffの式）について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
9）共役反応について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、臨床製剤学				薬学特別演習
（3）物質の状態 II						
【物理平衡】						
1）相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyronの式など）について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
2）相平衡と相律について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
3）代表的な状態図（一成分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
4）物質の溶解平衡について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
5）溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品物理化学実習	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
6）界面における平衡について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
7）吸着平衡について説明できる。	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
8）代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）	基礎物理化学、医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品物理化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【溶液の化学】						
1）化学ポテンシャルについて説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
2）活量と活量係数について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ、 医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
3）平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
4）電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
5）イオンの輸率と移動度について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
6）イオン強度について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ 医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
7）電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ 医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
【電気化学】						
1）代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）標準電極電位について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
4）Nernstの式が誘導できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
5）濃淡電池について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
6）膜電位と能動輸送について説明できる。	基礎物理化学、 医薬品物理化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
（4）物質の変化						
【反応速度】						
1）反応次数と速度定数について説明できる。	基礎物理化学、 基礎化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
2）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
3）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
4）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
5）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
6）反応速度と温度との関係（Arrheniusの式）を説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ、 医薬品物理化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
7）衝突理論について概説できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
8）遷移状態理論について概説できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
9）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
10）酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
【物質の移動】						
1）拡散および溶解速度について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
2）沈降現象について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
3）流動現象および粘度について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学、 機器分析学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C2　化学物質の分析						
（1）化学平衡						
【酸と塩基】						
1）酸・塩基平衡を説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品有機化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ、基礎化学、基礎物理化学	物理薬剤学、医薬品有機化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
2）溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品有機化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、医薬品分析化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
3）溶液のpHを計算できる。（知識・技能）	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品有機化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ、基礎化学	物理薬剤学、医薬品物理化学実習、医薬品分析化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
4）緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品物理化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
5）代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品物理化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
6）化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品有機化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品有機化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
【各種の化学平衡】						
1）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品分析化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
2）沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
3）酸化還元電位について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品分析化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
4）酸化還元平衡について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、医薬品分析化学実習	薬剤学実習			薬学特別演習
5）分配平衡について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、機器分析学	薬剤学実習			薬学特別演習
6）イオン交換について説明できる。		物理薬剤学、機器分析学	薬剤学実習			薬学特別演習
（2）化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			医薬品無機・放射化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
3）日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			医薬品無機・放射化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
【定量の基礎】						
1）実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	医薬品分析化学Ⅰ	医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。		医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
【容量分析】						
1）中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6）電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ、医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）		医薬品分析化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【金属元素の分析】						
1）原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【クロマトグラフィー】						
1）クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		機器分析学、医薬品分析化学実習、医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		機器分析学、医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）		機器分析学、医薬品分析化学実習、医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
（3）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）		医薬品分析化学Ⅱ	生体分析化学			薬学特別演習
2）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習
【分析技術】						
1）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		医薬品分析化学Ⅱ	生体分析化学			薬学特別演習
2）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ	生体分析化学			薬学特別演習
3）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		医薬品分析化学Ⅱ	生体分析化学			薬学特別演習
4）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		医薬品物理化学Ⅱ、医薬品物理化学実習、機器分析学	生体分析化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
5）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習
6）代表的なドライケミストリーについて概説できる。			生体分析化学			薬学特別演習
7）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。			生体分析化学			薬学特別演習
8）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。			生体分析化学			薬学特別演習
9）薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。			生体分析化学			薬学特別演習
【薬毒物の分析】						
1）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習
2）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習
3）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）						薬学特別演習
C3　生体分子の姿・かたちをとらえる						
（1）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ、医薬品分析化学実習				薬学特別演習
2）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
3）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
4）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
5）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
【核磁気共鳴スペクトル】						
1）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
【質量分析】						
1）質量分析法の原理を説明できる。		機器分析学、医薬品物理化学Ⅱ	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
【X線結晶解析】						
1）X線結晶解析の原理を概説できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
2）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
【相互作用の解析法】						
1）生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		医薬品物理化学Ⅱ				薬学特別演習
（2）生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1）生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。		医薬品物理化学実習				薬学特別演習
2）タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		医薬品物理化学実習				薬学特別演習
3）タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ、医薬品物理化学実習				薬学特別演習
4）タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。		医薬品物理化学Ⅱ、医薬品物理化学実習				薬学特別演習
5）核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ、医薬品物理化学実習				薬学特別演習
6）生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
【相互作用】						
1）鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
2）転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
3）脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。						薬学特別演習
4）生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
C4　化学物質の性質と反応						
（1）化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1）基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	医薬品有機化学Ⅰ、基礎化学		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）ルイス酸・塩基を定義することができる。	医薬品有機化学Ⅰ、医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
8）反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
9）有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【有機化合物の立体構造】						
1）構造異性体と立体異性体について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）キラリティーと光学活性を概説できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）絶対配置の表示法を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【無機化合物】						
1）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	医薬品有機化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）代表的な無機医薬品を列挙できる。	医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
【錯体】						
1）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）配位結合を説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）錯体の安定度定数について説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）錯体の反応性について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。			医薬品無機・放射化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
（2）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。						薬学特別演習
2）アルカンの基本的な物性について説明できる。						薬学特別演習
3）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						薬学特別演習
4）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
5）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
6）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
7）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
【アルケン・アルキンの反応性】						
1）アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
2）アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
3）アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
4）カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
5）共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
6）アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
7）アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【芳香族化合物の反応性】						
1）代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
2）芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ、医薬品物理化学実習				薬学特別演習
3）芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
4）芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						薬学特別演習
5）芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						薬学特別演習
（3）官能基						
【概説】						
1）代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
2）複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
3）生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						薬学特別演習
4）代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）	医薬品分析化学Ⅰ	医薬品有機化学実習				薬学特別演習
5）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）		医薬品有機化学実習				薬学特別演習
6）日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
【有機ハロゲン化合物】						
1）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
2）求核置換反応（S_N1および S_N2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ					薬学特別演習
3）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
【アルコール・フェノール・チオール】						
1）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
2）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
3）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		生体有機化学、医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
【エーテル】						
1）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
2）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ、医薬品有機化学実習				薬学特別演習
2）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ、医薬品有機化学実習				薬学特別演習
3）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		生体有機化学、医薬品有機化学Ⅱ、医薬品有機化学実習				薬学特別演習
【アミン】						
1）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		生体有機化学、医薬品有機化学実習				薬学特別演習
2）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		生体有機化学				薬学特別演習
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						薬学特別演習
2）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						薬学特別演習
3）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（4）化学物質の構造決定						
【総論】						
1）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
【^{1}H NMR】						
1）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
3）有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
4）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
5）^{1}H NMRの積分値の意味を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
6）^{1}H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
7）^{1}H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
8）代表的化合物の部分構造を^{1}H NMR から決定できる。（技能）		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
【^{13}C NMR】						
1）^{13}C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
【IRスペクトル】						
1）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学、 医薬品物理化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
【紫外可視吸収スペクトル】						
1）化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
【マススペクトル】						
1）マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
3）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
4）塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
5）代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
6）高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
7）基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）		機器分析学、 医薬品有機化学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習
【比旋光度】						
1）比旋光度測定法の概略を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
2）実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
3）比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習
4）旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【総合演習】						
1）代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）			天然医薬品化学			薬学特別演習
C5　ターゲット分子の合成						
（1）官能基の導入・変換						
1）アルケンの代表的な合成法について説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
2）アルキンの代表的な合成法について説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
3）有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
4）アルコールの代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
5）フェノールの代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
6）エーテルの代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
7）アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
8）カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
9）カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学、医薬品有機化学実習	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
10）アミンの代表的な合成法について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
11）代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
12）代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）		生体有機化学	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
（2）複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1）Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。			創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
2）転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。			創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
3）代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。		医薬品有機化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
4）代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。		医薬品有機化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
【位置および立体選択性】						
1）代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
2）代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	医薬品有機化学Ⅰ	医薬品有機化学Ⅱ				薬学特別演習
【保護基】						
1）官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
【光学活性化合物】						
1）光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。			創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
【総合演習】						
1）課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）			創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
2）課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）		医薬品有機化学実習	創薬有機化学Ⅰ			薬学特別演習
3）反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）		医薬品有機化学実習				薬学特別演習
C6　生体分子・医薬品を化学で理解する						
（1）生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
2）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
3）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
5）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
【生体内で機能する複素環】						
1）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
2）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
3）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。		生体有機化学	創薬有機化学Ⅱ、医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
2）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
3）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
2）代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
3）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			医薬品無機・放射化学			新薬開発特論、薬学特別演習
（2）医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			創薬有機化学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
2）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			創薬有機化学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
【医薬品に含まれる複素環】						
1）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
2）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
3）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
4）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
5）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
【医薬品と生体高分子】						
1）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。		医薬品物理化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
2）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。		医薬品物理化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
3）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）		医薬品物理化学実習	創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
【生体分子を模倣した医薬品】						
1）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬有機化学Ⅱ	日本薬局方概論		新薬開発特論、薬学特別演習
2）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬有機化学Ⅱ	日本薬局方概論		新薬開発特論、薬学特別演習
3）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
4）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬有機化学Ⅱ	日本薬局方概論		新薬開発特論、薬学特別演習
5）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬有機化学Ⅱ	日本薬局方概論		新薬開発特論、薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体内分子と反応する医薬品】						
1）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
2）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。		医薬品物理化学Ⅱ	創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
3）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。			創薬有機化学Ⅱ			新薬開発特論、薬学特別演習
C7　自然が生み出す薬物						
（1）薬になる動植鉱物						
【生薬とは何か】						
1）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学			薬学特別演習
2）生薬の歴史について概説できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学			薬学特別演習
3）生薬の生産と流通について概説できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学			薬学特別演習
【薬用植物】						
1）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）	天然薬物資源学	生薬学実習	医薬品毒性学			薬学特別演習
2）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	天然薬物資源学	生薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習
3）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	天然薬物資源学	生薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習
4）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）	天然薬物資源学	生薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習
5）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	天然薬物資源学	生薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習
【植物以外の医薬資源】						
1）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学	医薬品毒性学	日本薬局方概論		薬学特別演習
【生薬成分の構造と生合成】						
1）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
2）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
3）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
4）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
5）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
6）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
7）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学	医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
【農薬、香粧品としての利用】						
1）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
【生薬の同定と品質評価】						
1）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	天然薬物資源学	生薬学実習	医薬品毒性学	日本薬局方概論		薬学特別演習
2）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）	天然薬物資源学	生薬学実習	医薬品毒性学			薬学特別演習
3）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）	天然薬物資源学	生薬学実習	医薬品毒性学			薬学特別演習
4）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）	天然薬物資源学		医薬品毒性学			薬学特別演習
5）生薬の同定と品質評価法について概説できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（2）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学 天然医薬品化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
2）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
3）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
【天然物質の取扱い】						
1）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）			医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
2）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			医薬品毒性学			薬学特別演習
【微生物が生み出す医薬品】						
1）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。	天然薬物資源学		医薬品毒性学 天然医薬品化学	日本薬局方概論		薬学特別演習
【発酵による医薬品の生産】						
1）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。			医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
【発酵による有用物質の生産】						
1）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			医薬品毒性学 天然医薬品化学			薬学特別演習
（3）現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1）漢方医学の特徴について概説できる。	天然薬物資源学	生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
2）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。	天然薬物資源学	生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
3）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。	天然薬物資源学	生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
4）漢方処方と「証」との関係について概説できる。		生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
5）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		生薬学 生薬学実習				東洋医学特論。 薬学特別演習
6）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		生薬学 生薬学実習				東洋医学特論。 薬学特別演習
7）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。		生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
【漢方処方の応用】						
1）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
2）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。		生薬学				東洋医学特論。 薬学特別演習
[生物系薬学を学ぶ]						
C8　生命体の成り立ち						
（1）ヒトの成り立ち						
【概論】						
1）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【神経系】						
１）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅰ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
２）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅰ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
３）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅰ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【骨格系・筋肉系】						
１）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
２）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【皮膚】						
１）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【循環器系】						
１）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
２）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
３）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【呼吸器系】						
１）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【消化器系】						
１）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習
２）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習
【泌尿器系】						
１）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【生殖器系】						
１）精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習
【内分泌系】						
１）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	基礎生物学、 機能形態学Ⅱ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【感覚器系】						
１）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	病態生理学、 生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【血液・造血器系】						
1）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅱ、 分子生物学、 生化学実習	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
(2)　生命体の基本単位としての細胞						薬学特別演習
【細胞と組織】						
1）細胞集合による組織構築について説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）	生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ、 微生物学実習			薬学特別演習
【細胞膜】						
1）細胞膜の構造と性質について説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）細胞膜を介した物質移動について説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【細胞内小器官】						
1）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【細胞の分裂と死】						
1）体細胞分裂の機構について説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	臨床病態生化学		薬学特別演習
2）生殖細胞の分裂機構について説明できる。	基礎生物学、 生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	臨床病態生化学		薬学特別演習
3）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	臨床病態生化学		薬学特別演習
4）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	臨床病態生化学		薬学特別演習
【細胞間コミュニケーション】						
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	生化学Ⅰ		薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	基礎生物学	病態生理学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）シナプス伝達の調節機構を説明できる。	基礎生物学	病態生理学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	基礎生物学	病態生理学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
4）筋収縮の調節機構を説明できる。	基礎生物学	病態生理学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【ホルモンによる調節機構】						
1）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	基礎生物学		薬物作用学Ⅰ			薬理学特論、 薬学特別演習
2）血糖の調節機構を説明できる。	基礎生物学		薬物作用学Ⅰ			薬理学特論、 薬学特別演習
【循環・呼吸系の調節機構】						
1）血圧の調節機構を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）肺および組織におけるガス交換を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【体液の調節機構】						
1）体液の調節機構を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【消化・吸収の調節機構】						
1）消化、吸収における神経の役割について説明できる。			薬物作用学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習
2）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。			薬物作用学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習
【体温の調節機構】						
1）体温の調節機構を説明できる。			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
（4）小さな生き物たち						
【総論】						
1）生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学				薬学特別演習
2）原核生物と真核生物の違いを説明できる。		微生物学				薬学特別演習
【細菌】						
1）細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学				薬学特別演習
2）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		微生物学				薬学特別演習
3）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学				薬学特別演習
4）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学				薬学特別演習
5）腸内細菌の役割について説明できる。						薬学特別演習
6）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学				薬学特別演習
【細菌毒素】						
1）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学				薬学特別演習
【ウイルス】						
1）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学				薬学特別演習
2）ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
3）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。		微生物学				薬学特別演習
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1）主な真菌の性状について説明できる。		微生物学				薬学特別演習
2）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学				薬学特別演習
【消毒と滅菌】						
1）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学	臨床薬剤学Ⅰ	日本薬局方概論		薬学特別演習
2）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）　（OSCEの対象）			臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習			薬学特別演習
3）主な滅菌法を実施できる。（技能）　（OSCEの対象）			臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
【検出方法】						
1）グラム染色を実施できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習
2）無菌操作を実施できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習
3）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習
4）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。		微生物学	微生物学実習			薬学特別演習
5）代表的な細菌を同定できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C9　生命をミクロに理解する						
（1）細胞を構成する分子						
【脂質】						
1）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
2）脂肪酸の種類と役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
3）脂肪酸の生合成経路を説明できる。	生化学Ⅰ					薬学特別演習
4）コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	生化学Ⅰ					薬学特別演習
【糖質】						
1）グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
2）グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
3）代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
4）糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	生化学Ⅰ					薬学特別演習
【アミノ酸】						
1）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
2）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生化学Ⅰ					薬学特別演習
3）アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	生化学Ⅰ					薬学特別演習
【ビタミン】						
1）水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
2）脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ					薬学特別演習
3）ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	生化学Ⅰ					薬学特別演習
（2）生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1）核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）DNAの構造について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）RNAの構造について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【遺伝情報を担う分子】						
1）遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
4）染色体の構造を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
5）遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
6）RNAの種類と働きについて説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ、分子生物学	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【転写と翻訳のメカニズム】						
1）DNAからRNAへの転写について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）転写の調節について、例を挙げて説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）RNAのプロセシングについて説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
4）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
5）リボソームの構造と機能について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1）DNAの複製の過程について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）DNAの修復の過程について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【遺伝子多型】						
1）一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
（3）生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1）タンパク質の主要な機能を列挙できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
2）タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
3）タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
【酵素】						
1）酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
2）酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
3）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
4）酵素反応速度論について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
5）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
6）代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
【酵素以外の機能タンパク質】						
1）細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
2）物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
3）血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
4）細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
5）細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
【タンパク質の取扱い】						
1）タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
2）タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）	生化学Ⅰ	機器分析学				薬学特別演習
3）タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学実習				薬学特別演習
（4）生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
【ATPの産生】						
1）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
2）解糖系について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
3）クエン酸回路について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
4）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
5）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
6）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
7）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
8）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
9）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
【飢餓状態と飽食状態】						
1）グリコーゲンの役割について説明できる。	基礎生物学、生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
2）糖新生について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
3）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
4）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
5）食餌性の血糖変動について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
6）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
7）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
8）ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				薬学特別演習
（5）生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	基礎生物学	薬理学Ⅰ				薬学特別演習
2）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
3）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
4）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
【オータコイドなど】						
1）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
2）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
3）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
4）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
5）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
6）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
【神経伝達物質】						
1）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	基礎生物学	薬理学Ⅰ				薬学特別演習
2）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
3）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
4）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	基礎生物学	薬理学Ⅰ				薬学特別演習
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
2）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
3）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
【細胞内情報伝達】						
1）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	基礎生物学	薬理学Ⅰ				薬学特別演習
2）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	基礎生物学	薬理学Ⅰ				薬学特別演習
3）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習
4）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（6）遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1）組換えDNA技術の概要を説明できる。	基礎生物学	分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
2）細胞からDNAを抽出できる。（技能）		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
3）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
4）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
5）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
【遺伝子のクローニング技術】						
1）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
2）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
3）遺伝子ライブラリーについて説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
4）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
5）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
6）DNA塩基配列の決定法を説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
7）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）		分子生物学、 生化学実習 医薬品物理化学実習				薬学特別演習
【遺伝子機能の解析技術】						
1）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
2）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
3）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
4）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。		分子生物学、 生化学実習				薬学特別演習
C10 生体防御						
（1）身体をまもる						
【生体防御反応】						
1）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
2）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
3）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
4）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
5）クローン選択説を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
6）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
【免疫を担当する組織・細胞】						
1）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
2）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
3）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
4）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
2）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
3）T細胞による抗原の認識について説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
4）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。	基礎生物学		免疫・感染症学			薬学特別演習
5）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
（2）免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫・感染症学	医療安全性学		薬学特別演習
2）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫・感染症学	医療安全性学		薬学特別演習
3）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			免疫・感染症学	医療安全性学		薬学特別演習
4）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。			免疫・感染症学	医療安全性学		薬学特別演習
【免疫応答のコントロール】						
1）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
2）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる.			免疫・感染症学			薬学特別演習
3）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
4）代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
【予防接種】						
1）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
2）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
3）予防接種について，その種類と実施状況を説明できる。			免疫・感染症学			薬学特別演習
【免疫反応の利用】						
1）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						薬学特別演習
2）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習
3）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習
4）ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）			微生物学実習			薬学特別演習
（3）感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1）主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
2）主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
3）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
4）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
5）グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6）グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
7）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
8）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
9）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。		微生物学				薬学特別演習
【感染症の予防】						
1）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習
【健康と環境】						
C11 健康						
（1）栄養と健康						
【栄養素】						
1）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
2）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
3）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
4）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。		食品衛生化学	衛生薬学実習			薬学特別演習
5）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
6）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
7）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
8）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
【食品の品質と管理】						
1）食品が腐敗する機構について説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
2）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）		食品衛生化学				薬学特別演習
3）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
4）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
5）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
6）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
7）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
8）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）						薬学特別演習
9）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。		食品衛生化学				薬学特別演習
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）		食品衛生化学				薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		食品衛生化学	医薬品毒性学			薬学特別演習
2）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		食品衛生化学	医薬品毒性学			薬学特別演習
3）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品衛生化学	医薬品毒性学			薬学特別演習
4）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。		食品衛生化学	医薬品毒性学			薬学特別演習
5）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		食品衛生化学	医薬品毒性学			薬学特別演習
（2）社会・集団と健康						
【保健統計】						
1）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）人口静態と人口動態について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）国勢調査の目的と意義を説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
4）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
5）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1）死因別死亡率の変遷について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）			公衆衛生学			薬学特別演習
【疫学】						
1）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
4）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学			薬学特別演習
5）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学			薬学特別演習
6）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
7）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
（3）疾病の予防						
【健康とは】						
1）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
【疾病の予防とは】						
1）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
4）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）			公衆衛生学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
4）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
5）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
6）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
【生活習慣病とその予防】						
1）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
2）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
3）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
【職業病とその予防】						
1）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			公衆衛生学			薬学特別演習
C12　環境						
（1）化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
2）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
3）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
【化学物質による発がん】						
1）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
2）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
3）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
4）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学	医療安全性学		薬学特別演習
【化学物質の毒性】						
1）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
7）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
8）環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【化学物質による中毒と処置】						
1）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）		衛生化学	医薬品毒性学、医薬品無機・放射化学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
4）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
5）電離放射線を防御する方法について概説できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
6）電離放射線の医療への応用について概説できる。		衛生化学	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
【非電離放射線の生体への影響】						
1）非電離放射線の種類を列挙できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
2）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
3）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習
（2）生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1）地球環境の成り立ちについて概説できる。			環境衛生学			薬学特別演習
2）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
3）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）			環境衛生学			薬学特別演習
4）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
5）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
6）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
7）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
【水環境】						
1）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			薬物作用学Ⅱ、 環境衛生学			薬学特別演習
2）水の浄化法について説明できる。			薬物作用学Ⅱ、 環境衛生学			薬学特別演習
3）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
4）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			環境衛生学 衛生薬学実習			薬学特別演習
5）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
6）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
7）ＤＯ，ＢＯＤ，ＣＯＤを測定できる。（技能）			環境衛生学 衛生薬学実習			薬学特別演習
8）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
【大気環境】						
1）空気の成分を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
2）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
3）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）			環境衛生学			薬学特別演習
4）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			環境衛生学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			環境衛生学 衛生薬学実習			薬学特別演習
2）室内環境と健康との関係について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
3）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
4）シックハウス症候群について概説できる。			環境衛生学 衛生薬学実習			薬学特別演習
【廃棄物】						
1）廃棄物の種類を列挙できる。			環境衛生学			薬学特別演習
2）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
3）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）			環境衛生学			薬学特別演習
4）マニフェスト制度について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
5）PRTR法について概説できる。			環境衛生学			薬学特別演習
【環境保全と法的規制】						
1）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
2）環境基本法の理念を説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
3）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
4）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学			薬学特別演習
[薬と疾病]						
C13 薬の効くプロセス						
（1）薬の作用と生体内運命						
【薬の作用】						
1）薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
2）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
3）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
4）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
5）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
6）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
7）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
8）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【薬の運命】						
1）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習
2）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習
3）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習
4）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習
5）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ、 薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬の副作用】						
1）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。			臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	医療安全性学		薬学特別演習
2）副作用と有害事象の違いについて説明できる。			臨床薬剤学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 医薬品毒性学	医療安全性学		薬学特別演習
【動物実験】						
1）動物実験における倫理について配慮する。（態度）			薬物作用学Ⅰ			薬理学特論、 薬学特別演習
2）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）			薬物作用学Ⅰ、 薬理学実習			薬理学特論、 薬学特別演習
3）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）			薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
（2）薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
1）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、			薬理学特論、 新薬開発特論、 薬学特別演習
2）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、			新薬開発討論、 薬学特別演習
3）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、			新薬開発討論、 薬学特別演習
4）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、			薬理学特論、 新薬開発特論、 薬学特別演習
5）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、			薬理学特論、 新薬開発特論、 薬学特別演習
6）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学実習			薬理学特論、 新薬開発特論、 薬学特別演習
【自律神経系に作用する薬】						
1）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
4）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））△技能であるからCBTには馴染まない		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ、 薬理学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ、 薬理学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ、 薬理学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
【循環器系に作用する薬】						
1）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
4）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器系に作用する薬】						
1）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
（3）薬の効き方Ⅱ						
【ホルモンと薬】						
1）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
【消化器系に作用する薬】						
1）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
2）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
3）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
4）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
5）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
【腎に作用する薬】						
1）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
【血液・造血器系に作用する薬】						
1）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
2）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
3）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 医薬品毒性学、 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
【代謝系に作用する薬】						
1）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
2）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
4）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬理学特論、 薬学特別演習
【炎症・アレルギーと薬】						
1）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ			新薬開発特論、 薬学特別演習
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学Ⅰ	薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
（4）薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1）薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学、 薬物動態学実習			薬学特別演習
2）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学、 薬物動態学実習			薬学特別演習
3）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学、 薬物動態学実習			薬学特別演習
4）能動輸送の特徴を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学			薬学特別演習
5）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学			薬学特別演習
6）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学、 薬物動態学実習			薬学特別演習
【分布】						
到達目標：						
1）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
2）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
3）薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
4）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学実習			薬学特別演習
5）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学実習			薬学特別演習
6）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学実習			薬学特別演習
7）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学実習			薬学特別演習
【代謝】						
1）薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
2）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
3）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
4）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
5）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
6）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
7）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学			薬学特別演習
8）初回通過効果について説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
9）肝および固有クリアランスについて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【排泄】						
1）腎における排泄機構について説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
2）腎クリアランスについて説明できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
3）糸球体ろ過速度について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
4）胆汁中排泄について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
5）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
6）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物代謝学			薬学特別演習
7）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ				薬学特別演習
【相互作用】						
1）薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学			薬学特別演習
2）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物代謝学			薬学特別演習
（5）薬物動態の解析						
【薬動学】						
1）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
2）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
3）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
4）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
5）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
6）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）	基礎物理化学	薬物動態学Ⅰ	薬物動態学実習	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
7）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
8）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
9）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習			新薬開発特論、 薬学特別演習
10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ、 薬物動態学実習	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
【TDM（Therapeutic Drug Monitoring）】						
1）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。		薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
2）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ、 薬物動態学Ⅱ			新薬開発特論、 薬学特別演習
3）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
4）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
5）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ	模擬病院・薬局実習		新薬開発特論、 薬学特別演習
C14　薬物治療						
（1）体の変化を知る						
【症候】						
1）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しび　れ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【症候と臨床検査値】						
1）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
2）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
3）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
4）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
5）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
6）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
7）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
8）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
9）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
10）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習
11）代表的なバイタルサインを列挙できる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床検査学		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（2）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
1）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
【心臓・血管系の疾患】						
1）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
2）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬理学特論、 薬学特別演習
3）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬理学特論、 薬学特別演習
4）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
5）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
6）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、		薬学特別演習
【血液・造血器の疾患】						
1）血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
3）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
4）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
5）以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【消化器系疾患】						
1）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸･大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
2）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ、 臨床病態生化学		薬学特別演習
3）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ、 臨床病態生化学		薬学特別演習
4）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ、 臨床病態生化学		薬学特別演習
5）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ、 臨床病態生化学		薬学特別演習
6）以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
【総合演習】						
1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）		病理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ、 内科学総論		薬学特別演習
（3）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
1）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
3）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
4）以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
【生殖器疾患】						
1）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
2）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
3）以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
【呼吸器・胸部の疾患】						
1）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
2）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
3）以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌		病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【内分泌系疾患】						
1）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
2）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
3）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
4）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
5）以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
【代謝性疾患】						
1）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬理学特論、 薬学特別演習
2）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬理学特論、 薬学特別演習
3）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬理学特論、 薬学特別演習
【神経・筋の疾患】						
1）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
2）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
3）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
4）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
5）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
6）以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆		病理学、 病態生理学	薬物作用学Ⅰ、 薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
【総合演習】						
1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 薬物作用学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
（4）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
1）代表的な精神疾患を挙げることができる。		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 臨床薬剤学Ⅱ 内科学総論		薬学特別演習
3）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 臨床薬剤学Ⅱ 内科学総論		薬学特別演習
4）以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
【耳鼻咽喉の疾患】						
1）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
3）以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎		病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論、		薬学特別演習
2）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
3）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
4）以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 医療安全性学、 内科学総論		薬学特別演習
【眼疾患】						
1）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
3）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
4）以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症		病理学、 病態生理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
【骨・関節の疾患】						
1）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
2）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
3）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
4）以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床病態生化学		薬学特別演習
【アレルギー・免疫疾患】						
1）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
2）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、 病態生化学Ⅰ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
3）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、 病態生化学Ⅰ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
4）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、Ⅱ 病態生化学Ⅰ、 薬物作用学Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論		薬学特別演習
【移植医療】						
1）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 薬物治療学Ⅱ、 内科学総論		薬学特別演習
【緩和ケアと長期療養】						
1）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
2）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、 内科学総論、 臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			薬物治療学Ⅰ、Ⅱ	薬物治療学実習、内科学総論		薬学特別演習
（５）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
１）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ			薬学特別演習
【抗菌薬】						
１）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
２）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
３）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
４）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
５）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
６）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
７）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
８）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
９）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。			薬物治療学Ⅰ、薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、微生物学実習、薬理学Ⅱ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【抗原虫・寄生虫薬】						
１）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
【抗真菌薬】						
１）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
【抗ウイルス薬】						
１）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
２）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、Ⅱ 臨床薬剤学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
【抗菌薬の耐性と副作用】						
１）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		微生物学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 臨床薬剤学Ⅰ、 微生物学実習			薬学特別演習
２）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習
【悪性腫瘍の病態と治療】						
１）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
２）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
３）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。		病理学	薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ			薬学特別演習
【抗悪性腫瘍薬】						
１）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
２）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
３）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
４）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
５）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
６）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
７）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
８）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ			薬学特別演習
2）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ	臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
3）副作用軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療学Ⅰ、 薬物作用学Ⅰ、 薬理学Ⅱ	臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習
C15　薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【情報】						
1）医薬品として必須の情報を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学、		薬学特別演習
2）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学、		薬学特別演習
3）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学、		薬学特別演習
4）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学、		薬学特別演習
5）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学、		薬学特別演習
【情報源】						
1）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
2）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
3）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
4）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 模擬病院・薬局実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
5）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
6）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
7）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
2）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
3）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
4）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習
5）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習 医薬品情報学、 医療安全性学		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【データベース】						
1）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
2）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
3）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
【EBM（Evidence-Based Medicine）】						
1）EBMの基本概念と有用性について説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
2）EBM実践のプロセスを概説できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
3）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
4）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
5）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、模擬病院・薬局実習医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
6）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
【総合演習】						
1）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
2）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学、医療安全性学		薬学特別演習
（2）患者情報						
【情報と情報源】						
1）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
2）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
【収集・評価・管理】						
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
2）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
3）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
4）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
5）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
6）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
7）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習、医薬品情報学		薬学特別演習
（3）テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						薬学特別演習
3）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【年齢的要因】						
1）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
2）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
3）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
【生理的要因】						
1）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療安全性学		薬学特別演習
2）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療安全性学		薬学特別演習
3）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療安全性学		薬学特別演習
【合併症】						
1）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
2）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
3）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学特別演習
【投与計画】						
1）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習
2）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習
3）薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習
4）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習
[医薬品をつくる]						
C16　製剤化のサイエンス						
（1）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1）溶液の濃度と性質について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ、 医薬品分析化学Ⅰ	物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
2）物質の溶解とその速度について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ、 物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
3）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
4）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	医薬品物理化学Ⅱ、 物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
【分散系】						
1）界面の性質について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
2）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
3）乳剤の型と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
4）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
5）分散粒子の沈降現象について説明できる。	医薬品物理化学Ⅰ	物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
【製剤材料の物性】						
1）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		物理薬剤学、 機器分析学、 臨床薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
2）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。		物理薬剤学、 機器分析学、 臨床薬剤学、 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
3）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
4）粉体の性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）製剤材料としての分子集合体について説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学 医薬品物理化学Ⅱ	薬剤学実習			薬学特別演習
６）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
７）粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。		物理薬剤学、 臨床薬剤学、 機器分析学	薬剤学実習			薬学特別演習
８）製剤材料の物性を測定できる。（技能）		物理薬剤学、 臨床薬剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
（２）剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
１）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
２）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
３）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
４）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
５）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
６）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
７）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
８）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
【製剤化】						
１）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。		臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
２）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）		臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
３）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		臨床製剤学	薬剤学実習			薬学特別演習
【製剤試験法】						
１）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。		臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
２）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）		臨床製剤学	薬剤学実習	日本薬局方概論		薬学特別演習
（３）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【DDSの必要性】						
１）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習
２）DDSの概念と有用性について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習
【放出制御型製剤】						
１）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
２）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
３）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
４）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
５）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
６）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学		日本薬局方概論		新薬開発特論、 薬学特別演習
【ターゲティング】						
１）ターゲティングの概要と意義について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習
２）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習
【プロドラッグ】						
１）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【その他のDDS】						
1）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		物理薬剤学、 臨床製剤学				新薬開発特論、 薬学特別演習
C17　医薬品の開発と生産						
（1）医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
2）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
2）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
3）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
4）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【非臨床試験】						
1）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【医薬品の承認】						
1）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
2）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
3）市販後調査の制度とその意義について説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
4）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【医薬品の製造と品質管理】						
1）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
2）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
3）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【規範】						
1）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。	薬学概論	臨床製剤学		薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【特許】						
1）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		新薬開発特論、 薬学特別演習
【薬害】						
1）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	薬学概論			薬事法規・制度、 医療安全性学		新薬開発特論、 薬学特別演習
（2）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	薬学概論					新薬開発特論、 薬学特別演習
【標的生体分子との相互作用】						
1）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						新薬開発特論、 薬学特別演習
2）医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						新薬開発特論、 薬学特別演習
3）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						新薬開発特論、 薬学特別演習
4）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						新薬開発特論、 薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【スクリーニング】						
1）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。						新薬開発特論、薬学特別演習
2）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						新薬開発特論、薬学特別演習
【リード化合物の最適化】						
1）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						新薬開発特論、薬学特別演習
2）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。						新薬開発特論、薬学特別演習
3）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						新薬開発特論、薬学特別演習
（3）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
2）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				医療安全性学、日本薬局方概論		新薬開発特論、薬学特別演習
3）組換え体医薬品の安全性について概説できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
【遺伝子治療】						
1）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
【細胞を利用した治療】						
1）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
2）バイオインフォマティクスについて概説できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
3）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
4）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
【疾患関連遺伝子】						
1）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
2）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。				医療安全性学		新薬開発特論、薬学特別演習
（4）治験						
【治験の意義と業務】						
1）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
2）医薬品創製における治験の役割を説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
3）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
4）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
5）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
6）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
【治験における薬剤師の役割】						
1）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
2）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
3）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習
4）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）				医薬品情報学		新薬開発特論、薬学特別演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（５）バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
１）帰無仮説の概念を説明できる。		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
２）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
３）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
４）χ2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
５）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
６）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
７）主な多変量解析の概要を説明できる。		病態生理学	医薬品毒性学、薬理学実習			新薬開発特論、薬学特別演習
【臨床への応用】						
１）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。			医薬品毒性学			新薬開発特論、薬学特別演習
２）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。			医薬品毒性学			新薬開発特論、薬学特別演習
３）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。			医薬品毒性学			新薬開発特論、薬学特別演習
４）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			医薬品毒性学			新薬開発特論、薬学特別演習
５）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。			医薬品毒性学			新薬開発特論、薬学特別演習
C18　薬学と社会						
（１）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
１）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
２）医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
【法律と制度】						
１）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
２）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
３）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
４）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
５）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
６）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
７）製造物責任法を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
【管理薬】						
１）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事法規・制度、医療安全性学		薬学特別演習
２）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事法規・制度、医療安全性学		薬学特別演習
３）大麻取締法およびあへん法を概説できる。				薬事法規・制度、医療安全性学		薬学特別演習
４）毒物及び劇物取締法を概説できる。				薬事法規・制度、医療安全性学		薬学特別演習
【放射性医薬品】						
１）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。			生体分析化学	薬事法規・制度		薬学特別演習
２）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			生体分析化学	薬事法規・制度		薬学特別演習
（２）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
2）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
3）介護保険制度のしくみを説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
4）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
【医療保険】						
1）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
2）医療保険のしくみを説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
3）医療保険の種類を列挙できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
4）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
【薬剤経済】						
1）国民医療費の動向を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
2）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
3）診療報酬と薬価基準について説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
4）医療費の内訳を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
5）薬物治療の経済評価手法を概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
6）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
（3）コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1）地域薬局の役割を列挙できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
2）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
3）学校薬剤師の役割を説明できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
【医薬分業】						
1）医薬分業のしくみと意義を説明できる。		調剤学		薬事法規・制度		薬学特別演習
2）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）		調剤学		薬事法規・制度		薬学特別演習
3）かかりつけ薬局の意義を説明できる。		調剤学		薬事法規・制度		薬学特別演習
【薬局の業務運営】						
1）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
2）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
3）医薬品の流通のしくみを概説できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
4）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。				薬事法規・制度		薬学特別演習
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
2）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習
3）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。	薬学概論			薬事法規・制度		薬学特別演習

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

[注]　1　実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2　同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3　「（７）の事前学習のまとめ」において大学でＳＢＯsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目		
	３年	４年	５年
Ｄ　実務実習教育			
（Ｉ）実務実習事前学習			
（１）事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1.　医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学	実務実習事前学習	
2.　医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	調剤学	実務実習事前学習	
3.　薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）	調剤学	実務実習事前学習	
《チーム医療に注目する》			
4.　医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	
5.　チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	
6.　自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）	調剤学	実務実習事前学習	
《医薬分業に注目する》			
7.　医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	調剤学	実務実習事前学習	
（２）処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1.　処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
2.　処方オーダリングシステムを概説できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
3.　処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
4.　調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
5.　代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
6.　不適切な処方せんの処置について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習

《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤学	臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
8. 患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）	調剤学	臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
9. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。	調剤学	臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
11. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。	調剤学	臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）		臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱ 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
（3）疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）	調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
9. 疑義照会の流れを説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）	調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習

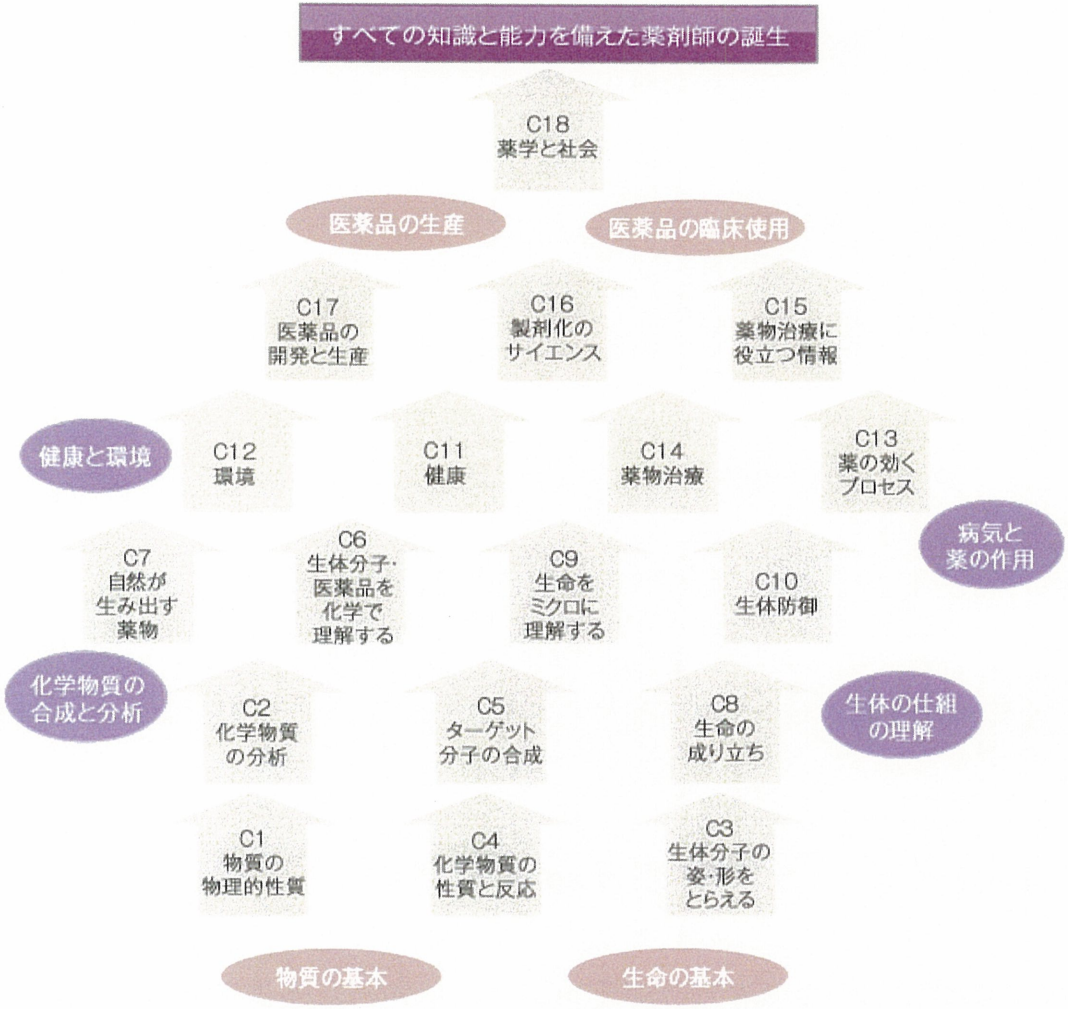
（４）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《製剤化の基礎》			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	臨床製剤学（２年生） 調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	臨床製剤学（２年生） 調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）	臨床製剤学（２年生） 調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）	臨床製剤学（２年生） 調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）	臨床製剤学（２年生） 調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	臨床製剤学（２年生） 調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）	臨床製剤学（２年生） 調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。	臨床製剤学（２年生） 調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）	臨床製剤学（２年生） 調剤学	模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《消毒薬》			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習

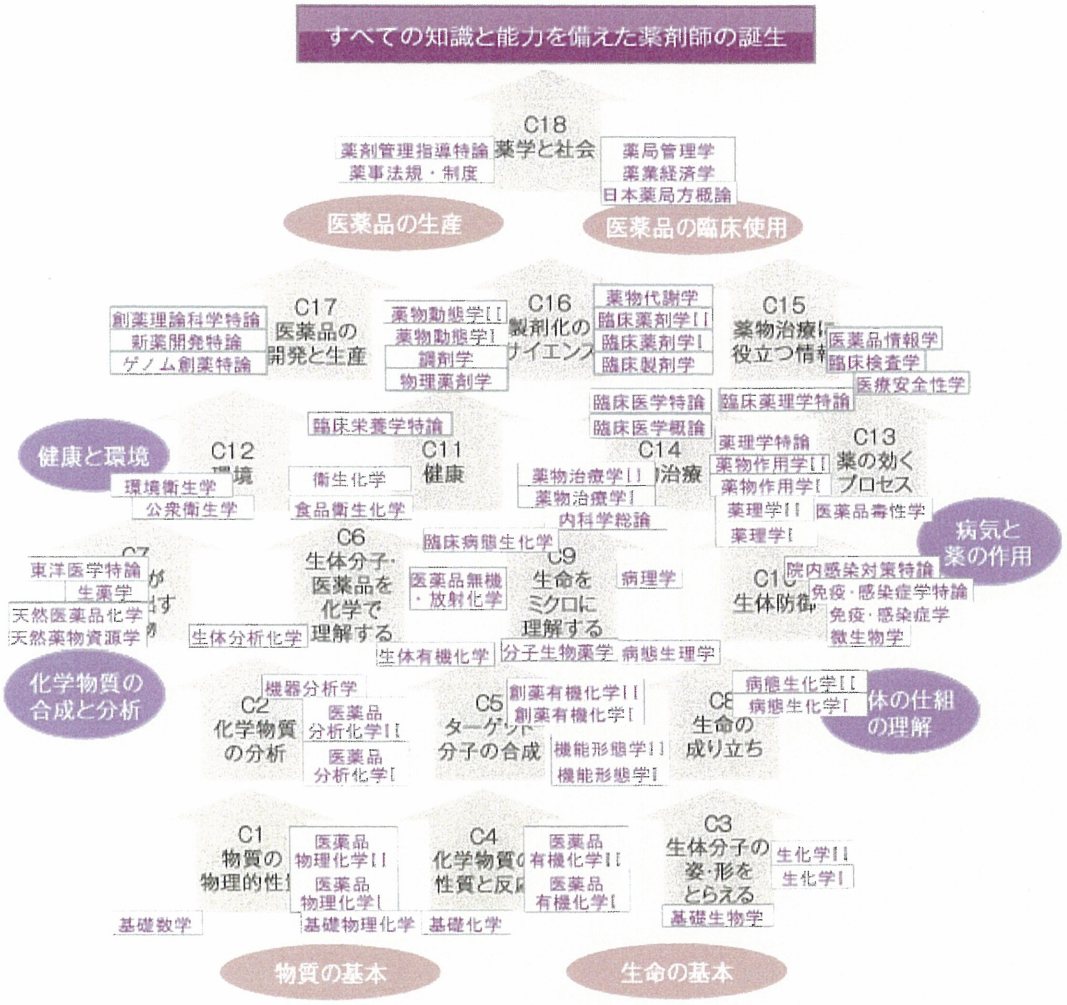
（5）リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
3. 院内感染の回避方法について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《リスクマネージメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
（6）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《患者情報の重要性に注目する》			
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
《服薬指導入門》			
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習
（7）事前学習のまとめ			
		模擬病院・薬局実習 実務実習事前学習	病院実務実習 薬局実務実習

（基礎資料４）カリキュラムマップ

［注］　１　任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。）

２　図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。




すべての知識と能力を備えた薬剤師の誕生
C18
薬学と社会
薬剤管理指導特論
薬事法規・制度
薬局管理学
薬業経済学
日本薬局方概論
医薬品の生産
医薬品の臨床使用
C17
医薬品の開発と生産
創薬理論科学特論
新薬開発特論
ゲノム創薬特論
C16
製剤化のサイエンス
薬物動態学II
薬物動態学I
調剤学
物理薬剤学
薬物代謝学
臨床薬剤学II
臨床薬剤学I
臨床製剤学
C15
薬物治療I
役立つ情報
医薬品情報学
臨床検査学
医療安全性学
臨床医学特論
臨床医学概論
臨床薬理学特論
健康と環境
臨床栄養学特論
C12
環境
環境衛生学
公衆衛生学
C11
健康
衛生化学
食品衛生化学
C14
治療
薬理学特論
薬物治療学II
薬物治療学I
内科学総論
薬物作用学II
薬物作用学I
薬理学II
薬理学I
C13
薬の効くプロセス
医薬品毒性学
病気と薬の作用
臨床病態生化学
C7
が
す
東洋医学特論
生薬学
天然医薬品化学
天然薬物資源学
C6
生体分子・医薬品を化学で理解する
医薬品無機・放射化学
生体分析化学
生体有機化学
C9
生命をミクロに理解する
病理学
分子生物薬学
病態生理学
C10
生体防御
院内感染対策特論
免疫・感染症学特論
免疫・感染症学
微生物学
化学物質の合成と分析
機器分析学
C2
化学物質の分析
医薬品分析化学II
医薬品分析化学I
C5
ターゲット分子の合成
創薬有機化学II
創薬有機化学I
機能形態学II
機能形態学I
C8
生命の成り立ち
病態生化学II
病態生化学I
体の仕組の理解
C1
物質の物理的性
医薬品物理化学II
医薬品物理化学I
基礎数学
基礎物理化学
C4
化学物質の性質と反応
医薬品有機化学II
医薬品有機化学I
基礎化学
C3
生体分子の姿・形をとらえる
生化学II
生化学I
基礎生物学
物質の基本
生命の基本

（基礎資料５）語学教育の要素

科目名	開講年生	要素
英語講読ⅠA	1	
英語講読ⅠB	1	
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠA	1	
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠB	1	
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡA	2	
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡB	2	
薬学英語A	3	
薬学英語B	4	
医療薬学海外事情	6	

[注]　要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

	読み
	書き
	聞く
	話す

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年４月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	1日	春休				
	火	2日					
	水	3日					
	木	4日					
	金	5日					
第２週	月	8日	オリエンテーション期間中				
	火	9日					
	水	10日					
	木	11日					
	金	12日					
第３週	月	15日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
	火	16日					
	水	17日					
	木	18日					
	金	19日					
第４週	月	22日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
4月22日	火	23日					
	水	24日					
	木	25日					
	金	26日					
第５週	月	29日	祝日				
4月29日	火	30日					

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年５月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	6日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
5月6日	火	7日					
	水	8日					
	木	9日					
	金	10日					
第２週	月	13日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
5月13日	火	14日					
	水	15日					
	木	16日					
	金	17日					
第３週	月	20日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
5月20日	火	21日					
	水	22日					
	木	23日					
	金	24日					
第４週	月	27日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
5月27日	火	28日					
	水	29日					
	木	30日					
	金	31日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年６月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	3日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
6月3日	火	4日					
	水	5日					
	木	6日					
	金	7日					
第２週	月	10日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
6月10日	火	11日					
	水	12日					
	木	13日					
	金	14日					
第３週	月	17日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
6月17日	火	18日					
	水	19日					
	木	20日					
	金	21日					
第４週	月	24日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
6月24日	火	25日					
	水	26日					
	木	27日					
	金	28日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年７月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	1日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
7月1日	火	2日					
	水	3日					
	木	4日					
	金	5日					
第２週	月	8日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S401～S414、S501～S507、S601～S606
7月8日	火	9日					
	水	10日					
	木	11日					
	金	12日					
第３週	月	15日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701
7月15日	火	16日					
	水	17日					
	木	18日					
	金	19日					
第４週	月	22日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701
7月22日	火	23日					
	水	24日					
	木	25日					
	金	26日					
第５週	月	29日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606、S701
7月29日	火	30日					
	水	31日					
	木						
	金						

［注］　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年８月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	5日	定期試験				
8月5日	火	6日					
	水	7日					
	木	8日					
	金	9日					
第２週	月	12日	夏休				
8月12日	火	13日					
	水	14日					
	木	15日					
	金	16日					
第３週	月	19日	夏休				
8月19日	火	20日					
	水	21日					
	木	22日					
	金	23日					
第４週	月	26日	夏休				
8月26日	火	27日					
	水	28日					
	木	29日					
	金	30日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

［注］　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年９月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	2日	夏休				
9月2日	火	3日					
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日					
第２週	月	9日	夏休				
9月9日	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
第３週	月	16日	夏休				
9月16日	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日		講義　S101～S107	講義　S101～S107	講義　S101～S107	講義　S101～S107
第４週	月	23日			講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習　S601～S606	講義・演習　S601～S606
9月23日	火	24日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	25日					
	木	26日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	金	27日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
第５週	月	30日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～211、S301～S306	講義・演習S101～S107、S201～211、S301～S306
9月30日	火	1日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	2日					
	木	3日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	金	4日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年１０月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	7日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S401～S413、S601～S606、S501～S507	講義・演習S401～S413、S601～S606、S501～S507
10月7日	火	8日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	9日					
	木	10日					
	金	11日					
第２週	月	14日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習　S401～S414、S601～S606、 S501～S507	講義・演習　S401～S414、S601～S606、 S501～S507
10月14日	火	15日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	16日					
	木	17日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	金	18日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
第３週	月	21日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S401～S414、S501～S507、S601～S606
10月21日	火	22日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	23日					
	木	24日					
	金	25日					
第４週	月	28日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S401～S414、S501～S507、S601～S606	講義・演習S401～S414、S501～S507、S601～S606
10月28日	火	29日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	30日					
	木	31日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	金						
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年１１月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	4日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606
11月4日	火	5日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	6日					
	木	7日					
	金	8日					
第２週	月	11日		講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	講義・演習S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606
11月11日	火	12日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	水	13日					
	木	14日			講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606	講義・演習・実習　S201～S211 講義・演習・実習　S301～S306 講義・演習・実習　S401～S414 講義・演習　S501～S507 講義・演習・実習　S601～S606
	金	15日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
第３週	月	18日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306
11月18日	火	19日					
	水	20日					
	木	21日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	金	22日					
第４週	月	25日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S404	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S404
11月25日	火	26日					
	水	27日					
	木	28日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	金	29日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２５年１２月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	2日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S407	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S407
12月2日	火	3日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	水	4日					
	木	5日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	金	6日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
第２週	月	9日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S407	講義・演習S501～S507、S601～S606、S401～S407
12月9日	火	10日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	水	11日					
	木	12日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	金	13日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
第３週	月	16日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S401～S414、S601～S606、S501～S507	講義・演習S401～S414、S601～S606、S501～S507
12月16日	火	17日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	水	18日					
	木	19日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
	金	20日			総合実習　S701	総合実習　S701	総合実習　S701
第４週	月	23日	祝日				
12月23日	火	24日					
	水	25日					
	木	26日					
	金	27日					
第５週	月	30日	冬休				
12月30日	火	31日					
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２６年１月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	6日		講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義S101～S107、S201～S211、S301～S306	講義・演習S401～S411、S601～S606、S501～S507	講義・演習S401～S411、S601～S606、S501～S507
1月6日	火	7日					
	水	8日					
	木	9日					
	金	10日					
第２週	月	13日	祝日				
1月13日	火	14日					
	水	15日					
	木	16日					
	金	17日					
第３週	月	20日		定期試験			
1月20日	火	21日					
	水	22日					
	木	23日					
	金	24日					
第４週	月	27日	入学試験				
1月27日	火	28日					
	水	29日					
	木	30日					
	金	31日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２６年２月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	3日	春休				
2月3日	火	4日					
	水	5日					
	木	6日					
	金	7日					
第２週	月	10日	春休				
2月10日	火	11日					
	水	12日					
	木	13日					
	金	14日					
第３週	月	17日	春休				
2月17日	火	18日					
	水	19日					
	木	20日					
	金	21日					
第４週	月	24日	春休				
2月24日	火	25日					
	水	26日					
	木	27日					
	金	28日					
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２６年３月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	3日	春休				
3月3日	火	4日					
	水	5日					
	木	6日					
	金	7日					
第２週	月	10日	春休				
3月10日	火	11日					
	水	12日					
	木	13日					
	金	14日					
第３週	月	17日	春休				
3月17日	火	18日					
	水	19日					
	木	20日					
	金	21日					
第４週	月	24日	春休				
3月24日	火	25日					
	水	26日					
	木	27日					
	金	28日					
第５週	月	31日	春休				
3月31日	火						
	水						
	木						
	金						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

（基礎資料７）学生受入状況における志願者数等について

	学科名	入試の種類		平成21年度入試（20年度実施）	平成22年度入試（21年度実施）	平成23年度入試（22年度実施）	平成24年度入試（23年度実施）	平成25年度入試（24年度実施）	平成26年度入試（25年度実施）	入学定員に対する入学者数の比率（６年間の平均）
薬学部	医療薬学科	一般入試	志願者数	618	473	672	648	825	982	
			合格者数	177	258	200	214	204	139	
			入学者数 (A)	42	87	60	78	86	66	
			募集定員数 (B)	72	70	70	70	70	70	
			A/B*100 (%)	58.3%	124.3%	85.7%	111.4%	122.9%	94.3%	
		大学入試センター入試	志願者数	127	125	157	135	159	234	
			合格者数	21	36	33	39	48	44	
			入学者数 (A)	1	1	1	1	4	5	
			募集定員数 (B)	5	3	3	3	3	3	
			A/B*100 (%)	20.0%	33.3%	33.3%	33.3%	133.3%	166.7%	
		附属校推薦	志願者数	16	13	15	13	9	12	
			合格者数	16	13	15	13	9	12	
			入学者数 (A)	16	13	15	13	9	12	
			募集定員数 (B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100 (%)	160.0%	130.0%	150.0%	130.0%	90.0%	120.0%	
		指定校推薦	志願者数	7	6	9	8	9	7	
			合格者数	7	6	9	8	9	7	
			入学者数 (A)	7	6	9	8	9	7	
			募集定員数 (B)	6	6	6	6	6	6	
			A/B*100 (%)	116.7%	100.0%	150.0%	133.3%	150.0%	116.7%	
		公募推薦入試	志願者数	377	241	253	341	436	523	
			合格者数	70	63	69	57	98	98	
			入学者数 (A)	42	37	41	34	40	45	
			募集定員数 (B)	25	29	29	29	29	29	
			A/B*100 (%)	168.0%	127.6%	141.4%	117.2%	137.9%	155.2%	
		社会人入試	志願者数	3	1	5	2	2	0	
			合格者数	1	1	0	0	0	0	
			入学者数 (A)	1	1	0	0	0	0	
			募集定員数 (B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		留学生入試	志願者数	0	0	0	0	0	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数 (A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数 (B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		帰国生徒入試	志願者数	0	0	2	1	0	0	
			合格者数	0	0	0	1	0	0	
			入学者数 (A)	0	0	0	1	0	0	
			募集定員数 (B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		その他推薦入試（同窓子女対象）	志願者数	4	3	4	5	3	8	
			合格者数	1	1	2	0	2	1	
			入学者数 (A)	1	1	2	0	2	1	
			募集定員数 (B)	2	2	2	2	2	2	
			A/B*100 (%)	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	
		その他（協定校）	志願者数	1	1	1	1	1	1	
			合格者数	1	1	1	1	1	1	
			入学者数 (A)	1	1	1	1	1	1	
			募集定員数 (B)	0	0	0	0	0	0	
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		その他（教育連携校）	志願者数	2	2	3	4	3	2	
			合格者数	2	2	3	4	3	2	
			入学者数 (A)	2	2	3	4	3	2	
			募集定員数 (B)	0	0	0	0	0	0	
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	#DIV/0!	
学科計			志願者数	1,155	865	1,121	1,158	1,447	1,769	
			合格者数	296	381	332	337	374	304	
			入学者数 (A)	113	149	132	140	154	139	1.15
			募集定員数 (B)	120	120	120	120	120	120	
			A/B*100 (%)	94.2%	124.2%	110.0%	116.7%	128.3%	115.8%	

[注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。

2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

3 入試の種類ごとに「入学定員に対する入学者」の割合を算出してください。

4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

5 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

6 ６年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）○年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

（基礎資料８）教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	30 名
②設置基準において、必要な実務家教員数	5 名

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						
語学教育						
薬学基礎教育						
専門薬学教育	17 (4)	2	1	15	6	特別任用教授：4
実務実習教育	5 (3)		1			特別任用教授：2 みなし専任教員：1
小計	22	2	2	15	6	
専任教員数	41 (7)					

（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連		3	15	54 (5)	3	参与:1 次長:1 室長:1
法人業務関連						
小計						
事務職員数	75 (5)					

[注]

1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。

2 主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

3 該当する場合は、（ ）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6 (3) ＝６名のうち１名実務家教員、１名特任、１名みなし教員）

4 該当する場合は、（ ）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3 (1) ＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

6 専任教務補助員（例えば、いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料９）専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教　授	1 (0)	9 (1)	8 (0)	3 (1)			21
	4. 8%	42. 9%	38. 1%	14. 3%	%	%	100%
准教授			1 (1)	1 (0)			2
	%	%	50. 0%	50. 0%	%	%	100%
専任講師				1 (1)	1 (1)		2
	%	%	%	50. 0%	50. 0%	%	100%
助教				2 (1)	13 (8)		15
	%	%	%	13. 3%	86. 7%	%	100%
合計	1	9	9	7	14		40
	2. 5%	22. 5%	22. 5%	17. 5%	35. 0%	%	100%
定年年齢	65	歳					

[注] 1　上段には人数、下段には％を記入してください。

2　（　　）に女性の数を記入してください。（例示：2 (1) ＝２名のうち１名が女性）

3　「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	薬理学研究室	教授	ふじい たけし 藤井 健志	男	48	2005. 4. 1	2013. 4. 1	薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		京都大学大学院
								薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		薬学研究科
								薬理学特論	0. 3						0. 3	0. 0		薬学専攻
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士後期課程
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		博士（薬学）
								薬学研究Ⅰ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		修士（薬学）
								薬学研究Ⅱ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								薬学研究Ⅲ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								基礎生物学	2. 0						2. 0	0. 0		
								薬物作用学Ⅱ		2. 0					0. 0	2. 0		
								実務実習事前学習ⅡA		0. 4					0. 0	0. 4		
								薬効評価学特論	1. 6						1. 6	0. 0		
								計	3. 9	2. 4	0. 0	0. 1	13. 0	12. 4	16. 9	14. 9	15. 9	
医療薬学科	微生物薬品化学研究室	教授	かわさき きよし 川崎 清史	男	47	2006. 4. 1	2011. 4. 1	薬学英語Ⅲ			0. 7				0. 7	0. 0		東京大学大学院
								薬学英語B			0. 7				0. 7	0. 0		薬学系研究科
								微生物学実習					2. 0		2. 0	0. 0		生命薬学専攻
								微生物学実習					2. 0		2. 0	0. 0		博士課程修了
								免疫・感染症学	2. 0						2. 0	0. 0		博士（薬学）
								免疫・感染症学特論	0. 6						0. 6	0. 0		
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								薬学研究Ⅱ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								薬学研究Ⅲ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								微生物学	2. 0						2. 0	0. 0		
								免疫・感染症学		2. 0					0. 0	2. 0		
								実務実習事前学習ⅡA		0. 4					0. 0	0. 4		
								計	4. 6	2. 4	1. 4	0. 1	16. 4	12. 4	22. 4	14. 9	18. 7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	衛生化学研究室	教授	きづ りょういち 木津 良一	男	57	2005.4.1	2005.4.1	衛生薬学実習					1.0		1.0	0.0		金沢大学大学院
								衛生薬学実習					1.0		1.0	0.0		薬学研究科
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修士課程
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学博士
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		（名古屋市立大学）
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		薬学修士
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		（金沢大学）
								衛生化学		2.0					0.0	2.0		
								食品衛生化学	2.0						2.0	0.0		
								公衆衛生学	2.0						2.0	0.0		
								環境衛生学		2.0					0.0	2.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.5						0.5	0.0		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								計	4.6	4.0	0.0	0.1	14.4	12.4	19.0	16.5	17.8	
医療薬学科	生薬学研究室	教授	こにし てんじ 小西 天二	男	64	2005.4.1	2005.4.1	薬の発明・発見史Ⅱ		0.9					0.0	0.9		九州大学大学院
								生薬学実習						0.7	0.0	0.7		薬学研究科
								生薬学実習						0.7	0.0	0.7		植物薬品化学専攻
								東洋医学特論	0.5						0.5	0.0		修士課程
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士(昭和大学)
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学修士（九州大学）
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								天然薬物資源学		2.0					0.0	2.0		
								生薬学	1.0						1.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.4						0.4	0.0		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								計	2.0	2.9	0.0	0.1	6.4	7.8	8.4	10.8	9.6	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	生命物理化学研究室	教授	くわはら じゅん 桑原 淳	男	54	2005.4.1	2005.4.1	医薬品物理化学実習						0.7	0.0	0.7		京都大学大学院
								医薬品物理化学実習						0.7	0.0	0.7		薬学研究科
								ゲノム創薬特論	0.6						0.6	0.0		製薬化学専攻
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士後期課程
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学博士
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		薬学修士
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								医薬品物理化学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		
								医薬品物理化学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.4						0.4	0.0		
								計	3.0	2.0	0.0	0.1	6.4	7.8	9.4	9.9	9.7	
医療薬学科	臨床病態生化学	教授	まつの ひろゆき 松野 浩之	男	52	2005.4.1	2005.4.1	薬学英語Ⅲ			0.7				0.7	0.0		浜松医科大学大学院
								薬学英語B			0.7				0.7	0.0		医学研究科
								生化学実習					0.3		0.3	0.0		博士課程
								生化学実習					0.3		0.3	0.0		修了
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士（京都大学）
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士（医学）
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								病態生化学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
								病態生化学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
								臨床病態生化学	2.0						2.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								計	4.0	2.4	1.4	0.1	13.0	12.4	18.4	14.9	16.7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	臨床薬剤学	教授	もりた くにひこ 森田 邦彦	男	57	2005.4.1	2005.4.1	院内感染対策特論	0.9						0.9	0.0		京都薬科大学大学院
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		薬学研究科
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		薬学専攻
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修士課程
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学博士
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		薬学修士
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								早期体験学習			0.2	0.2			0.2	0.2		
								調剤学	1.0						1.0	0.0		
								臨床薬剤学Ⅰ		1.9					0.0	1.9		
								臨床薬剤学Ⅱ	1.5						1.5	0.0		
								実務実習事前学習ⅠB	0.5						0.5	0.0		
								実務実習事前学習ⅡB		0.8					0.0	0.8		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								実践的薬剤処方解析実習A					0.5		0.5	0.0		
								感染制御処方学特論		2.0					0.0	2.0		
								計	4.0	4.7	0.2	0.3	6.9	8.2	11.1	13.2	12.2	
医療薬学科	薬物治療学研究室	教授	むらかみ もとのぶ 村上 元庸	男	62	2004.4.1	2004.4.1	ライフプランニング		0.9					0.0	0.9		京都大学大学院
								薬物治療学実習					1.0		1.0	0.0		医学研究科
								薬物治療学実習					1.0		1.0	0.0		内科系専攻
								臨床医学特論A	1.0						1.0	0.0		博士課程
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		単位取得満期退学
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		医学博士
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								早期体験学習			0.2	0.2			0.2	0.2		
								臨床医学概論		2.0					0.0	2.0		
								薬物治療学Ⅰ	1.5						1.5	0.0		
								薬物治療学Ⅱ		1.5					0.0	1.5		
								内科学総論	2.0						2.0	0.0		
								臨床検査学	0.3						0.3	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								実務実習事前学習ⅡB		0.4					0.0	0.4		
								計	4.8	5.2	0.2	0.3	8.4	6.4	13.4	11.9	12.7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	臨床薬学教育研究センター	教授	なかにし ひろかず 中西 弘和	男	57	2009.4.1	2013.4.1	臨床薬理学特論	1.0						1.0	0.0		大阪薬科大学
								薬剤管理指導特論B	1.0						1.0	0.0		薬学部薬学科
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		卒業
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		博士（臨床薬学）
								病院実務実習					1.2	1.2	1.2	1.2		（明治薬科大学）
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					1.3	1.3	1.3	1.3		
								薬学研究Ⅱ					1.3	1.3	1.3	1.3		
								薬学研究Ⅲ					1.3	1.3	1.3	1.3		
								早期体験学習			0.2	0.2			0.2	0.2		
								調剤学	1.0						1.0	0.0		
								臨床薬剤学Ⅱ	0.5						0.5	0.0		
								臨床検査学	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習ⅠB	0.3						0.3	0.0		
								実務実習事前学習ⅡB		0.5					0.0	0.5		
								癌疾患関連処方学特論	2.0						2.0	0.0		
								計	5.9	0.5	0.2	0.3	5.3	7.1	11.4	7.9	9.7	
医療薬学科	生物薬剤学研究室	教授	しばた のぶひと 芝田 信人	男	51	2005.4.1	2005.4.1	薬剤学実習					0.7		0.7	0.0		京都薬科大学大学院
								薬剤学実習					0.7		0.7	0.0		薬学研究科
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		薬学専攻
								模擬病院・薬局実習						0.9	0.0	0.9		医療薬学コース
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬局実務実習					0.7	0.7	0.7	0.7		博士（薬学）
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学修士
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								早期体験学習			0.2	0.2			0.2	0.2		
								基礎物理化学	1.0						1.0	0.0		
								薬学概論	0.8						0.8	0.0		
								物理薬剤学	2.0						2.0	0.0		
								臨床製剤学		2.0					0.0	2.0		
								実務実習事前学習ⅠB	0.5						0.5	0.0		
								実務実習事前学習ⅡB		0.5					0.0	0.5		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								実践的薬剤処方解析実習A					1.6		1.6	0.0		
								生物薬剤学特論	2.0						2.0	0.0		
								計	6.4	2.5	0.2	0.3	9.9	8.7	16.5	11.5	14.0	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	医薬品製造化学研究室	教授	しらい りゅういち 白井 隆一	男	55	2005.4.1	2005.4.1	医薬品製造学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		東京大学大学院
								医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		薬学系研究科
								医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		博士課程
								創薬理論科学特論	0.3						0.3	0.0		製薬化学専門課程
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学修士
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		（東京理科大学）
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								医薬品有機化学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		
								医薬品有機化学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
								生体有機化学		2.0					0.0	2.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.4						0.4	0.0		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								計	4.8	4.0	0.0	0.1	12.4	13.2	17.2	17.3	17.3	
医療薬学科	薬物治療学研究室	教授	たかはし れい 高橋 玲	男	58	2009.4.1	2009.4.1	ライフプランニング		0.7					0.0	0.7		神戸大学大学院
								薬物治療学実習					1.0		1.0	0.0		医学研究科（病理系）
								薬物治療学実習					1.0		1.0	0.0		博士課程　中途退学
								臨床医学特論B	1.0						1.0	0.0		医学博士
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								機能形態学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
								機能形態学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
								病理学		2.0					0.0	2.0		
								薬物治療学Ⅰ	0.5						0.5	0.0		
								薬物治療学Ⅱ		0.5					0.0	0.5		
								臨床検査学	1.3						1.3	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								実務実習事前学習ⅡB		0.4					0.0	0.4		
								臨床治療薬効学特論	2.0						2.0	0.0		
								計	6.8	6.0	0.0	0.1	8.4	6.4	15.2	12.5	13.9	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目	毎週授業時間数								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	創薬理論科学研究室	教授	つちだ かつはる 土田 勝晴	男	63	2005.4.1	2005.4.1	薬理学実習					0.3		0.3	0.0		東京大学
								薬理学実習					0.3		0.3	0.0		薬学部
								創薬理論科学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		製薬学科
								創薬理論科学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		卒業
								薬理学特論	0.3						0.3	0.0		薬学博士
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬物作用学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								計	4.3	2.4	0.0	0.1	13.0	12.4	17.3	14.9	16.1	
医療薬学科	病態生理学研究室	教授	うるしだに てつろう 漆谷 徹郎	男	60	2005.4.1	2005.4.1	薬理学実習					0.3		0.3	0.0		東京大学大学院
								薬理学実習					0.3		0.3	0.0		薬学系研究科
								薬理学特論	0.3						0.3	0.0		生命薬学専攻
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士課程 中途退学
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学修士
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								病態生理学	2.0						2.0	0.0		
								薬理学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		
								医薬品毒性学		2.0					0.0	2.0		
								薬理学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
								医療安全性学	2.0						2.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								薬効安全性学特論		2.0					0.0	2.0		
								計	6.4	6.4	0.0	0.1	13.0	12.4	19.4	18.9	19.2	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	生化学研究室	教授	わだ かほん 和田 戈虹	女	47	2005.4.1	2011.4.1	薬学英語Ⅲ			0.7				0.7	0.0		東京大学大学院
								薬学英語B			0.7				0.7	0.0		理学系研究科
								生化学実習					0.3		0.3	0.0		植物学専攻
								生化学実習					0.3		0.3	0.0		博士課程
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士(理学)
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		理学修士
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								生化学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		
								生化学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
								分子生物薬学		2.0					0.0	2.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA	0.4						0.4	0.0		
								計	2.5	4.0	1.4	0.1	13.0	12.4	16.9	16.5	16.7	
医療薬学科	生薬学研究室	准教授	なかむら のりお 中村 憲夫	男	50	2006.4.1	2006.4.1	薬学英語A			0.7				0.7	0.0		金沢大学大学院
								薬学英語A			0.7				0.7	0.0		自然科学研究科
								薬学英語A			0.7				0.7	0.0		博士課程
								生薬学実習						0.7	0.0	0.7		修了
								生薬学実習						0.7	0.0	0.7		学術博士
								東洋医学特論	0.5						0.5	0.0		薬学修士
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								生薬学	1.0						1.0	0.0		
								天然医薬品化学		2.0					0.0	2.0		
								実務実習事前学習ⅠA	0.1						0.1	0.0		
								計	1.6	2.0	2.1	0.1	6.4	7.8	10.1	9.9	10.0	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目	毎週授業時間数								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	医薬品分析学研究室	准教授	やまうち ゆうじ 山内 雄二	男	44	2006. 4. 1	2006. 4. 1	薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		大阪大学大学院
								薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		薬学研究科
								薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		薬品化学専攻
								医薬品分析化学実習					1. 0		1. 0	0. 0		博士後期課程
								医薬品分析化学実習					1. 0		1. 0	0. 0		修了
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士(薬学)
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士(薬学)
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅱ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅲ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								基礎化学	2. 0						2. 0	0. 0		
								生体分析化学	2. 0						2. 0	0. 0		
								臨床検査学	0. 3						0. 3	0. 0		
								実務実習事前学習ⅡA		0. 4					0. 0	0. 4		
								計	4. 3	0. 4	2. 1	0. 1	8. 4	6. 4	14. 8	6. 9	10. 9	
医療薬学科	臨床薬剤学研究室	専任講師	まつもと かな 松元 加奈	女	36	2007. 10. 1	2007. 10. 1	院内感染対策特論	0. 1						0. 1	0. 0		大阪大学大学院
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		薬学研究科
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		修士課程
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		応用医療薬科学専攻
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		修士(臨床薬学)
								薬学研究Ⅰ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		博士(薬学)
								薬学研究Ⅱ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		(新潟薬科大学)
								薬学研究Ⅲ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								早期体験学習			0. 2	0. 2			0. 2	0. 2		
								臨床薬剤学Ⅰ		0. 1					0. 0	0. 1		
								医薬品情報学		2. 0					0. 0	2. 0		
								実務実習事前学習ⅠB	0. 5						0. 5	0. 0		
								実務実習事前学習ⅡB		0. 3					0. 0	0. 3		
								実践的薬剤処方解析実習A					0. 4		0. 4	0. 0		
								計	0. 6	2. 4	0. 2	0. 3	6. 8	8. 2	7. 6	10. 9	9. 3	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	生物薬剤学	専任講師	なるはし　かずまさ 成橋　和正	男	42	2005. 4. 1	2005. 4. 1	薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		岐阜薬科大学大学院
								薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		薬学研究科
								薬学英語A			0. 7				0. 7	0. 0		修士課程
								薬剤学実習					0. 7		0. 7	0. 0		（医療薬学コース）
								薬剤学実習					0. 7		0. 7	0. 0		修了
								薬物代謝学	2. 0						2. 0	0. 0		博士（薬学）
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		（金沢大学）
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士（薬学）
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅱ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅲ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬物代謝学		2. 0					0. 0	2. 0		
								実務実習事前学習ＩＢ	0. 8						0. 8	0. 0		
								計	2. 8	2. 0	2. 1	0. 1	7. 8	6. 4	12. 7	8. 5	10. 6	
医療薬学科	臨床薬学教育研究センター	特任教授	あなみ　せつこ 阿南　節子	女	63	2010. 4. 1	2010. 4. 1	薬業経済学	1. 5						1. 5	0. 0		武庫川女子大学大学院
								薬剤管理指導特論A	1. 0						1. 0	0. 0		薬学研究科
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		修士課程（社会人コース）
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		修了
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（薬学）
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士（薬学）
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		
								薬学研究Ⅱ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		
								薬学研究Ⅲ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		
								早期体験学習			0. 1	0. 1			0. 1	0. 1		
								薬業経済学		1. 5					0. 0	1. 5		
								実務実習事前学習ＩＢ	0. 3						0. 3	0. 0		
								実務実習事前学習ⅡＢ		0. 5					0. 0	0. 5		
								実践的薬剤処方解析実習A					0. 6		0. 6	0. 0		
								医薬品情報解析学特論	2. 0						2. 0	0. 0		
								計	4. 8	2. 0	0. 1	0. 2	4. 9	6. 1	9. 8	8. 3	9. 1	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	薬物動態学研究室	特任教授	いが　かつみ 伊賀　勝美	男	65	2005. 4. 1	2013. 4. 1	薬物動態学実習						1. 0	0. 0	1. 0		東京大学
								薬物動態学実習						1. 0	0. 0	1. 0		薬学部
								新薬開発特論	0. 8						0. 8	0. 0		薬学科
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		卒業
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（薬学）
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								薬学研究Ⅱ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								薬学研究Ⅲ					4. 0	4. 0	4. 0	4. 0		
								基礎物理化学	1. 0						1. 0	0. 0		
								薬学概論	0. 5						0. 5	0. 0		
								薬物動態学Ⅰ		2. 0					0. 0	2. 0		
								薬物動態学Ⅱ	2. 0						2. 0	0. 0		
								実務実習事前学習ＩＡ	0. 3						0. 3	0. 0		
								計	4. 6	2. 0	0. 0	0. 1	12. 4	14. 4	17. 0	16. 5	16. 8	
医療薬学科	生命物理化学研究室	特任教授	すぎうら　ゆきお 杉浦　幸雄	男	71	2005. 4. 1	2007. 4. 1	医薬品物理化学実習						0. 7	0. 0	0. 7		京都大学大学院
								医薬品物理化学実習						0. 7	0. 0	0. 7		薬学研究科
								遺伝子薬学		2. 0					0. 0	2. 0		修士課程　中途退学
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		薬学博士
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								薬学研究Ⅰ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅱ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								薬学研究Ⅲ					2. 0	2. 0	2. 0	2. 0		
								医薬品無機・放射化学	2. 0						2. 0	0. 0		
								実務実習事前学習ＩＡ	0. 3						0. 3	0. 0		
								健康科学概論	0. 1						0. 1	0. 0		
								計	2. 4	2. 0	0. 0	0. 1	6. 4	7. 8	8. 8	9. 9	9. 4	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	医薬品分析学研究室	特任教授	たにもと つよし 谷本 剛	男	66	2005.4.1	2012.4.1	薬の発明・発見史Ⅰ	2.0						2.0	0.0		大阪大学大学院
								医薬品分析化学実習					2.0		2.0	0.0		薬学研究科
								医薬品分析化学実習					2.0		2.0	0.0		応用薬学専攻
								ゲノム創薬特論	0.1						0.1	0.0		博士課程
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修了
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		薬学修士
								薬学研究Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅱ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								薬学研究Ⅲ					2.0	2.0	2.0	2.0		
								医薬品分析化学Ⅰ		2.0					0.0	2.0		
								医薬品分析化学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
								機器分析学		2.0					0.0	2.0		
								日本薬局方概論	2.0						2.0	0.0		
								実務実習事前学習ⅡA		0.4					0.0	0.4		
								インターンシップⅡ			1.0	1.0			1.0	1.0		
								レギュラトリーサイエンス特論	2.0						2.0	0.0		
								計	8.1	4.4	1.0	1.1	10.4	6.4	19.5	11.9	15.7	
医療薬学科	創薬有機化学研究室	特任教授	とみおか きよし 富岡 清	男	65	2010.4.1	2013.4.1	薬の発明・発見史Ⅱ		1.1					0.0	1.1		東京大学大学院
								医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		薬学系研究科
								医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		博士課程 修了
								創薬理論科学特論	0.3						0.3	0.0		薬学修士
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		薬学博士
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		
								薬学研究Ⅰ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅱ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学研究Ⅲ					4.0	4.0	4.0	4.0		
								薬学概論	0.5						0.5	0.0		
								創薬有機化学Ⅰ	1.7						1.7	0.0		
								創薬有機化学Ⅱ		1.7					0.0	1.7		
								実務実習事前学習ⅠA	0.3						0.3	0.0		
								健康科学概論	0.1						0.1	0.0		
								計	2.9	2.8	0.0	0.1	12.4	13.2	15.3	16.1	15.7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	臨床薬学教育研究センター	特任教授	やまもと いくよし 山本 育由	男	66	2007. 4. 1	2012. 4. 1	病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		東北大学大学院
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		薬学研究科
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		修士課程
								薬学研究Ⅰ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		修了
								薬学研究Ⅱ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		薬学修士
								薬学研究Ⅲ					1. 3	1. 3	1. 3	1. 3		
								早期体験学習			0. 1	0. 1			0. 1	0. 1		
								薬事法規・制度		2. 0					0. 0	2. 0		
								実務実習事前学習ⅠB	0. 3						0. 3	0. 0		
								実務実習事前学習ⅡB		0. 1					0. 0	0. 1		
								計	0. 3	2. 1	0. 1	0. 2	4. 3	4. 3	4. 7	6. 6	5. 7	
医療薬学科	病態生理学研究室	特任助教	あまがせ ようこ 天ヶ瀬 葉子	女	38	2009. 4. 1	2013. 4. 1	薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		英国立ケンブリッジ大学
								薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		生命科学系大学院
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士課程 修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		Ph.D.英国・ケンブリッジ大学
								計	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	1. 0	0. 4	1. 0	0. 4	0. 7	
医療薬学科	医薬品製造化学研究室	特任助教	えのもと てるみち 榎本 光伯	男	34	2008. 11. 1	2009. 4. 1	医薬品有機化学実習						0. 4	0. 0	0. 4		奈良先端科学技術大学
								医薬品有機化学実習						0. 4	0. 0	0. 4		院大学物質創成科学研
								創薬理論科学特論	0. 3						0. 3	0. 0		究科物質創成科学専攻
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士後期課程 修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（理学）
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		修士（工学）
								計	0. 3	0. 0	0. 0	0. 1	0. 4	1. 2	0. 7	1. 3	1. 0	
医療薬学科	臨床病態生化学研究室	特任助教	かんの ようすけ 菅野 陽介	男	35	2006. 11. 1	2008. 4. 1	生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		筑波大学大学院
								生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		生命環境化学研究科
								免疫・感染症学特論	0. 1						0. 1	0. 0		博士課程
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（理学）
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		
								計	0. 1	0. 0	0. 0	0. 1	1. 0	0. 4	1. 1	0. 5	0. 8	
医療薬学科	生化学研究室	特任助教	かわむら のぶゆき 川村 暢幸	男	35	2005. 4. 1	2008. 4. 1	生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		東京大学大学院
								生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		薬学系研究科
								免疫・感染症学特論	0. 1						0. 1	0. 0		機能薬学専攻
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士後期課程
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬学特別演習				0. 1			0. 0	0. 1		博士（薬学）
								実務実習事前学習ⅠA	0. 1						0. 1	0. 0		修士（薬学）
								計	0. 2	0. 0	0. 0	0. 1	1. 0	0. 4	1. 2	0. 5	0. 9	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	臨床病態生化学研究室	特任助教	かわした えり 河下 映里	女	31	2008. 4. 1	2012. 4. 1	生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		病院実務実習
								生化学実習					0. 3		0. 3	0. 0		薬局実務実習
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		徳島大学大学院
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		薬科学教育部
															0. 0	0. 0		創薬科学専攻
																		博士後期課程 修了
																		修士（薬学）
																		博士（薬学）
								計	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	1. 0	0. 4	1. 0	0. 4	0. 7	
医療薬学科	薬物動態学研究室	特任助教	きりやま あきこ 喜里山 暁子	女	46	2005. 4. 1	2008. 4. 1	薬物動態学実習						1. 0	0. 0	1. 0		京都薬科大学大学院
								薬物動態学実習						1. 0	0. 0	1. 0		薬学研究科
								新薬開発特論	0. 3						0. 3	0. 0		博士課程（前期）
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		薬学修士
															0. 0	0. 0		博士（薬学）
								計	0. 3	0. 0	0. 0	0. 0	0. 4	2. 4	0. 7	2. 4	1. 6	
医療薬学科	創薬有機化学研究室	特任助教	みやわき あかり 宮脇 あかり	女	30	2010. 4. 1	2013. 4. 1	医薬品有機化学実習						0. 4	0. 0	0. 4		徳島大学大学院
								医薬品有機化学実習						0. 4	0. 0	0. 4		薬科学教育部
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		創薬科学専攻
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士後期課程 修了
								創薬有機化学Ⅰ	0. 1						0. 1	0. 0		修士（薬学）
								創薬有機化学Ⅱ		0. 1					0. 0	0. 1		博士（薬学）
								計	0. 1	0. 1	0. 0	0. 0	0. 4	1. 2	0. 5	1. 3	0. 9	
医療薬学科	病態生理学研究室	特任助教	みずかわ ゆみこ 水川 裕美子	女	37	2005. 4. 1	2008. 4. 1	薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		東京大学大学院
								薬理学実習					0. 3		0. 3	0. 0		薬学系研究科
								薬理学特論	0. 1						0. 1	0. 0		博士課程（後期）
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（薬学）
																		修士（薬学）
								計	0. 1	0. 0	0. 0	0. 0	1. 0	0. 4	1. 1	0. 4	0. 8	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
医療薬学科	生物薬剤学研究室	特任助教	にしむら あさこ 西村 亜佐子	女	32	2005. 4. 1	2011. 4. 1	薬剤学実習					0. 7		0. 7	0. 0		京都薬科大学大学院
								薬剤学実習					0. 7		0. 7	0. 0		薬学研究科
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		臨床薬学専攻
								模擬病院・薬局実習						0. 9	0. 0	0. 9		博士課程（前期）修了
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士（臨床薬学）
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士（薬学）
								薬学概論	0. 1						0. 1	0. 0		
								実務実習事前学習ⅡB		0. 4					0. 0	0. 4		
								計	0. 1	0. 4	0. 0	0. 0	1. 8	2. 2	1. 9	2. 6	2. 3	
医療薬学科	生命物理化学研究室	特任助教	ねぎ しげる 根木 滋	男	43	2005. 4. 1	2008. 4. 1	医薬品物理化学実習						0. 7	0. 0	0. 7		同志社大学大学院
								医薬品物理化学実習						0. 7	0. 0	0. 7		工学研究科
								ゲノム創薬特論	0. 1						0. 1	0. 0		工業化学専攻
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士課程（後期）修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士（工学）
															0. 0	0. 0		博士（工学）
								計	0. 1	0. 0	0. 0	0. 0	0. 4	1. 8	0. 5	1. 8	1. 2	
医療薬学科	生薬学研究室	特任助教	おがわ ゆうこ 小川 優子	女	34	2007. 4. 1	2008. 4. 1	生薬学実習						0. 7	0. 0	0. 7		武庫川女子大学大学院
								生薬学実習						0. 7	0. 0	0. 7		薬学研究科
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		薬学専攻
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		博士後期課程 修了
															0. 0	0. 0		博士（薬学）
															0. 0	0. 0		修士（薬学）
								計	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 4	1. 8	0. 4	1. 8	1. 1	
医療薬学科	衛生化学研究室	特任助教	さなだ のりこ 眞田 法子	女	33	2005. 4. 1	2009. 10. 1	衛生薬学実習					1. 0		1. 0	0. 0		金沢大学大学院
								衛生薬学実習					1. 0		1. 0	0. 0		自然科学研究科
								ゲノム創薬特論	0. 1						0. 1	0. 0		博士後期（課程）
								病院実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		生命化学専攻 修了
								薬局実務実習					0. 2	0. 2	0. 2	0. 2		修士（薬学）
															0. 0	0. 0		博士（薬学）
								計	0. 1	0. 0	0. 0	0. 0	2. 4	0. 4	2. 5	0. 4	1. 5	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数								
									講義		演習		実験・実習・実技		計		
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
医療薬学科	生化学研究室	特任助教	たばた　ひろゆき 田畑　裕幸	男	39	2005.4.1	2008.4.1	生化学実習					0.3		0.3	0.0		京都大学大学院
								生化学実習					0.3		0.3	0.0		薬学研究科
								免疫・感染症学特論	0.1						0.1	0.0		生命薬科学専攻
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士課程(後期)修了
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士(薬学)
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		修士(薬学)
								実務実習事前学習ＩＡ	0.1						0.1	0.0		
								計	0.2	0.0	0.0	0.1	1.0	0.4	1.2	0.5	0.9	
医療薬学科	薬理学研究室	特任助教	たかとり　ゆき 高鳥　悠記	女	36	2005.4.1	2008.4.1	薬理学実習					0.3		0.3	0.0		京都大学大学院
								薬理学実習					0.3		0.3	0.0		薬学研究科
								薬理学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程(後期)修了
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		修士(薬学)
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士(薬学)
								計	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.4	1.1	0.4	0.8	
医療薬学科	創薬有機化学研究室	特任助教	やまもと　やすとも 山本　康友	男	33	2010.4.1	2010.9.1	医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		京都大学大学院
								医薬品有機化学実習						0.4	0.0	0.4		薬学研究科
								創薬理論科学特論	0.3						0.3	0.0		創薬科学専攻
								病院実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		博士後期課程
								薬局実務実習					0.2	0.2	0.2	0.2		中途退学
								薬学特別演習				0.1			0.0	0.1		修士(薬学)
								創薬有機化学Ⅰ	0.1						0.1	0.0		博士(薬学)
								創薬有機化学Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習ＩＡ	0.1						0.1	0.0		
								計	0.5	0.1	0.0	0.1	0.4	1.2	0.9	1.4	1.2	

[注]　1　「所属学科」には、（　）に兼担の学科名を記入してください。

2　「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3　「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、３学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4　「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：１コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）

5　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は担当教員２名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を２で除す。）　また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。（例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合）

5　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は

6　「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を２で割った年間平均の時間数を記入してください。

7　卒業研究は授業科目から除外してください。

（基礎資料11）卒業研究の配属状況

４年生の在籍学生数　　128 名

５年生の在籍学生数　　111 名

６年生の在籍学生数　　115 名

2013年5月1日現在

	配属講座名	指導教員数	４年生 配属学生数	５年生 配属学生数	６年生 配属学生数	合計	配属学生１名当たりの研究室の広さ（㎡）
1	薬理学研究室	2 (0)	8	5	8	21	6.47㎡
2	薬物治療学研究室	3 (1)	8	7	6	21	7.09㎡
3	病態生理学研究室	3 (0)	8	6	7	21	6.56㎡
4	臨床薬学教育研究センター	3 (0)	12	12	15	39	2.53㎡
5	生命物理化学研究室	3 (0)	8	6	8	22	6.18㎡
6	医薬品分析学研究室	3 (1)	8	6	6	20	7.44㎡
7	創薬有機化学研究室	3 (0)	6	7	5	18	7.63㎡
8	創薬理論科学研究室	1 (0)	7	7	5	19	3.77㎡
9	微生物薬品化学研究室	3 (2)	8	6	7	21	6.47㎡
10	生化学研究室	3 (0)	5	6	6	17	8.76㎡
11	臨床病態生化学研究室	3 (0)	8	6	6	20	6.89㎡
12	医薬品製造化学研究室	2 (0)	6	6	5	17	7.99㎡
13	生薬学研究室	3 (0)	8	6	4	18	8.27㎡
14	衛生化学研究室	3 (1)	8	6	6	20	6.89㎡
15	臨床薬剤学研究室	2 (0)	5	6	6	17	7.99㎡
16	生物薬剤学研究室	3 (0)	7	6	8	21	7.09㎡
17	薬物動態学研究室	3 (1)	8	7	7	22	6.26㎡
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
合　計		0	128	111	115	354	

[注]　1　卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

2　指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入し、その助手の数は（）内に記入してください。

3　講座制をとってない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

（基礎資料12）講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室　数	総面積(㎡)（A）	専用・共用の別	収容人員（総数）	利用学生総数（B）	利用学生１人当たり面積（㎡）（A/B）	備　考
京田辺キャンパス（全学共通）	講義室・演習室	104	10,249.44	共用	6,840	4,124	2.49	学芸学部音楽学科（学生数518） 学芸学部情報メディア学科(学生数574) 学芸学部国際教養学科（学生数360） 現代社会学部社会システム学科（学生数1,373） 現代社会学部現代こども学科（学生数466） 薬学部医療薬学科（学生数802） 文学研究科情報文化専攻（学生数4） 国際社会システム研究科国際社会システム専攻（学生数4） 薬学研究科医療薬学専攻（学生数3） 音楽専攻科（学生数20）
	実験・演習室	177	8,943.68	共用	2,266	4,124	2.17	
	学生自習室	17	1,002.60	共用	390	4,124	0.24	
	体育館	7	2,877.14	共用	—	4,124	0.70	
	講堂	1	2,891.74	共用	922	4,124	0.70	
	録音室・録画室	1	86.12	共用	4	4,124	0.02	
	情報システム課ヘルプデスク	1	94.60	共用	—	4,124	0.02	
	サーバー室	1	85.18	共用	—	4,124	0.02	
	ＡＶ室	2	307.91	共用	143	4,124	0.07	
	情報処理教室	6	555.64	共用	200	4,124	0.13	
	調整室	1	42.77	共用	—	4,124	0.01	
京田辺キャンパス	OSCE室	1	73.40	専用	30	805	0.09	
	共同機器室	3	209.06	専用	33	805	0.26	
	前処理室	1	9.27	専用	—	805	0.01	
	薬品庫	1	23.24	専用	—	805	0.03	
	保管庫	1	11.18	専用	—	805	0.01	
	NMR室	1	56.58	専用	1	805	0.07	
	洗浄室	1	32.73	専用	—	805	0.04	
	動物飼育室	6	92.40	専用	—	805	0.11	
	実験処理室	1	13.86	専用	—	805	0.02	

京田辺キャンパス	更衣室	1	9.53	専用	—	805	0.01	
	蹴込み	1	7.47	専用	—	805	0.01	
	管理室	2	54.05	専用	—	805	0.07	
	画像解析室	1	35.74	専用	—	805	0.04	
	廃棄物保管庫	3	22.62	専用	—	805	0.03	
	廃液処理室	1	15.04	専用	—	805	0.02	
	貯蔵室	1	12.60	専用	—	805	0.02	
	模擬薬局	1	273.74	専用	72	805	0.34	
	薬物動態学研究室分室	1	23.03	専用	4	805	0.03	
	臨床薬剤学　研究室	1	135.90	専用	30	805	0.17	
	生物薬剤学　研究室	1	148.87	専用	30	805	0.18	
	薬物動態学　研究室	1	114.76	専用	30	805	0.14	
	実習室	3	835.08	専用	318	805	1.04	
	準備室	3	52.38	専用	—	805	0.07	
	衛生化学研究室分室	1	23.03	専用	4	805	0.03	
	医薬品製造化学　研究室	1	135.90	専用	30	805	0.17	
	生薬学　研究室	1	148.87	専用	30	805	0.18	
	衛生化学　研究室	1	114.76	専用	30	805	0.14	
	臨床病態生化学研究室分室	1	23.03	専用	4	805	0.03	
	微生物薬品化学　研究室	1	135.90	専用	30	805	0.17	
	生化学　研究室	1	148.87	専用	30	805	0.18	
	臨床病態生化学　研究室	1	114.76	専用	30	805	0.14	

京田辺キャンパス	生命物理化学　研究室	1	135.90	専用	30	805	0.17	
	医薬品分析学　研究室	1	148.87	専用	30	805	0.18	
	創薬有機化学　研究室	1	137.41	専用	30	805	0.17	
	病態生理学研究室分室	1	23.03	専用	4	805	0.03	
	薬理学　研究室	1	135.90	専用	30	805	0.17	
	薬物治療学　研究室	1	148.87	専用	30	805	0.18	
	病態生理学　研究室	1	114.76	専用	30	805	0.14	
	模擬病室　（旧個人研究室）	1	21.16	専用	4	805	0.03	
	薬物治療学実習室　（模擬病室）	1	110.09	専用	50	805	0.14	
	倉庫　（W610c横）	1	23.65	専用	—	805	0.03	
	実習室・さく葉室	1	58.32	専用	4	805	0.07	
	薬学部付属　薬用植物園	1	49.90	専用	—	805	0.06	

[注]　1　６年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

2　全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

3　共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（Ｂ）」欄にもその数を含めて記入してください。

4　「利用学生１人当たり面積」は、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位まで記入してください。

5　例示のように適宜行を追加して作成してください。

（基礎資料13）学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合(%) A／B＊100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備　考
今出川キャンパス図書館	233	2,126	11.0%	ジェームズ館 スタディールーム	64	23	表象文化学部：英語英文学科(650) 日本語日本文学科(530) 生活科学部：人間生活学科(320) 食物栄養科学科(540) 文学研究科：英語英文学専攻博士課程(前期)(16)(後期)(12) 日本語日本文化専攻博士課程(前期)(20)(後期)(12) 生活科学研究科：生活デザイン専攻修士(10) 食物栄養科学専攻修士(16)
京田辺キャンパス図書館	574	3,674	15.6%	友和館 スタディールーム	46	15	学芸学部：音楽学科(480)情報ﾒﾃﾞｨｱ学科(480)国際教養学科（320） 現代社会学部：社会ｼｽﾃﾑ学科(1220)現代こども学科(400) 薬学部：医療薬学科（720） 文学研究科：情報文化専攻修士課程(10) 国際社会ｼｽﾃﾑ研究科：国際社会ｼｽﾃﾑ専攻修士課程(20) 薬学研究科：医療薬学専攻(4) 音楽専攻科：(20)
計	807	5,800	13.9		110	38	

[注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

（基礎資料14）図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数（数）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去３年間の図書受け入れ状況			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内）	内国書	外国書			平成22年度	平成23年度	平成24年度	
今出川図書館	196,304	182,005	396	122	6,947	1,072	3,066	3,949	4,302	
京田辺図書館	324,350	152,513	5,734	1,326	30,133		7,791	7,300	8,862	電子ジャーナルは今出川図書館に一括計上
計	520,654	334,518	6,130	1,448	37,080	1,072	10,857	11,249	13,164	

[注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

2 開架図書の冊数（内）は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、ＣＤ・ＬＤ・ＤＶＤ、スライド、映画フィルム、ＣＤ－ＲＯＭ等を含めてください。

4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬理学	職名 教授	氏名 藤井　健志
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成10年 4月	薬理学実習教育において、分子薬理学的手法に関する項目を新たに設け、最新の薬理学研究に触れる機会を設けた（現在まで継続中）。
		平成13年 4月	質が高く・効率が良い薬理学講義を行うために、コンピューターソフトウェア（主にマイクロソフトパワーポイント使用）及びプロジェクターを利用した講義を平成13年度より実施している。講義者間の講義内容を共通化でき、最新の薬理学進歩への更新が容易であることが特徴である（現在まで継続中）。
		平成13年 9月	学生による全14項目（教授技術、授業準備状況等）にわたる授業評価アンケートにおいて、全教員の平均点をすべての項目で0.1ポイント以上（最大0.9ポイント）上回る評価を得ており、学内水準以上の教育能力を備えているものと考えられる（現在まで継続中）。
		平成21年 4月	講義資料をパワーポイントで作成することにより、　講義内容の明確化および反復性を図っている。さらに、薬学部ＷＥＢ掲示板「Vivi-link」を活用することにより、講義時間外での補完教育を実践中である（現在まで継続中）。
2　作成した教科書、教材、参考書 （教材）		平成21年 4月	講義に使用したスライド資料および追加・補足資料のすべてを薬学部ＷＥＢ掲示板「Vivi-link」にて公開している（現在まで継続中）。
（教科書） (1) 最新基礎薬理学（第３版）（廣川書店）		平成23年 10月	局所麻酔薬、および中枢神経系に作用する薬物のうち、中枢性筋弛緩薬、パーキンソン病治療薬、抗うつ薬、抗躁病薬、統合失調症治療薬、抗不安薬、精神賦活薬、中枢興奮薬、脳機能・代謝賦活薬、鎮うん薬について、最新の治療薬の作用メカニズムと臨床応用について執筆した。 担当部分：第3章体性神経系に作用する薬物：pp. 89-106、第4章中枢神経系に作用する薬物：pp. 143-176 共著者：担当部分は単著
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		平成16年 3月	大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムへの参加し、教育問題の現状認識と解決策を提案している（現在も継続中）。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Acetylcholine synthesis and release in NIH3T3 cells co-expressing the high-affinity choline transporter and choline acetyltransferase (査読付)	共著	平成21年10月	Journal of Neuroscience Research Vol. 87
(論文) Mediatophore regulates acetylcholine release from T cells (査読付)	共著	平成24年3月	Journal of Neuroimmunology Vol. 244 pp. 16-22
(論文) Reconciling neuronally and nonneuronally derived acetylcholine in the regulation of immune function (査読付)	共著	平成24年7月	Annals of the New York Academy of Sciences Vol. 1261 pp. 7-17
(論文) Critical roles of acetylcholine and the muscarinic and nicotinic acetylcholine receptors in the regulation of immune function (査読付)	共著	平成24年11月	Life Sciences Vol. 91 pp. 1027-1032
(論文) Regulatory mechanisms of acetylcholine synthesis and release by T cells (査読付)	共著	平成24年11月	Life Sciences Vol. 91 pp. 981-985

III　学会等および社会における主な活動

昭和63年　4月	日本薬理学会会員（現在に至る）
平成 3年　4月	日本薬学会会員（現在に至る）
平成 5年　4月	日本神経科学会会員（現在に至る）
平成 5年　4月	高血圧自然発症ラット学会会員（現在に至る）
平成 6年　1月	日本神経免疫学会会員（現在に至る）
平成10年　4月	日本薬理学会評議員（現在に至る）
平成10年 10月	米国神経科学会会員（現在に至る）

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　同志社女子大学	講座名　微生物薬品化学	職名　教授	氏名　川崎　清史

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		特記すべき事項なし
2　作成した教科書、教材、参考書 (1)薬学領域の病源微生物学・感染症学・化学療法学　第2版	平成21年 11月	薬学部6年制課程への制度改革にあわせ、微生物関連領域で必要とされる教育内容（感染症とその予防法・治療法）をまとめた薬学部学生向けの教科書の第2版。「感染症を理解するための免疫学・生体防御の基礎」と「感染症の発症機構」の稿を分担担当した。 編者：西島正弘、後藤直正、増澤俊幸、河村好章 分担執筆者：奥田潤、川崎清史、河村好章、黒川昌彦、後藤直正、塩田澄子、舘田一博、谷佳津治、西島正弘、林哲也、平田隆弘、福井貴史、細川正清、増澤俊幸、村山次哉、森田邦彦、山中浩泰、横田好子、綿矢有佑
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成19年度～現在まで 平成24年3月 平成25年3月	授業評価報告を行っている FDレポート第5号「薬学部「天然薬物資源学」（小西天二先生）の授業を参観して」投稿 FDレポート第6号「薬学部「衛生化学」（木津良一先生）の授業を参観して」投稿

Ⅱ　研究活動			
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Extracellular loops of lipid A 3-*O*-deacylase PagL are involved inrecognition of aminoarabinose-based membrane modifications in *Salmonella enterica* serovar Typhimurium（査読付）	共著	平成20年 8月	Journal of Bacteriology Vol. 190 No. 16 pp. 5597-5606
(論文) Salmonella enterica serovar Typhimurium lipopolysaccharide deacylation enhances its intracellular growth within macrophages（査読付）	共著	平成22年1月	FEBS letters Vol. 584 pp. 207-212
(論文) Mutations in the lipid A deacylase PagL which release the enzyme from its latency affect the ability of PagL to interact with lipopolysaccharide in *Salmonella enterica* serovar	共著	平成22年6月	Biochemical and Biophysical Research Communications Vol. 396 pp. 812-816
(論文) Latency of the lipid A deacylase PagL is involved in producing a robust permeation barrier in the outer membrane of Salmonella enterica（査読付）	共著	平成22年11月	Journal of Bacteriology Vol. 192 No. 21 pp. 5837-5840
(論文) Lipid A 3′-O-deacylation by Salmonella outer membrane enzyme LpxR modulates the ability of lipid A to stimulate Toll-like receptor 4（査読付）	共著	平成24年11月	Biochem. Biophys. Res. Commun. vol. 428, pp. 343-347

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
平成24年6月9日～平成25年3月31日 平成25年6月28日～平成26年3月31日	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　衛生化学	職名　教授	氏名　木津　良一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
(1) 主査となった博士論文		
(2) 主査となった修士論文		
(3) マルチメディア機器の活用	平成10年4月 ～ 現在	環境とヒトとの相互作用、化学物質の環境循環、化合物質とタンパク質の立体構造と相互作用の様式の理解等は、衛生薬学及び関連領域の知識を習得するうえで不可欠であるが、板書だけでは複雑な図式を的確に表現することは難しいので、マルチメディアプロジェクターを活用し、カラー表示は勿論であるが、化学物質・タンパク質構造の立体表示、動画表示等をできるだけ取り入れて、学生の理解が深まるよう工夫している。プロジェクターで表示した部分については、ノートを取るのが難しい場合が多いので、動画部分等印刷表示ができない部分を除いて、できるだけ印刷してプリントを配ることにしている。
(4) 学習課題の提示（授業外における学習促進に向けた取り組み）	平成12年4月 ～ 現在	衛生薬学及び関連領域の知識を十分に習得するには、授業の時間に加えて、授業外における学習（予習・復習）が不可欠である。シラバスには各回の講義の概要及び学習目標（到達目標）が記載されているので、授業の授業外における学習の促進に向けて、先ず第１回目の授業の際に学習目標を達成できたか否かをチェックできる小問題を100問ほど提示し、その後は授業の都度、今回の授業の復習と次回の授業の予習に対応する問題を数問選択して、次回の授業までにレポートとして提出させるようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
(1) ベーシック薬学教科書シリーズ12　環境（化学同人）	平成20年10月	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠するとともに、薬学部学生を対象とした基礎的な教科書であることを目指して作成されたベーシック薬学教科書シリーズの中の一冊として刊行されたものである。本書は、衛生薬学の「環境」領域のなかでも特に毒性学と生活環境と健康について解説したものである。毒性学では、異物の体内動態、遺伝子毒性、器官毒性、薬物中毒など、生活環境と健康では、地球環境、水環境、大気環境、室内環境、環境保全などについて記述している。すべての薬学生が身につけておかねばならない基礎的な知識や主要な問題を理解できるように、内容を十分に吟味・厳選しているほか、薬学生の勉学意欲を高め、自学自習にも努められるように工夫が施されている。 担当部分：Part II 生活環境と健康（pp. 131-279） 編者：武田　健、太田　茂 共著者：木津良一、光本篤史
(2) CBT対策と演習　衛生薬学 II（廣川書店）	平成21年4月	本書は、薬学部２～４年生の学生を対象として、薬学共用試験ＣＢＴの準備のために基礎的な知識を確認する問題集であることを目指して作成されたCBT対策と演習シリーズの中の一冊として刊行されたものである。本書は、衛生薬学の「健康」領域では公衆衛生学領域、「環境」領域では環境科学領域について多くの問題を提示している。いずれの問題においても、すべての薬学生が身につけておかねばならない基礎的な知識や主要な概念を理解できるように、内容を十分に吟味・厳選しているほか、薬学生の勉学意欲を高め、自学自習にも努められるように工夫が施されている。 担当部分：pp. 3-62 編者：薬学教育研究会 共著者：非公開

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 学生による授業評価	平成15年2月 ～ 現在	化学物質・タンパク質の立体構造や全地球的規模で問題となっている環境問題の実際などは、板書だけでは的確に表現することは難しいので、マルチメディアプロジェクターを活用し、動画表示等も取り入れて、学生の理解が深まるよう工夫している。プロジェクターで表示した部分については、ノートを取るのが難しい場合が多いので、動画部分等印刷表示ができない部分を除いて、できるだけ印刷してプリントを配るなどの工夫を行っている。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Activation of 5-lipoxygenase and NF-kB in the action of acenaphthenequinone by modulation of oxidative stress （査読付）	共著	2008年1月	Toxicological Sciences Vol. 101 No. 1 pp. 152-158
(論文) Repression of activated aryl hydrocarbon receptor-induced transcriptional activation by 5α-dihydrotestosterone in human prostate cancer LNCaP and human breast cancer T47D cells （査読付）	共著	2009年2月	Journal of Pharmacological Sciences Vol. 109 No. 3 pp. 380-387
(論文)　キノン型多感芳香族炭化水素による活性酸素種の生成とNF-κBの活性化およびシクロオキシゲナーゼ-2の誘導発現 （査読付）	共著	2010年3月	総合文化研究所紀要 第27巻 pp. 149-155
(論文)　胎生期・授乳期3-メチルコランスレン暴露による新生マウスの記憶・学習機能に関する研究 （査読付）	共著	2012年3月	総合文化研究所紀要 第29巻 pp. 239-244
(論文)　胎生期及び授乳期海馬由来培養神経幹細胞の生存に対する3-methylcholanthreneの影響に関する研究 （査読付）	共著	2013年7月	総合文化研究所紀要 第30巻 pp. 162-168

III　学会等および社会における主な活動

平成17年4月 ～	日本薬学会近畿支部幹事
平成19年4月 ～ 平成21年3月	日本学術振興会 科学研究費　審査委員
平成19年4月 ～ 平成22年3月	日本薬学会　Journal of Health Science 編集委員
平成23年4月 ～ 平成25年3月	日本薬学会　幹事
平成25年4月 ～ 現在	厚生労働省 薬剤師国家試験　試験委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生薬学	職名 教授	氏名 小西 天二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
小テスト，中間試験の実施	2005年5、6月 11、12月～現在	授業を確実に理解しているかどうかを確認するために小テスト，中間試験を実施。
実物を配布閲覧	2009年4月～現在	講義時に実物を配布閲覧し，興味が湧くようにしている.
アンケートによる授業の改善	2006年4月～現在	学生授業アンケート結果（自由記述）により指摘を受けた箇所を次回より改善している。
2　作成した教科書、教材、参考書	2005年4月～現在	天然薬物資源学の講義に対する独自に作成した教科内容プリントを配布。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2012年11月 2013年9月	「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」に参加 2013年度同志社女子大学　FD講習会に参加
（その他）		
研究室配属学生の指導	1980年4月～現在	毎年研究室へ配属される4年生の卒業研究を指導している。また、大学院生に対しては研究指導及び論文作成、学会発表に対する指導をする。卒業後の社会へ出る準備のために、集団内でのそれぞれの立場及び上司への対応、物事の考え方等も、研究を通して指導する。
実験実習の指導	1980年4月～現在	2年生に対して研究室担当科目の実習の指導を行う。 必修専門科目に対する実習の講義並びに直接指導を行う。90名近い学生に数種の植物から成分の抽出及び単離の実験操作、装置の組み方、さらには漢方処方生薬の観察等を指導する。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
(著書) 薬学生のための薬用植物学・生薬学テキスト	共著	平成21年2月	廣川書店
(著書) 薬用植物ガイド	共著	平成22年4月	トンボ出版
(論文) Oxypinnatanine promotes non-rapid eye movement sleep in mice	共著	平成23年７月	Sleep Biol Rhythms Vol. 11, 45-50
(論文) Variation of Body Temperature after Administration of Amino Acid Amides	共著	平成25年1月	Research Journal of Phytochemistry, Vol. 7, No. 1 10-17
(論文) N-Glycosides of Amino Acid Amides from *Hemerocallis fulva* var. *sempervirens*	共著	平成21年10月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin Vol. 57 No. 10 1110-1112

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2009年4月～現在	生薬分析シンポジウム　幹事
2011年4月～現在	京都府薬務課主催　「薬草に親しむ会」講師
2012年4月～2014年3月	日本生薬学会関西支部　支部長
2012年１月～現在	日本薬学会　代議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生命物理化学	職名　教授	氏名　桑原　淳

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
研究室所属学生に対する基礎トレーニング	2008年4月～現在	研究室配属学生に対して生化学や生物物理学の基礎知識・実験の習得を目的として実施。研究遂行上の注意点を指導。
プログレスレポートミーティング	2008年4月～現在	実験データに基づいて研究の方向性を討論。
研究室セミナー	2008年4月～現在	最先端の論文紹介。
研究発表会	2008年4月～現在	研究室配属全学生を対象に、セミナーと研究報告を実施、プレゼンテーションの訓練を兼ねている。
講義用プリント・ハンドアウト配布	2008年4月～現在	PowerPointスライドの提示、ハンドアウトの配布、と要所での板書実施。
講義理解のための問題演習	2008年4月～現在	講義の単元が終了する毎に問題・解答プリントを配布。学生の自主的な理解を深めさせる。
講義での授業動画 Vivi-Link の活用	2008年4月～現在	講義内容の復習。課題や連絡事項の提示。
出席カードを利用した講義に関する学生とのコミュニケーションとオフィスアワーの設置	2008年4月～現在	出席カードへ記入された質問事項・要望を講義にフィードバック。同カードを利用したミニテストの実施。オフィスアワーに、講義内容の疑問点等について応対。
学生による授業アンケートの結果に対する自己評価	2008年4月～現在	アンケート結果並びに自由記述欄も参考に、講義や教材にフィードバック。
2　作成した教科書、教材、参考書		
講義用プリント・ハンドアウト	2008年4月～現在	医薬品物理化学Ⅰ・Ⅱの講義用。複数の教科書、専門書や論文を参考に独自の視点に立って学問体系を表現する目的で作成。基礎事項の理解と最新科学の流れにも言及。
医薬品物理化学実習書	2008年4月～現在	医薬品物理化学実習用。講義・医薬品物理化学Ⅰ・Ⅱの基礎事項の確認とＰＣを利用した遺伝子・蛋白質の基礎的なバイオインフォーマティクスを含む。
医学大辞典（医学書院）（第2版）	2009年2月	伊藤正男、井村裕夫、高久史麿監修。遺伝子発現調節分野を中心に分担執筆。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
FDレポート 創刊号　同志社女子大学教育・研究推進センター	2008年3月	FD関係図書の推薦「授業をどうする！カリフォルニア大学バークレー校の授業改善のためのアイデア集」
FDレポート 第2号　同志社女子大学教育・研究推進センター	2009年3月	薬学教育の組織的な取組み「薬学部における研究学習支援システム構築の取組み」2008年度事業に関わる報告「FDに関するアンケートの実施結果について」

4　その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
教育・研究推進センター主任	2008年4月～2009年3月	2008年度 FD講演会の主催に関わる
2008年度FD講演会	2008年7月	「FDの義務化とこれからの大学教育」への参加協力
入学センター主任	2009年4月～2011年3月	入学センター業務に関わる。
オープンキャンパスでの体験実習	2012年7月	参加者向けに体験実習「目で見るナノバイオロジーの世界」の実施。
2013年度FD講習会	2013年9月	「学生の目の色が変わる授業の仕方を内緒で教えます！」への参加

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Role of zinc finger structure in nuclear localization of transcription factor Sp1	共著	平成21年2月	*Biochemical and Biophysical Research Communications* Vol. 380 No. 1, 28-32.
(著書) 医学大辞典（第2版）	分担執筆	平成21年2月	医学書院
(論文) Interaction of Sp1 zinc finger with transport factor in the nuclear localization of transcription factor Sp1	共著	平成22年10月	*Biochemical and Biophysical Research Communications* Vol. 403 No. 2, 161-166.
(論文) Interaction between isolated transcriptional activation domains of Sp1 revealed by heteronuclear magnetic resonance.	共著	平成24年9月	*Protein Science* Vol. 21 No. 10, 1481-1488.

III　学会等および社会における主な活動

2010年～	金属の関与する生体関連反応シンポジウム　評議員
2012年～	日本私立薬科大学協会　第98回　薬剤師国家試験問題検討委員会 「物理・化学・生物」部会　担当

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　臨床病態生化学	職名 教授	氏名 松野 浩之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2005年4月～	時事問題から生命科学に関する事象をreal timeで抽出した対話形式の講義
	2006年5月～	少人数性の実習を各自テーマを自ら抽出させ両方向性の自主的な解剖実習を行った。
	2006年10月～	臨床指導型の症例を抽出し病態の解説を細部に分類、自主学習にチュートリアル方式を導入
2　作成した教科書、教材、参考書 シンプル薬理学　　南江堂	2008年11月	医療関係者（医学部・薬学部・看護）で薬理学を学ぶ学生を対象に高脂血症の病態の解説と治療薬について説明した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2001年度以降	チュトーリアル教育に関する学生の評価で毎年平均4.3以上の（5段階評価）高い評価を得た。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2005年～	異種分野（医学・看護）での教育経験は薬学教育における新たな発見と貢献の可能性を示してくれる。前任での経験をふまえて、看護大学、医師会看護学校、医学部大学院などの講義について時間的な余裕がある場合に積極的に参加し学生教育に貢献している。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Correlation Between Albuminuria and Spontaneous Platelet Microaggregate Formation in Type 2 Diabetic Patients	共著	2009年11月	Diabetes Care Vol.32 No.11 2062-2067
（論文）Prostaglandin E2 reverses aberrant production of an inflammatory chemokine by microglia from Sandhoff disease model mice through the cAMP-PKA pathway	共著	2011年1月	PLoS One 6巻1号 16269-16275
（論文）The absence of urokinase-type plasminogen activator receptor plays a role in the insulin-independent glucose metabolism	共著	2011年3月	J Cardiovasc Pharmacol 57巻3号 334-339
（論文）Plasminogen/plasmin modulates bone metabolism by regulating the osteoblast and osteoclast function.	共著	2011年5月	J Biol Chem. 286巻11号 8952-8960
（論文）A synthetic peptide derived from staphylokinase enhances plasminogen activation by tissue-type plasminogen activator	共著	2011年5月	J Thromb Haemost 9巻5号 997-1006

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1993年7月～	国際血栓止血学会
1992年10月～	国際線溶学会

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　同志社女子大学	講座名　臨床薬剤学	職名　教授	氏名　森田　邦彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） (1) 臨床現場での薬物療法の実例教育	平成2年～現在	薬学生に対して、患者診療録（カルテ）及び薬物血中濃度モニタリング（TDM）結果報告書等、実際の臨床症例に関する（患者名等は厳重に隠蔽）資料を用い、臨床検査データや患者容態推移等を判読しながら、薬物療法の適正化に向けて薬剤師が取り組んだ実践例についてQandA形式で解説している。また、医療の現場で汎用される薬剤について、対象疾患ごとの用法用量の差違や発現する副作用の実態について、いずれも臨場感を醸し出しての解説を常に心がけている。
(2) 医療チームにおける薬剤師の職能を多角的に考察させる教育	平成7年～現在	薬剤師が“臨床”に進出し始めた1980年代初頭以来の歴史的流れを解説した上で、今日の薬剤師がともすれば見失いがちな本来の能力発揮の方向性を教示する。例えば旅客機の安全運航に従事する様々な職種の使命感との対比を通して、薬剤師がある時は医師や看護師と協調し、またある時は薬の専門家として独立した立場で個々の患者の薬物療法の最適化に向けて医師に働きかける必要性を、具体的実例の紹介を通して学生に教授する。 “服薬指導”と言えば病棟業務の代名詞のようにイメージされていた90年代とは大きく様変わりし、近年は特に癌化学療法の領域で、抗癌剤の注射薬混合とその処方及び副作用チェックのほか、癌性疼痛緩和に用いられる麻薬の用量調節やその副作用対策等が病棟担当薬剤師の主要な役割として重要視されはじめている。このような新たな薬剤師の職能を実践例を示しながら教示し、世の中が求めている薬剤師像をイメージさせる。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) 薬学生・新人薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 2008年版 編集：日本薬学会 発行：じほう（東京）	平成21年3月	薬学教育の一助として国家試験対策に必要な最低限の基本線を保ちつつ、臨床の場での汎用性を考慮して薬学教育で教える必要があると考えられる医薬品を選定し、簡潔に必須事項を網羅した。特に、薬効群別の薬理学解説、主要な疾患治療ガイドライン、併用禁忌一覧、重大な副作用を起こす主な医薬品、安全性モニタリングのための臨床検査、妊娠時に注意すべき医薬品一覧、抗生物質・抗菌薬の抗菌スペクトル表、TDM対象薬とピーク値とトラフ値の一覧を収載し、実務に直結した解説書である。 担当部分：各薬剤の体内動態特性と、TDM対象薬物一覧。
(2) わかりやすい調剤学（第6版） 編集：岩川精吾、河島進、安原眞人、横山照由 発行：廣川書店（東京）	平成22年3月	薬学生向けの教材として編集された本書の中で、筆者は第5版と第6版ともに第7章の「薬品管理」の執筆を担当し、薬品管理の概論、購入管理の実際、病院の薬剤部門や保険薬局での医薬品の保管（在庫）・供給・使用管理の実際、病棟や手術室あるいは患者宅での医薬品の保管・供給・使用管理の実際について詳説した。 担当部分：第7章「薬品管理」（pp. 241-264）
(3) MRSA―基礎・臨床・対策―（改訂版） 編集：河野茂 発行：医薬ジャーナル社（東京）	平成22年8月	医療現場で感染症の予防および治療に携わる医師や薬剤師を対象とした専門書である。筆者は本書の初版ならびに改訂版の中で、第6章MRSA感染症の治療薬のうち、「PK-PDを考慮した抗菌薬の投与法」を担当し、PK-PDパラメータによる各種抗菌薬の分類のほか、各論としてわが国で抗MRSA薬として汎用されているアルベカシン、バンコマイシン、テイコプラニンおよびリネゾリドの4種のPK-PD関連情報を詳説した。 担当部分：第6章MRSA感染症の治療薬　3．「PK-PDを考慮した抗菌薬の投与法」（pp. 192-200）

(4) 製剤学（改訂第6版） 編集：四ツ柳智久、檀上和美、山本昌 発行：南江堂（東京）	平成24年4月	薬学生向けの教材として編集された本書の中で、筆者は薬物の生体内動態の章のうち、Therapeutic Drug Monitoring (TDM)の項を担当し、実際に医療現場で求められるTDM関連の臨床知識、すなわち薬物血中濃度と薬効、TDMデータの解析に必要な患者情報、薬物血中濃度の測定法および主な薬物のTDMの実際について分担執筆した。 担当部分：第6章薬物の生体内動態のうち、6－6「Therapeutic Drug Monitoring (TDM)」（pp. 337-354)
(5) 薬学領域の病原微生物・感染症学・化学療法学（初版、第2版） 編集：西島正弘、後藤直正、増澤俊幸、河村好章 発行：廣川書店	平成19年5月 平成21年11月	薬学生向けの教材として編集された本書の中で、筆者は第４章「薬剤耐性と抗菌薬の適正使用」のうち、PK-PDパラメータによる各種抗菌薬の分類のほか、各論としてわが国でTDM対象薬として汎用されているアミノグリコシド系およびグリコペプチド系抗菌薬についてPK-PD関連情報を詳説した。 担当部分：第4章薬剤耐性と抗菌薬の適正使用のうち、4.4「抗菌薬の薬物動態学（PK)および薬力学（PD)」（pp. 344-348)
(6) 日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD 監修：戸塚恭一 発行：ユニオンエース（東京）	平成22年3月	医療現場で感染制御に携わる医師や薬剤師を対象とした専門書である。筆者は本書の中で、第11章「TDMが必要な抗感染症薬とTDMの実際」を担当し、PK-PDパラメータによる各種抗菌薬の分類のほか、各論としてわが国でTDM対象薬として汎用されているアミノグリコシド系およびグリコペプチド系抗菌薬のほか、アゾール系抗真菌薬のボリコナゾールについてPK-PD関連情報を詳説した。 担当部分：第11章「TDMが必要な抗感染症薬とTDMの実際」（pp. 91-106)
(7) 感染症のチーム医療　専門医の処方意図を探れ 編集：三笠桂一、森田邦彦 発行：南江堂	平成24年11月	医療現場で感染制御や治療に携わる主として薬剤師を対象とした専門書である。さまざまな診療領域全般にわたって特徴ある感染症と抗菌薬あるいは抗真菌薬による薬物治療の実践的内容を網羅した。筆者は編者の一人として本書の内容全般を統括した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 (1) 模擬患者の養成	平成19年10月～	服薬指導に関する演習や実習に参加いただく模擬患者を養成すべく模擬患者養成講習会を開催している。

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD	共著	平成22年3月	戸塚恭一（編）ユニオンエース（東京）
(論文) Single-institute phase 2 study of thalidomide treatment for refractory or relapsed multiple myeroma: Prognostic factors and unique toxicity profile. (査読付)	共著	平成20年6月	Cancer Science Vol. 99 pp. 1243-1250
(論文) Comparison between concentrations of amphotericin B in infected lung lesion and in uninfected lung tissue in a patient treated with liposomal amphotericin B (AmBisome). (査読付)	共著	平成21年12月	International Journal of Infectious Diseases Vol. 14 e220-e223
(論文) Thrombocytopenia and anemia caused by a persistent high linezolid concentration in patients with renal dysfunction (査読付)	共著	平成22年6月	Journal of Infection and Chemotherapy 17 pp. 76-79
(論文) Influence of linezolid clearance on the induction of thrombocytopenia and reduction of hemoglobin	共著	2011年12月	The American Journal of the Medical Sciences 342巻6号pp. 60-64

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2005年4月～現在	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師
2005年1月～現在	日本医療薬学会認定・指導薬剤師
2003年10月～現在	ICD制度協議会認定Infection Control Doctor
2010年9月～2012年3月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
2010年9月～2012年3月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
2013年4月～現在	厚生労働省薬剤師国家試験委員
2008年4月～現在	日本化学療法学会抗菌化学療法認定医制度審議委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬物治療学	職名 教授	氏名 村上 元庸

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
学生に対する臨床医学、薬学講義	2008年4月～現在	講義、実習を通じて、疾患および薬の理解をもとに医療を担う薬剤師の育成教育
学生に対する実技教育	2008年4月～現在	バイタルサインの基礎および、心音・呼吸器音聴取法の習得のため、シミュレーターを用いて教育指導を行っている。
学生に対し、実験及び論文作成の指導	2008年4月～現在	学生に対し、臨床研究及び基礎実験の指導を行ない、結果の分析、学会発表、論文作成の指導を行った。
フィジカルアセスメントベーシックセミナー	2013年9月8日	在宅医療実践のためのバイタルサインの基礎および、心音・呼吸器音聴取法の習得のための講習会を開催した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
ファーマコセラピー　上、下巻　プレーン出版	2008年4月～現在	月経関連の障害、エンドメトリオーシス、女性のホルモン療法　部分（翻訳担当）。　疾患を140項目にわけ、薬物治療について詳細な解説がなされている。担当部分 :pp. 177-212
最新薬物治療学	2008年4月～現在	薬学部における薬物治療学コアカリキュラムに準拠した教科書　糖尿病、低血糖症、副腎皮質の疾患 担当部分: pp. 246-250, 254-278
新人薬剤師・研修医　薬と臨床コミュニケーション」金芳堂	2008年4月～現在	薬剤師教育の中において重要なファーマシューティカルケアにおける技法および薬剤の実践的知識を理解するための書籍。
キクタンメディカル 6. 薬剤編	2011年3月 第1版 2012年2月 第2版	実践的な医学薬学英語を聞いて覚えるための書籍。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 フィジカルアセスメント・シミュレーション研究会主催	2012年9月17日	薬剤、疾患の知識と理解を生かして臨床に関わる医療を担う薬剤師の教育を目標とする研究会を開催した。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2013年4月	同志社時報：同志社クローズアップ　薬物治療学教室のフィジカルアセスメント教育　No135, pp. 92-93

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Roles of NADPH oxidase in occurrence of gastric damage and expression of cyclooxygenase-2 during ischemia/reperfusion in rat stomachs	共著	2009年12月	J Pharmacol Sci. Vol. 111 No. 4 352-360
(論文) Evidence for the involvement of NADPH oxidase in ischemia/reperfusion-induced gastric damage via angiotensin II	共著	2010年4月	J Physiol Pharmacol 61巻2号 171-179
(論文) Effects of *Helilcobacter Pylori* infection on gastric pariental cells and E-cadherin in mongolian gerbils.	共著	2013年3月	J Pharmacol Sci vol. 121 305-311

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 中西 弘和

Ⅰ 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ①処方支援の実際	平成6年4月～平成21年3月	医療薬学系大学院生に、実際のがん患者さんの処方支援を行えるよう医師と共同で臨床教育研修を行い、実際に処方支援を経験させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①安全な薬剤投与のための医療材料の選び方・使い方（じほう）	平成22年3月	臨床で薬剤業務ならびに薬剤投与に使用する代表的医療材料についての選び方や使い方を具体的に指導できるようにするための教科書である。担当は編集と薬剤投与ルートの留意点である。 著作部分：pp. 15-18 編著：杉浦伸一，橋田 亨，中西弘和
②緩和医療薬学（南江堂）	平成25年10月	緩和医療を行う薬剤師は多いがその薬剤師が体系的に、緩和医療の薬物治療を学ぶ教科書がなかった。日本緩和医療薬学会の認定薬剤師試験のための教科書でもある。担当はオピオイドローテーションである。 担当部分：pp. 145-146 編集：日本緩和医療薬学会 共著者：中西弘和，他加賀谷肇など
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） ①医療薬学系大学院生の講義	平成6年4月～平成21年3月	京都薬科大学大学院臨床医学の緩和医療担当
②医療薬学系大学院生の臨床研修及び臨床研究	平成6年4月～平成21年3月	京都薬科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学、摂南大学薬学部、などの大学院生に6か月～1年の期間で臨床研修及び臨床研究を行わせ、学会発表、論文作成を行った。

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) 注射用エンドキサンの揮発性に関する	共著	平成22年5月	医療薬学36巻10号 pp. 723-728
(論文) 高粘度抗がん剤（フルオロウラシル注射液）のシリンジフィルターの孔径（0.2μmと0.8μm）の違いによ	共著	平成22年10月	医療薬学 36巻10号
(論文) Multicenter study for environmental and biological monitoring of occupational exposure to	共著	平成23年３月	J Oncol Pharm Pract Vol. 17
(論文) 症例チャートからみる薬物治療マネージメント	共著	平成23年３月	薬局別冊 62巻 pp. 453-469
(論文) 糖尿病を合併した造血器悪性腫瘍患者に対するステロイド療法時の血糖管理：共同薬物治療管理下での薬剤師による処方支援の有用性（査読付）	共著	平成25年7月	医療薬学 38巻7号 pp. 395-405

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2011年8月	第５６回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿　タスクフォース
2009年8月	サリドマイド製剤安全管理手順委員会委員（現在に至る）
2010年11月	Japan Society of Oncology Pharmacy Practitioners (JSOPP) 会長　2013年6月まで
2013年11月	日本癌治療学会　選挙管理委員長

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　同志社女子大学	講座名　生物薬剤学	職名　教授	氏名　芝田　信人
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） (1) 早期体験学習		平成17年3月～ 現在に至る	学生に、医療人としての薬剤師になるという自覚を早期に促し、勉学のモチベーションを高めることを目的として、1年次の春学期に調剤全般に関する入門実習を全国薬学部で初めて導入した。初期の段階より、調剤の技術、聴診器による血圧の測定、コミュニケーションマナー講座を実施するのが特徴である。
(2) 薬剤学実習		平成19年3月～ 現在に至る	医薬品成分や医薬品材料の物性を評価し、医薬品製造のためのプロセスや製造方法を理解するための反応試験や、日本薬局方に準拠した製剤試験法についての実習・および演習を行う。
(3) 模擬病院・薬局実習		平成20年3月～ 現在に至る	実務実習事前学習の一環として、５年次の実務実習に出向く学生に対しての学内トレーニングメニューを構築した。計数調剤、散薬調剤、水薬調剤、軟膏混合、注射薬混合、疑義照会、調剤鑑査、患者応対、情報提供、ドラッグインフォメーション、血中薬物濃度測定に関する内容で、座学は極力避け、実践型の内容とした。
(4) 実務実習事前学習		平成23年3月～ 現在に至る	事前学習の中でも知識・技能の醸成を目的としたトレーニングメニューを構築した。薬学理論問題に関連した内容を薬学応用問題に発展させ、ロールプレイなどを含めた演習形式で講義を進行させた。特に、次世代の薬剤師に必要な薬の効果あるいは副作用を見抜く力を養うべく、様々な病態に関連する演習を取り入れた。また、セルフメディケーションに必要なスキルについても実施した。
(5) フィジカルアセスメントベーシックセミナー		平成23年9月～ 現在に至る	卒後教育の一環として、本学卒業生および本学近隣の現役薬剤師を対象としたフィジカルアセスメントベーシックセミナーを開催した。今後の超高齢化社会に備えた在宅医療への薬剤師の参画に必要となるスキルの鍛錬を、座学ではなく、人体シュミレーターを用いた少人数制の実地型学習法を取り入れて実施した。聴診器の使い方、血圧の測定法、心音、呼吸音、腸音の聴診を中心にトレーニングを行った。全員が、一定のスキルを習得し、受講者からは谷類を見ないセミナーであったとの公表を得た。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) 早期体験学習実習書		平成17年3月	薬学部1年次生春学期において、医療人としての薬剤師を意識させる目的として行う早期体験実習のための実習書を作成した。
(2) 薬剤学実習書		平成19年3月	薬剤学実習で使用する実習書で、実習の内容をわかりやすく解説し、演習課題を追加することにより、応用力の醸成を行った。
(3) 模擬病院・薬局実習書		平成20年3月	高度な実践力を養うため、薬剤師のスキルに関し、断片的な知識を統合できるようなスケジュールの編成を行った。

(4) ニューパワーブック物理薬剤学・製剤学（廣川書店）	平成19年3月	薬学部6制カリキュラムに準拠した薬剤学分野の物理薬剤学および製剤学に関する教科書。本書では粉体の性質を中心に解説した。 担当部分：第3章、6章 共著者：安芸初美、金尾義治、唐澤健、北川修治、桜井栄一、芝田信人、他7名
(5) 新人薬剤師・研修医　薬と臨床コミュニケーション（金芳堂）	平成19年10月	臨床コミュニケーションは良き医療を提供する上で重要であり、薬剤師あるいは研修医のための薬に関するコミュニケーションスキルを実例を交えて解説した。 担当部分：監修 共著者：村上元庸、芝田信人、横出雅之
(6) 演習で理解する生物薬剤学（廣川書店）	平成21年2月	薬学部6年制の教育コアカリキュラムに準拠した、生物薬剤学分野の教科書を作成した。近年の薬学あるいは医療薬学の発展に伴い、導入された新たな知識を網羅し、6年制薬剤師国家試験受験のための演習問題や、CBT対策問題を各章に盛り込み、学生の学習効率を上げるための解説を施した。 担当部分：第3章　薬物の代謝 (pp. 105-156)、第6章 薬物相互作用 (pp. 257-294) 編者：山本昌 共著者：坂根稔康、芝田信人、槍垣和孝、山本昌
(7) 製剤への物理化学（廣川書店）	平成24年2月	薬学部6年制の教育コアカリキュラムに準拠した、物理薬剤学分野の教科書を作成した。近年の薬学あるいは医療薬学の発展に伴い、導入された新たな知識を網羅し、6年制薬剤師国家試験受験のための演習問題や、CBT対策問題を各章に盛り込み、学生の学習効率を上げるための解説を施した。 担当部分：第13章　医薬品としての分子 (pp. 259-287) 編者：斉藤博幸、田中秀治 共著者：芝田信人、他17名
(7) 臨床製剤学（南江堂）	平成24年4月	薬学部6年制の教育コアカリキュラムに準拠した、臨床製剤学分野の教科書を作成した。近年の薬学あるいは医療薬学の発展に伴い、導入された新たな知識を網羅し、6年制薬剤師国家試験受験のための演習問題や、CBT対策問題を各章に盛り込み、学生の学習効率を上げるための解説を施した。 担当部分：3章　各種医薬品製剤 (pp. 145-170) 編者：三嶋基弘、内田享弘、他 共著者：芝田信人、他13名
(8)　臨床薬物動態学　実解（京都廣川書店）	平成24年4月	薬物動態学といえば、数式に基いた解析に終始してしまう場合が多いが、実際の医療現場では数式の応用性は乏しいと言える。そこで、数式を使わない新たな概念での臨床薬物動態学を解説した。 担当部分：１章、3章、4章、6章、8章、9章、10章、11章、12章、15章 共著者：芝田信人、杉岡信幸
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1)　けいはんな市民雑学講座	平成23年10月	病気になるとほぼ間違いなく薬のお世話になる。飲んでいる薬の特徴を知っているっているか知らないかでは病気の治療経過は大きく異なる場合がある。飲んだ薬が体の中でどのように動いて効いているのか、健康食品やサプリメントとの飲み合わせはどうなのか、ブランド品とジェネリックの違いはどうなのか、薬の飲み方によって効き方は変わるのか、薬をお茶や牛乳と一緒に飲んでもいいのかなど、日常、薬を服用する場合にふと疑問に思う内容をとりあげ、上手な薬とのつきあい方について解説した。

4　その他教育活動上特記すべき事項		
(1)　教育研究活動	昭和60年4月～ 現在に至る	昭和60年4月～昭和61年3月まで、京都薬科大学修士課程医療薬学コースにおいて滋賀医科大学医学部付属病院薬剤部で研究活動および実務に携わった。修士課程修了後、昭和61年4月より平成11年6月に至るまで、滋賀医科大学医学部付属病院薬剤部の文部技官職員として実務に携わった。平成11年７月より京都薬科大学助教授として赴任し、現在に至るまで実務家教員として保険薬剤師登録を行い、週１回保険薬局にて調剤および服薬指導を行うことにより、実践薬学を研究している。
(2)　学生の実務実習の施設の調整	平成17年４月～ 現在に至る	近畿地区病院・薬局実務実習調整機構の委員として、毎年の実務実習施設の学生への配分を行っている。

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Preparation and pharmaceutical evaluation of new sustained-release capsule including starch-sponge matrix (SSM) (査読付)	共著	平成21年9月	Biomedicine & Pharmacotherapy (online)
(論文) Pharmacokinetic Interaction between Nifedipine and Coenzyme Q10 in Rats: a New Type of Drug-Supplement Interaction (査読付)	共著	平成22年6月	*Journal of Health Science* Vol. 56 No. 3, pp. 310-320
(論文) Pharmacokinetic Interaction between Nifedipine and Coenzyme Q10 in Rats: a New Type of Drug-Supplement Interaction (査読付)	共著	平成22年6月	Journal of Health Science Vol. 56, No. 3 pp. 310-320
(論文) Replacement of neutral protamine Hagedorninsulin with the long-acting insulin analogue, detemir, improves glycemic control withoutweight gain in basal-bolus insulin therapy in Japanese patients with type 1 diabetes (査読付)	共著	平成22年11月	Journal of Diabetes Investigation Vol. 2, No. 1 pp. 71-77
(論文) Pharmacokinetic and pharmacodynamic evaluation of a new sustained-release capsules using starch-sponge matrix (SSM) release system for nifedipine in rats (査読付)	共著	平成23年9月	International Journal of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences Vol. 3, No. 4, pp. 84-89

III　学会等および社会における主な活動

1999年度～	有限会社ヤクモ莎香堂薬局　顧問
2005年度～	病院薬局実務実習近畿地区調整機構大学委員
2011年度～2012年度	独立行政法人南京都病院　学術研究員
2011年度～2013年度	東レリサーチセンター客員研究員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　同志社女子大学	講座名　医薬品製造化学	職名　教授	氏名　白井　隆一
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）			
(1) 月に1回以上の実験報告書作成と研究報告プレゼンテーション		平成11年 8月～現在に至る	実験計画能力、研究遂行能力、実験結果解析能力を養うため、実験報告書の作成及び口頭によるプレゼンテーションを行わせ、実験科学者に要求される説得力ある研究報告をする能力を養う。
(2) 最新論文や洋書を素材とするプレゼンテーション及びグループディスカッション		平成11年 8月～現在に至る	最新の欧文学術雑誌あるいは洋書の学術書の内容についてプレゼンテーションを行い、他研究グループの研究成果について小人数のグループで徹底したディスカッションを行う。
(3) 徹底した演習による理解習熟度の向上		平成12年 4月～現在に至る	学生の学力、理解度に応じて講義、問題演習、小テストを繰り返し、講義内容を完全に理解させる。特に問題演習では思考過程を重視し、すべての学生に問題解答および解説のプレゼンテーションを課している。
(4) 国内学会、国際学会での学生による発表		平成12年 4月～現在に至る	国内外の学会で発表する機会を課し、研究者として必要なプレゼンテーション能力を養う。
(5) マルチメディア機器の積極的活用		平成17年 4月～現在に至る	パワーポイント等のプレゼンテーションソフトを活用した講義の視覚化に積極的に取り組んでいる。
2　作成した教科書、教材、参考書			
(1) 有機合成反応論・講義配布資料		平成12年 4月～現在に至る	有機合成反応論において重要な転位反応、電子環状反応、分子軌道に於けるHOMO-LUMOをわかりやすく理解させることを目的として図表・解説・演習・小問から構成される配布教材を作成した。
(2) 有機化学（化学同人）		平成20年 12月	薬学モデル・コアカリキュラムに準拠した新しい有機化学教科書を執筆した。 担当部分：7章、8章 共著者：赤井周司、東屋功、岩淵好治、忍足鉄太、白井隆一、杉原多公通、高橋秀依、田村修、夏苅英昭（五十音順）
(3) 有機化学explorer（京都廣川書店）		平成21年 8月	有機化学をひととおり学んだ学生を対象として、自学自習を支援するための教科書である。基礎から高度な演習問題まで含まれており、設問ごとに与えられているヒントで考える習慣を身に付けるような構成になっている。 担当部分：4章、5章 共著者：川崎郁勇、白井隆一、竹本佳司、西出喜代治、前﨑直容（五十音順）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			特記すべき事項なし

II　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Efficient 1,2-addition of aryl- and alkenylboronic acids to aldehydes catalyzed by the palladium/thioether-imidazolium chloride system（査読付）	共著	平成20年1月	The Journal of Organic Chemistry Vol. 73 No. 4 pp. 1597-1600
（論文）Direct asymmetric aldol reactions catalyzed by L-proline-2,4,6-trinitroanilide（査読付）	共著	平成20年4月	Tetrahedron Letters Vol. 49 No. 15 pp. 2402-2406
（論文）An acid-catalyzed ring-switch reaction of lactams to lactones: concise synthesis of 2,4-dialkyl-3-hydroxybutanolides（査読付）	共著	平成20年4月	Tetrahedron Vol. 64 No. 14 pp. 3133-3140
（論文）Design and synthesis of N-alkyl-oxindolydene acetic acids as a new class of potent Cdc25A inhibitors（査読付）	共著	平成20年6月	Bioorganic and Medicinal Chemistry Letters Vol. 18 No. 11 pp. 3350-3353
（論文）Efficient synthesis of 3-arylphthalides using palladium-catalyzed arylation of aldehydes with organoboronic acids（査読付）	共著	平成21年10月	The Journal of Organic Chemistry Vol. 74 No. 23 pp. 9210-9213

III　学会等および社会における主な活動	
平成17年　4月	日本薬学会代議員（現在に至る）
平成17年　4月	日本薬学会近畿支部委員（平成19年3月まで）
平成19年　4月	日本薬学会近畿支部幹事（平成24年3月まで）
平成25年　4月	日本薬学会近畿支部庶務幹事（現在に至る）

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬物治療学	職名　教授	氏名　高橋　玲
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成7年4月1日～ 平成21年3月31日	京都大学医学部病理学教室第二講座および同医学研究科病理系腫瘍生物学講座において、海外の学術論文のセミナー指導、および大学院生に腫瘍生物学研究における技術的指導を指導を行った。
		平成25年4月～現在	医療英語サロン　有志学生数名による課外活動で、現場で用いられる医療英語および医療用語の解説を行う。週１回、２０１４年３月の時点で第６３回を行い継続中。
		平成25年4月～現在	授業到達度チェック　授業終了直前に、最も重要なポイントを出席カードに記入させその場で全ての学生に直接個別にコメントする。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) キクタンメディカル　1. 人体の構造編（アルク）		平成22年1月28日	『キクタンメディカル』は、医学英単語・表現を音声を繰り返し聞いて身に付けることを目指した学習書である。発音やリスニングに重点を置き、さらにその語に関連した医学的知識も整理できるようにした。医系学生、医療従事者（医師、看護師、薬剤師など）、その他の医療業界関連者、医学に関心のある初学者が対象であるが、これから医学系大学を目指す学生も対象としている。第1巻は人体の構造について解説している。
(2) キクタンメディカル　2. 症候と疾患編（アルク）		平成22年1月28日	第2巻は症候と疾患について解説している。第1巻と同様に医学英単語・表現を音声を繰り返し聞いて身に付けることを目指した学習書である。発音やリスニングに重点を置き、さらにその語に関連した医学的知識も整理できるようにした。医系学生、医療従事者（医師、看護師、薬剤師など）、その他の医療業界関連者、医学に関心のある初学者が対象であるが、これから医学系大学を目指す学生も対象としている。
(3) キクタンメディカル　3. 診療と臨床検査編（アルク）		平成22年1月28日	第3巻は診療と臨床検査について解説している。第1巻、第2巻と同様に、医学英単語・表現を音声を繰り返し聞いて身に付けることを目指した学習書である。発音やリスニングに重点を置き、さらにその語に関連した医学的知識も整理できるようにした。医系学生、医療従事者（医師、看護師、薬剤師など）、その他の医療業界関連者、医学に関心のある初学者が対象であるが、これから医学系大学を目指す学生も対象としている。
(4) Dr. レイの病理学講義　改訂2版　（金芳堂）		平成24年10月	病理学の教科書。第1回～第20回までの講義形式都市、各講義の冒頭にはトピックスや重点項目を扱った序文を挿入した。国家試験出題基準や教育課程基準において、必須項目とされているものを網羅した。シェーマを豊富に用いて、病態や病気の原因をまとめて解説した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年2月24日	産業医科大学第18回医学部教員研修会（FD講演）において、医学部教員および学生を対象にした医学英語の教材および学習方法の発表した。

4　その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成5年4月1日～現在 平成21年4月1日～現在	愛媛大学医学部では、骨髄疾患の病態と解析および臨床像についての研究セミナーおよび学生の指導を毎年1回行っている。 京都大学医学部附属病院において、解剖症例検討会（CPC）の指導を続けている。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Involvement of the Reck tumor suppressor protein in maternal and embryonic vascular remodeling in mice (査読付)	共著	平成22年8月	BMC Developmental Biology, 10(84) : pp. 1-13
(論文) 5' -Phosphate oligodeoxynucleotides enhance the phosphodiester-CpG DNA-induced inflammatory response in macrophages	共著	平成23年2月	Eur. J. Immunol. 41巻425-436
(論文) Comparison of antigen expression from plasmid DNA in tumor-free and antigen-expressing tumor-bearing mice	共著	平成24年2月	Human Vaccines & immunotherapeutics 8巻2号 184-190
(論文) Regulation of immunological balance by sustained interferon-γgene transfer for acute phase of atopic dermatitis in mice	共著	平成24年8月	Gene Therapy DOI:10.1038/gt.2012.69.
(論文) Elsevier Editorial System(tm) for Journal of Controlled Release Manuscript Draft	共著	平成25年12月	Journal of Controlled Release

III　学会等および社会における主な活動

1985年～	日本病理学会　評議員
1992年～	日本分子病理学研究会運営委員会　世話人
1994年～	Acta Histochem. Cytochem.誌　編集委員
2002年～	日本臨床細胞学会京都府支部　幹事、監査
2012年～	日本組織細胞化学会　評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　創薬理論科学	職名 教授	氏名 土田 勝晴
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		2008年4月～ 現在	講義は教科書を使用する場合としない場合があるが、する場合も補足資料をプリントにまとめて配布している。教科書を使用しない場合その内容はほとんどパワーポイントにまとめてスライドを用いて説明し、その内容の重要なものはすべてプリントにして、授業時に配布している。また、演習を随時入れ講義内容の理解度を高める工夫を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書			
1. 最新基礎薬理学（第3版）　廣川書店 第６章　循環系に作用する薬物　p191-224		2011年10月	循環器系作用薬の章を担当し、高血圧、心不全、虚血性心疾患、不整脈等の薬物の薬理作用について、概説した。
2. キクタンメディカル　6. 薬剤編　アルク		2011年03月	薬剤に関わる英単語帳であり、基礎から臨床まで広く薬剤英語を解説している。
3. ファーマシューティカルノート（第2版）　医学評論社 8. 9　高尿酸血症、痛風　p471-474		2008年2月	高尿酸血症、痛風の病態・薬物治療に関して概説した。
4. ファーマコセラピー（第6版、翻訳）　ブレーン出版 第76章　妊娠と授乳：治療上考慮すべき問題　p121-144 第77章　避妊　p145-175		2007年8月	米国の代表的薬物治療学の書であり病態生理学から解説している。妊娠と授乳、避妊に関する薬物治療の翻訳を担当した。
5. 最新基礎薬理学（第2版）　廣川書店 第５章　循環系に作用する薬物　p121-154		2007年3月	循環器系作用薬の章を担当し、高血圧、心不全、虚血性心疾患、不整脈等の薬物の薬理作用について、概説した。
6. 薬理学実習書（同志社女子大学　薬学部編）		2007～2013年度	薬理学実習書は毎年度毎の、同志社女子大学　薬学部生のための実験テキストであり、呼吸、血圧、心拍数測定法を担当した。
7. 薬物食品作用学に関するプリント		2008年4月	薬物食品作用学において教科書の代わりとして使用
8. Nutrition Insight 2013, p30-32 (CNS Media BV)		2013年8月	Nutrition Insight 2013は日本の健康食品をオランダ等EU中心に紹介した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		2008年4月～ 現在 2008年4月～ 現在 2008年4月～ 現在	1）東邦大学・薬学部 百瀬弥寿徳教授とアセトアルデヒドの心臓血管系の薬理作用について共同研究。薬学研究IIIの教育に反映。 2）Biolink International社アドバイザーとして欧米製薬企業、バイオベンチャーからの新薬導入、共同研究の評価。研究開発方法等の情報、成果の一部は教育に反映。 3）財団法人ヒューマンサイエンス振興財団の技術移転センター・フェローとして基礎研究の実用化の可能性を調査。関連情報を教育に反映。 ４）FD講習会に出席し、その内容を講義の方法に反映させるか等について検討中。

	2009年～2011年の8月	5）学術研究員３名を受け入れ、随時創薬理論科学研究室への訪問がある。内科医については、学生の教育内容に対する具体的アドバイスもあり、教育上きわめて有用。国外（フィンランド）からの研究員、あるいはCROの臨床開発担当者も学生に教育的刺激を与えるのに有用である。 6) 年1回の高校生向け薬理学実習の実施

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）An inotropic action caused by muscarinic receptor subtype 3 in canine cardiac Purkinje fibers	共著	2013年8月	ISRN Pharmacology Vol. 2013 ID 207671 8 pages
(論文）乳癌細胞でのカリウムチャネルに関する電気生理学的検討	単著	2013年7月	同志社女子大学総合文化研究所紀要 30巻 169-174
（論文）Effects of Acetaldehyde on Action Potentials and Ca2+ Currents in Single Atrial Myocytes from the Bullfrog	共著	2012年9月	Pharmacology Vol. 90 216-222
(著書) キクタンメディカル 6. 薬剤編	共著	2012年3月	アルク
(著書) 最新基礎薬理学（第3版）	共著	2011年10月	廣川書店

III　学会等および社会における主な活動

2007年度～	ガイドポイント・グローバル社（NY）　アドバイザー
2005年度～	財団法人ヒューマンサイエンス振興財団（東京）　フェロー
2005年度～	Biolink International社（東京）　アドバイザー
1995年度～	日本薬理学会　評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　病態生理学	職名　教授	氏名　漆谷　徹郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成19年4月～	担当授業の多くをビデオ撮影し、ネット配信している。また、全ての授業において、資料・課題をインターネットを通じて配布している
	平成25年9月	レスポンスカードを活用した双方向性授業を複数の課目において取り入れている
2　作成した教科書、教材、参考書	平成20年	ベーシック薬学教科書シリーズ17　「医薬品安全性学」
	平成21年	トキシコロジー（改訂新版）
	平成23年	最新基礎薬理学（改訂３版）
	平成25年	パートナー薬理学（改訂２版）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成19年4月～	担当授業全てに授業アンケートを実施している
	平成19年4月～	担当授業のビデオをネットで教員に公開している
	平成21年12月～	大学教員による授業参観の対象となる講義を行い、評価された
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Identification of a novel set of biomarkers for evaluating phospholipidosis-inducing potential of compounds using rat liver microarray data measured 24-h after single dose administration. (査読付)	共著	平成24年5月	Toxicology vol. 295 No. 1-3 pp. 1-7,
(論文) Toxicogenomic multigene biomarker for predicting the future onset of proximal tubular injury in rats. (査読付)	共著	平成24年7月	Toxicology Vol. 297 No. 1-3 pp. 47-56
(論文) Toxicogenomic biomarkers for renal papillary injury in rats. (査読付)	共著	平成25年1月	Toxicology. vol. 303 No. 1 pp. 1-8
(論文) Identification of novel liver-specific mRNAs in plasma for biomarkers of drug-induced liver injury and quantitative evaluation in rats treated with various hepatotoxic compounds. (査読付)	共著	平成25年3月	Toxicol Sci. vol. 132 No. 1 pp. 21-31
(論文) Toxicogenomics discrimination of potential hepatocarcinogenicity of non-genotoxic compounds in rat liver. (査読付)	共著	平成25年9月	J Appl Toxicol. vol. 33 No. 11 pp. 1284-1293

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2008年度～2012年度	独立行政法人医薬基盤研究所　プロジェクトリーダー
2008年度～現在	内閣府食品安全委員会　専門委員
2010年4月～2013年3月	日本薬学会　Biological & Pharmaceutical bulletin誌 編集委員
2010年7月～現在	日本薬理学会　Journal of Pharmacological Sciences Editorial Advisor

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生化学	職名 教授	氏名　和田　戈虹
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成20年～	生化学Ⅰと Ⅱ、分子生物薬学を担当し、授業テキストを作製した。また、動画等を導入した授業用powerpoint資料を作製した。国家試験の対策も兼ねて各講義に予習復習テストも独自に実施し、良好な効果が得られた。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) コンパス分子生物学 ー創薬・テーラーメイド医療に向けてー （南江堂）		平成22年4月	本書は、薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿って分子生物学を理解することができるように、分子生物学の基礎、遺伝子工学、医療分野での貢献という三部構成になっている。6年制薬学教育課程の学生にとって役に立つ教科書である。演習課題付。 編者：荒牧弘範、大戸茂弘 担当部分：第4章　細胞機能の調節 担当部分は単著。本章はシグナル伝達と細胞増殖・分化、細胞死について概説した。
(2) mVam2依存性エンドサイトーシスによるマウス胚発生におけるBMP (bone morphogenetic protein) シグナルの制御. 生化学 （日本生化学会出版）		平成25年9月	初期発生では、細胞の分化と形態形成が小さな胚の中で短時間の間に高度に秩序だって進行する。限られた時間と空間の中でのパターニングでは、シグナルのONとOFFの積極的な制御は、極めて重要と考えられる。本稿では、シグナル伝達を負に制御する分子機構としてのエンドサイトーシス経路について、最近の研究成果を紹介した。
(3) 生化学実習　実習テキスト（酵素学実習・PCR実習）第8版 同志社女子大学　薬学部　生化学研究室		平成25年4月	生化学実習の酵素学とPCRの実験技法を習得すると同時、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学・分子生物学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、薬学ホームページで開示している。
(4) 生化学実習　実習テキスト（酵素学実習・PCR実習）第7版 同志社女子大学　薬学部　生化学研究室		平成24年4月	生化学実習の酵素学とPCRの実験技法を習得すると同時、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学・分子生物学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。生化学関連の予習課題を自主学習の使用として作成した。
(5) 生化学実習　実習テキスト（酵素学実習・PCR実習）第6版 同志社女子大学　薬学部　生化学研究室		平成23年4月	生化学実習の酵素学とPCRの実験技法を習得すると同時、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学・分子生物学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。
(6) 分子生物薬学 講義テキスト 同志社女子大学　薬学部　生化学研究室		平成20年4月～現在	分子生物薬学の講義内容をノートできる形式の講義テキストである。
(7) 生化学Ⅰ & Ⅱ 講義テキスト 同志社女子大学　薬学部　生化学研究室		平成20年4月～現在	生化学の講義内容をノートできる形式の講義テキストである。

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特記すべき事項なし

II　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The (Pro) renin Receptor/ATP6AP2 is Essential for Vacuolar H^+-ATPase Assembly in Murine Cardiomyocytes (査読付)	共著	平成22年7月	Circulation Research 107巻 pp. 30-34
(論文) Spatial Restriction of Bone Morphogenetic Protein Signaling in Mouse Gastrula Through the mVam2-Dependent Endocytic Pathway (査読付)	共著	平成23年6月	Developmental Cell Vol. 22 No. 6 pp. 1163-1175
(論文) Delivery of endosomes to lysosomes via microautophagy in the visceral endoderm of mouse embryos. (査読付)	共著	平成23年9月	Nature communications Vol. 3 pp. 1071
(論文) Dynamic visualization of RANKL and Th17-mediated functional controlof multinucleate osteoclast function in vivo. (査読付)	共著	平成24年1月	Journal of Clinical Investigation Vol. 123 pp. 866-873
(論文) Critical roles of type III phosphatidylinositol phosphate kinase in murine embryonic visceral endoderm and adult intestine. (査読付)	共著	平成24年1月	Proc. Natl. Acad. Sci. USA 110巻5号 pp. 1726-1731

III　学会等および社会における主な活動

2012年度～	独立行政法人日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員
2008年度～	日本生化学会　近畿支部会幹事
2014年度～	アジア・オセアニア生化学・分子生物学学者連盟・日本生化学会代表
2009年度～	同志社女子大学写真コンテスト審査委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 中村 憲夫

Ⅰ 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 生薬学実習	平成18年6月～	実習開始前にPower Pointおよびデモンストレーションによる説明を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 生薬学実習 生薬学（生薬学Ⅰ）	 平成18年6月～ 平成19年４月～	 生薬学実習において実習書を作成。 生薬学（生薬学Ⅰ）の授業用テキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 2012年度FD講習会参加 2011年度FD講習会参加 2010年度FD講習会参加 2009年度FD講習会参加	 平成24年9月19日 平成23年9月14日 平成22年9月15日 平成21年9月16日	 「PBL（プロジェクト学習）は学生を変える！」 「キャリア教育について考える」 「大学教育の挑戦―学生の主体性を育むための授業の工夫―」 「学士課程教育の構築とFDの意義」

Ⅱ 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 伝統医薬学・生薬学 （増補）	分担執筆	2013年4月	南江堂
(論文) Metabolism and Pharmacokinetics in rats of ganoderiol F, a highly cytotoxic and antitumor triterpene from Ganoderma lucidum	共著	2009年6月	Journal of Natural Medicines Vol. 63 No. 3 304-310
(論文) Two New Triterpenes from the Rhizome of Dryopteris crassirhizoma, and Inhibitory Activities of Its Constituentets on Human Immunodeficiency Virus-1 Protease	共著	2008年5月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin Vol. 56 No. 5 711-714
(学会発表) タイ民族薬物Ka-tuirの抗トリパノソーマ活性	共同発表	2011年3月	日本薬学会第131年会（静岡）
(学会発表) タイ民族薬物Kha-yaiの抗トリパノソーマ活性	共同発表	2010年3月	日本薬学会第130年会（岡山）

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成24年4月～	日本生薬学会関西支部会計
平成23年９月	出張講義（八日市高校）
平成24年2月	出張講義（東稜高校）
平成25年2月	出張講義（山城高校）

[注] 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　医薬品分析学	職名 准教授	氏名 山内 雄二
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		2006年5月～現在	医薬品分析化学実習では、実習レポートを各項目ごとに提出させ、それを採点・コメント記入後、学生に返却することで、実習内容の理解度の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		2008年4月 2009年4月 2010年9月 2011年9月 2012年6月 2013年6月	医薬品分析化学実習テキスト（第3版）の発行。 医薬品分析化学実習テキスト（第4版）の発行。 医薬品分析化学実習テキスト（第5版）の発行。 医薬品分析化学実習テキスト（第6版）の発行。 医薬品分析化学実習テキスト（第7版）の発行。 医薬品分析化学実習テキスト（第8版）の発行。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		2008年4月 2008年5月 2008年7月 2008年9月 2008年10月 2009年4月 2010年8月 2011年9月 2012年9月 2013年4月 2013年5月 2013年9月 2013年9月 2013年10月	創立者墓前礼拝への参加（宗教主任）。 春季リトリートへの参加（宗教主任）。 FD講演会「FDの義務化とこれからの大学教育」に参加。 宗教部主催ワークキャンプの引率（宗教主任）。 秋季リトリートへの参加（宗教主任）。 創立者墓前礼拝への参加。 第48回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）にタスクフォースとして参加。 第57回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿（薬学教育者ワークショップ）にタスクフォースとして参加。 FD講演会「PBL（プロジェクト学習）は学生を変える！」に参加。 創立者墓前礼拝（宗教主任）。 春季リトリートへの参加（宗教主任）。 宗教部主催ワークキャンプの引率（宗教主任）。 FD講演会「学生の目の色が変わる授業の仕方を内緒で教えます！」に参加。 秋季リトリートへの参加（宗教主任）。

II　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Quasi-flow injection analysis for rapid determination of caffeine in tea using the sample pre-treatment method with a cartridge column filled with polyvinylpolypyrrolidone	共著	平成20年1月	*Journal of Chromatography A* Vol. 1177 No. 1 190-194
(論文) Simple and rapid UV spectrophotometry of caffeine in tea coupled with sample pre-treatment using a cartridge column filled with polyvinylpolypyrrolidone (PVPP)	共著	平成20年2月	*Chemical & Pharmaceutical Bulletin* Vol. 56 No. 2 185-188
（論文）) ポリビニルポリピロリドン固相前処理を用いる市販茶飲料含有カフェインの迅速分析	単著	平成23年12月	同志社女子大学 学術研究年報 第62巻 107-111
(口頭発表) Polyvinylpolypyrrolidone (PVPP) を用いたビンロウジ (Arecae Semen) 含有漢方製剤中arecoline分析のための分析試料前処理法の改良		平成23年3月	日本薬学会第131年会　静岡（震災による紙上開催）
(口頭発表) Polyvinylpolypyrrolidone (PVPP) を用いた分析試料前処理法の改良及び植物由来試料分析への応用		平成24年11月	第41回生薬分析シンポジウム 大阪

III　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名 臨床薬剤学	職名 専任講師	氏名 松元加奈

Ⅰ 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成19年10月～	パワーポイントを用いた講義とともに、模擬患者を導入した演習、実習により臨床現場の臨場感あふれる教育を実践している。
2 作成した教科書、教材、参考書	平成22年9月	模擬病院薬局実習実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
(1) 同志社香里中学校にて社会人講師（薬剤師）としてリベルタスの授業を担当	平成17年11月～	日常業務に従事する病院薬剤師の姿をパワーポイントで紹介する一方、生徒には事前に医療に関する新聞報道を調査させて、その感想を述べさせるほか、教室に持参した輸液バッグを使った体験型学習を工夫し、高い教育効果を挙げている。
(2) 模擬患者の養成	平成19年10月～	服薬指導に関する演習や実習に参加いただく模擬患者を養成すべく模擬患者養成講習会を開催している。

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌等の名称（巻・号数）
(論文) Comparison between concentrations of amphotericin B in infected lung lesion and in uninfected lung tissue in a patient treated with liposomal amphotericin B (AmBisome).	共著	2009年12月	International Journal of Infectious Diseases 14 pp. e220-223
(論文) Thrombocytopenia and anemia caused by a persistent high linezolid concentration in patients with renal dysfunction.	共著	2010年6月	Journal of infection and chemotherapy 17 pp. 76-79
(論文) Influence of linezolid clearance on the induction of thrombocytopenia and reduction of hemoglobin.	共著	2011年12月	The American Journal of the Medical Sciences 342巻6号 pp. 60-64
(論文) Dasatinib maintenance therapy after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for an isolated central nervous system blast crisis in chronic myelogenous leukemia.	共著	2013年3月	Acta hematologica 130巻2号 pp. 111-114
(論文) Population pharmacokinetic analysis of linezolid in low body weight patients with renal dysfunction.	共著	2013年9月	The Journal of Clinical Pharmacology 53巻9号 pp. 967-973

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

平成23年6月～	京都府薬剤師会 代議員
平成23年6月～	京都府薬剤師会 学術研修委員
平成24年7月～	日本感染症学会/日本化学療法学会 感染症治療ガイド作成ワーキンググループ委員
平成24年11月～	京都府薬剤師会 大学薬剤師会会長

[注] 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生物薬剤学	職名 専任講師	氏名 成橋 和正

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
VAS（visual analog scale）法による大学院医療薬学専攻での臨床実習の評価	2002年10月、 2003年4月～	金沢大学大学院自然科学研究科医療薬学専攻での臨床実習ならびに講義における自己評価ならびに指導者評価をＶＡＳ法により調査・解析し、この手法の有用性、解析結果を客観評価の指標とすることの妥当性を証明。
VAS（visual analog scale）法による薬学部での導入実習の評価	2005年4月～	毎年、薬学部１年次に行われる調剤入門実習における自己評価ならびに実習評価を客観的に行うことを目的に、実習内容を項目ごとにわけ、VAS法により自己評価してもらい、その結果を解析している。さらに、継続的に調査（追跡調査）することで学生の修学度を測れるかどうか検討する予定。
パワーポイントのスライドに手書きタブレットでの板書による講義	2007年4月～	スライドのみの講義による学生の受け身の講義聴講とならないように、パワーポイントのスライドを作製し、書き込み、板書を行い、学生の積極的講義への参加を促している。
講義資料の印刷に加え、デジタルデータでの提供	2007年4月～	従来型のモノクロ印刷の講義資料の学生への配布に加えて、カラーデジタルデータを大学ホームページより提供し、必要な学生が適宜印刷できるようにしている。
復習課題のデジタルデータでの提供	2007年4月～	学生が復習を自主的に行えるように、復習課題をデジタルデータのみで大学ホームページより提供してる。
2　作成した教科書、教材、参考書		
疾患別　服薬指導マニュアルHand Book 発行：薬業時報社	1998年3月	薬物の患者に対する服薬指導の方法を記した著書で、29疾患についてマニュアル化し、薬剤師が薬剤指導業務を全国で行い始めた当時に、簡便に参照できるハンドブックとして刊行された。 監　　修：市村藤雄 編　　者：松下良、旭満里子、古川裕之、宮本謙一、鈴木永雄 共 著 者：成橋和正含め42名
クリニカル・ファーマシーのための疾病解析-第6版- 発行：医薬ジャーナル社	1999年3月	米国の臨床薬学書として利用されている教科書の翻訳書である。疾患別に薬物治療を含む患者管理について解説してある。担当部分は、疾患別の項目の前の総論の臨床検査に関する章である。臨床検査値は疾病の診断の材料となるだけでなく、薬物の副作用の予兆を知る指標としても重要である。臨床検査値を現場でどのように捉えるべきかについて解説してある。 監　　訳：福地坦 担当部分：第5章 臨床検査試験と解釈（pp. 93 -114） 共 著 者:成橋和正、山村恵子、鍋島俊隆
アプライドセラピューティクス第2巻 発行：テクノミック	2000年11月	米国の臨床薬学書として利用されている教科書の翻訳書である。患者特性にあった薬物療法をどう考えるか、実例に則して解説してある。臨床薬学を学ぶ学生から臨床医・臨床薬剤師にわたるまで利用できる詳細な内容となっている。担当は精神疾患の部分で精神医の診断基準から薬物療法まで詳細にわたり解説してある。 日本語版総編集：緒方宏泰、越前宏俊、増原慶壮 担当部分：27章 不安障害、pp. 27-1～27-37、28章 睡眠障害、pp. 28-1～28-22、29章 精神分裂病、pp. 29-1～29-30、30章　気分障害Ⅰ：大うつ病性障害、pp. 30-1～30-33、31章 気分障害Ⅱ：双極性感情障害、pp. 31-1～31-15 翻訳者：成橋和正含め20名

疾患別薬物治療ハンドブック 発行：じほう	2001年5月	「服薬指導マニュアルHand Book」のコンセプトを受け継ぎつつ全面的な改訂を行った著書で、対象疾患は94まで拡大した。服薬指導ハンドブックとしての利用に加えて、薬物治療学自体についても詳細に記載されている。 監　　修：宮本謙一、 編　　者：横川弘一、旭満里子、古川裕之、鈴木永雄、木村和子 分担執筆：成橋和正含め42名
薬学生・実務実習指導者のための実務実習ガイドブック	2005年7月	（共著）出版：南山堂、実務実習等での参考書。
【実習書】 「薬剤学実習」実習書の作成	2007年5月～	同志社女子大学薬学部における３年次生の実習書の作成（共同・学内のみでの使用）
【実習書】 「模擬病院・薬局実習」実習書の作成	2013年９月～	同志社女子大学薬学部における３年次生の実習書の作成（共同・学内のみでの使用）
新人薬剤師・研修医　薬と臨床コミュニケーション	2007年10月	（共著）出版：金芳堂、実務実習等での参考書。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
【学会発表】 学生・指導者の自己評価に基づいた実務実習評価の有用性	2003年3月	日本薬学会第123年会（長崎）で発表（共同・演者）。
大学院臨床系講義・実務実習の自己評価へのＶＡＳの利用とその有用性	2005年10月	第15回日本医療薬学会（岡山）で発表（共同・演者）。
早期体験学習としての調剤学入門（実習）の試み	2006年3月	日本薬学会第126年会（仙台）で発表（共同）。
臨床薬学教育における海外研修の効果	2013年6月	医療薬学フォーラム2013/第21回クリニカルファーマシーシンポジウム（金沢）で発表（単独）
【論文発表】 中規模病院における薬学部生病院実習カリキュラム作成	2003年4月	医療薬学29巻　129-139　2003年（共著）。
大学院修士課程臨床薬学講義ならびに実務実習のvisual analog scale法による客観的評価	2003年11月	薬学雑誌123巻　973-980　2003年（共著・筆頭著者）。
ＶＡＳ法を用いた学生・薬剤師による大学院実務実習・講義の評価	2006年9月	医療薬学32巻　931-939　2006年（共著・筆頭著者）。
早期体験学習としての調剤学入門（実習）の試み	2007年7月	医療薬学33巻　634-644　2007年（共著）。
新入生オリエンテーション	2005年4月	学部が1泊2日で行う新入生オリエンテーションに参加。
薬学部英語勉強会	2005年10月	薬学部で実施予定をしている海外薬学研修に向けた英語力の向上のための勉強会の指導をしている。薬学・薬剤師・医療に関連する最新の情報をWebから選び、英語の解釈のみならず、その内容が理解できるよう、薬剤師の業務内容・医療の現状等の解説を加えている。また、自主学習を促すためのweb活用についても指導している。
新入生オリエンテーション	2006年4月	学部が1泊2日で行う新入生オリエンテーションに参加。
薬学部海外病院・薬局研修事前勉強会	2007年3月～7月	2007年8月～9月実施の薬学部海外病院・薬局研修参加学生を対象に、英語力の向上、医療系論文の淋毒、臨床薬剤師の仕事の実践についてディスカッション形式での指導。学部講師を招いた講演会の立案・実施、外部施設の見学の立案・実施をおこなった。
新入生オリエンテーション	2007年4月	学部が1泊2日で行う新入生オリエンテーションに参加。
薬学部海外病院・薬局研修	2007年8月～9月	ミシガンプログラム（4週間）、西海岸プログラム（9月）のプログラム・スケジュールの立案、ならびに実施・引率。

薬学部海外病院・薬局研修事前勉強会	2011年4月～8月	2011年8月～9月実施の薬学部海外病院・薬局研修参加学生を対象に、英語力の向上、医療系論文の輪読、臨床薬剤師の仕事の実践についてディスカッション形式での指導。学部講師を招いた講演会の立案・実施、外部施設の見学の立案・実施をおこなった。
薬学部海外病院・薬局研修	2011年8月～9月	ミシガン大学プログラムのプログラム・スケジュールの立案、ならびに実施・引率。
薬学部海外病院・薬局研修事前勉強会	2012年4月～8月	2012年8月～9月実施の薬学部海外病院・薬局研修参加学生を対象に、英語力の向上、医療系論文の輪読、臨床薬剤師の仕事の実践についてディスカッション形式での指導。学部講師を招いた講演会の立案・実施、外部施設の見学の立案・実施をおこなった。
薬学部海外病院・薬局研修	2012年8月～9月	ミシガン大学・南カリフォルニア大学プログラムのプログラム・スケジュールの立案、ならびに実施・引率。
薬学部海外病院・薬局研修事前勉強会	2012年4月～8月	2012年8月～9月実施の薬学部海外病院・薬局研修参加学生を対象に、英語力の向上、医療系論文の輪読、臨床薬剤師の仕事の実践についてディスカッション形式での指導。学部講師を招いた講演会の立案・実施、外部施設の見学の立案・実施をおこなった。
薬学部海外病院・薬局研修	2011年8月～9月	南カリフォルニア大学プログラムのプログラム・スケジュールの立案、ならびに実施・引率。
新入生オリエンテーション	2013年4月	学部が1泊2日で行う新入生オリエンテーションに参加。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）Effect of cyclosporine on drug transport and pharmacokinetics of nifedipine	共著	2009年11月	Biomed harmacother Vol. 63 No. 9 697-702
（論文）Preparation and pharmaceutical evaluation of new sustained-release capsule including starch-sponge matrix (SSM)	共著	2010年5月	Biomed Pharmacother Vol. 64 No. 5 352-358
（論文）非小細胞肺がんに対するCarboplatin＋weekly Paclitaxel 併用療法の初回用量減量による副作用軽減効果の検証	共著	2010年7月	医療薬学36巻7号 493-501
（論文）Comparison of the expression and function of ATP binding cassette transporters in Caco-2 and T84 cells on stimulation by selected endogenous compounds and xenobiotics	共著	2011年4月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics Vol. 26 No. 2 145-153
（論文）先発品・後発品情報の内容、利用可能度、入手難易度の比較と評価 ： ニトレンジピン錠	単著	2012年3月	総合文化研究所紀要. 29, (2012. 3), p. 132-142

III　学会等および社会における主な活動

2007年度～	京都府薬剤師会　京都薬報　ホームテスト執筆委員
2010年度～	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ　タスク

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 1号特任教授	氏名 阿南 節子

Ⅰ 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成9年9月 ～平成21年3月 平成18年6月 ～平成21年3月	学部生、大学院生を指導（武庫川女子大学、京都薬科大学、摂南大学 他）医療現場において臨床薬学を指導 学部生、大学院学生に臨時講義（摂南大学、慶応義塾大学）
2 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 医薬品情報・評価学 （南江堂）	平成18年10月	医薬品情報の基礎、病院・薬局における医薬品情報と評価、医薬品情報と製薬企業について解説。 担当部分：薬剤関連業務の安全と効率化のためのシステム構築 (pp. 163-168) 共著者：河島進, 政田幹夫, 松山賢治, 内田享弘, 阿南節子 他
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成20年10月 平成21年10月	JICA薬剤師研修コース講師（感染対策） JICA薬剤師研修コース講師（感染対策）

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）患者さんのための乳がん診療ガイドライン〈2012年版〉	共著	平成24年7月	金原出版
(著書)イラストでよくわかる がん治療とサポーティブケア	共著	平成24年4月	じほう
(著書)注射薬配合変化Q&A—根拠でわかる注射・輸液配合時の事故防止対策	共著	平成25年1月	じほう
(著書)注射薬Q&A—注射・輸液の安全使用と事故防止対策	共著	平成25年1月	じほう
（論文）Effect of glutamine or alkaline ionized water on late diarrhea	共著	平成21年4月	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

平成20年8月～現在	関西がんチーム医療研究会 世話人
平成21年4月～現在	日本注射薬臨床情報学会 理事
平成23年4月～現在	日本病院薬剤師会学術第7委員会委員
平成26年	第22回日本乳癌学会 実行委員

[注] 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬物動態学	職名　2号特任教授	氏名 伊賀 勝美
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
薬物動態学Ⅰ（2年次対象科目）		平成25年1月	授業評価を受ける
薬物動態学Ⅱ（3年次対象科目）		平成25年7月	授業評価を受ける
新薬開発特論（6年次対象科目）		平成25年7月	授業評価を受ける
薬学概論（1年次対象科目）		平成25年7月	授業評価を受ける
基礎物理化学（1年次対象科目）		平成25年7月	授業評価を受ける
2　作成した教科書、教材、参考書			
コンパス生物薬剤学　分担執筆		平成22年9月	南江堂
薬物動態学Ⅱ　テキストの作成		平成25年4月	学内書籍販売
薬学部一年次生用講義テキストの作成		平成25年4月	学内書籍販売
薬物動態学Ⅰ　テキストの作成		平成25年9月	学内書籍販売
薬物動態学実習　テキストの作成		平成25年9月	配布
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
FDレポート第2号執筆		平成21年3月	他大学を訪問して「東西女子大学訪問記」
FDレポート第2号執筆		平成21年3月	2008年度事業に関わる報告「授業アンケート雑感」
4　その他教育活動上特記すべき事項			
大学関西フォーラム第13回懇話会参加		平成20年7月	教育研究推進センター所長として参加
学内FD講習会の発足		平成20年7月	教育研究推進センター所長として発案
関西地区FD連絡協議会		平成20年8月	教育研究推進センター所長として参加
学内FD講習会参加		平成20年9月	FDの義務化とこれからの大学教育
FD-YG会（学内FD懇談会）の発足		平成20年10月	教育研究推進センター所長として発案
学内FD関連メールマガジンの創刊		平成20年10月	教育研究推進センター所長として発案
第1回関西地区FD連絡協議会シンポジウム参加		平成20年11月	思考し表現する学生を育てる
学内授業参観		平成20年12月	2008　秋学期「応用演習Ⅱ」
第1回FD-YG会参加		平成20年12月	授業中の私語、授業妨害への対処について
第4回龍谷大学FDフォーラム参加		平成20年12月	学士課程の体系化に向けて
第2回FD-YG会参加		平成21年3月	学生のやる気を出させる魅力的な授業とは
第14回FDフォーラム参加		平成21年2月	学生が身につけるべき力とは何か
学内FD講習会参加		平成21年9月	学士課程教育の構築とFDの意義
第3回FD-YG会参加		平成21年11月	授業中の私語、授業妨害等への対応について（その2）
学内授業参観		平成21年12月	2009　秋学期「医薬品有機化学Ⅰ」
大学教育改革プログラム合同フォーラム参加		平成21年12月	教育研究推進センター所長として参加
第15回FDフォーラム参加		平成22年3月	学生の学びを支える―つなぐFDの展開―
第5回FD-YG会参加		平成22年6月	同志社女子大学におけるGPA制度の導入経緯と検証
学内FD講習会参加		平成22年9月	学生の主体性を育むための授業の工夫
第16回FDフォーラム参加		平成23年3月	組織的FDの取り組み～FD義務化から現在（いま）～
第7回FD-YG会参加		平成23年7月	どうする？キャリア教育
学内FD講習会参加		平成23年9月	キャリア教育について考える
第17回FDフォーラム参加		平成24年3月	大学におけるキャリア教育を考える
第9回FD-YG会参加		平成24年7月	授業アンケートのあり方について
学内FD講習会参加		平成24年9月	PBL（プロジェクト学習）は学生を変える！
学内FD講習会参加		平成25年9月	学生の目の色が変わる授業の仕方を教えます

II　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) 相互作用の大きさが阻害を受ける薬物の肝抽出率に依存することの新しい見方とそれに対する解析	単著	平成23年12月	同志社女子大学 学術研究年報62巻 93-105
(論文) 消化管および肝で初回通過効果を受ける薬物のバイオアベイラビリティを経口クリアランスから予測する方法	単著	平成24年7月	同志社女子大学総合文化研究所紀要29巻 118-131
(論文) 次世代型（パルス放出型）の経皮吸収システムの実用化に向けた検討	単著	平成24年12月	同志社女子大学学術研究年報63巻27-34
(論文) カチオン性・両親媒性薬物（CAD）の肝細胞への取り込み機構-能動輸送システムを仮定したコンパートメントモデルによるシミュレイションー	単著	平成25年7月	同志社女子大学総合文化研究所紀要30巻 77-92
(論文) フルボキサミンの肝取り込み機構と細胞質内濃度上昇の可能性に関する新規改訂肝抽出モデルを用いた解析	単著	平成25年12月	同志社女子大学学術研究年報64巻27-42

III　学会等および社会における主な活動	
平成14年～	日本DDS学会　評議員
平成16年～	日本薬剤学会　評議員
平成16年～	日本薬物動態学会　評議員
平成16年～平成22年	日本薬学会　代議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　同志社女子大学	講座名　生命物理化学	職名　2号特任教授	氏名　杉浦　幸雄

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） (1) プリント、スライド、ビデオ等種々のメディアを活用した授業方法		
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) ベーシック薬学教科書シリーズ 全21巻 (化学同人)	平成20年9月1日 ～現在	六年制薬学教育向けの優れた教科書を企画・編集した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 学びフォーラム京都での模擬講義	平成21年10月30日	京都大谷大学で新しい科学の扉を開く薬と題して高校生を対象に模擬講義を行い、活発な質疑応答を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） (1) 第14回国際生物無機科学会議公開市民講座の講師	平成21年7月25日	名古屋国際会議場で生体と金属：生体に不可欠な元素と題して一般市民を対象にわかりやすく講演を行った。

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Novel redesigned zinc finger proteins: Design strategy and its application. (査読付)	共著	平成20年11月	Chemistry:European Journal Vol. 14 No. 11 pp. 3236-3249
(論文) Effects of bulkiness and hydrophobicity of aliphatic amino acid at recognition helix of GAGA zinc finger on the stability of hydrophobic core and DNA-binding affinity. (査読付)	共著	平成20年11月	Biochemistry Vol47 No. 45 pp. 11717-11724
(論文) Metal-stimulated transcriptional regulation by an artificial zinc finger protein (査読付)	共著	平成22年8月	ChemBioChem Vol. 11 No12 pp. 1653-1655
(論文) An arginine residue instead of a conserved leucine residue in the recognition helix of the finger 3 of Zif268 stabilizes the domain structure and DNA binding	共著	平成23年7月	Biochemistry、50巻、6266-6272
(論文) Rational design of DNA sequence-specific zinc fingers (査読付)	共著	平成24年3月	FEBS Lett. Vol586 No. 6 918-923

III　学会等および社会における主な活動	
2008年度	九州大学先導物質化学研究所　外部評価委員
2008年度	独立法人日本学術振興会　特別研究員等審査会　委員
2008年度	厚生労働省　審議参加に関する遵守事項の検証・検討委員会　委員
2008年度	第14回国際生物無機化学会議　アドバイザリー
2008年度	第11回国際有機化学京都会議　組織委員
2008年度～	一般社団法人薬学教育評価機構　理事
2009年度～	奈良県立医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会　委員
2009年度～	日本学術振興会特別研究員等審査会　委員
2010年度～	厚生労働省　審議参加規程評価委員会　委員
2010年12月	日本学術振興会　科学研究費委員会　専門委員
2010年～	医薬基盤研究所　利益相反委員会　委員長
2011年度	AFMC国際医薬化学シンポジウム　組織委員
2011年～	公益財団法人サントリー生命科学財団　評議員
2012年～	京都大学化学研究所運営評議会　委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5　「Ⅲ　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　医薬品分析学	職名 2号特任教授	谷本　剛

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） (1) PowerPoint映写等の視聴覚教材やプリント教材を活用した授業及び講義の動画配信	平成17年10月 ～現在	プリント資料とPowerPoint映写を教科書とともに併用し、PowerPointで示され重要ポイントを配布されたプリントに学生自らが記述することによって、単に聴講するよりも学生の理解度を向上させた。また、講義の動画配信はそれへのアクセス履歴より明らかなように、多くの学生の自宅における復習に利用され、学生への教育効果は向上した。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) 薬学分析化学の基礎と応用　－薬学教育モデル・コアカリキュラム準拠－　（廣川書店）	平成20年8月 （第2版）	薬学生のための分析化学の教科書であり、薬学領域で必要な臨床分析に関する事項の執筆を担当し、生体試料の取扱いと前処理、精度管理と標準物質、酵素分析法、免疫測定法（ラジオイムノアッセイ、エンザイムイムノアッセイ、蛍光イムノアッセイ、免疫比濁法、免疫比ろう法）および電気泳動法の原理と応用を薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して記述し、解説した。 担当部分：第7章 分析の準備（pp. 239-250）、第8章 臨床分析技術（pp. 252-276） 編者：片岡洋行、田和理市 共著者：片岡洋行、川瀬雅也、黒澤隆夫、渋川明正、鈴木茂生、谷本剛、田和理市、山口健太郎
(2) 薬学領域の機器分析学　（廣川書店）	平成21年3月	薬学生を対象として、薬学領域に必要な機器分析法を能率よく学習できるように編集された教科書である。汎用される機器分析法のうち、紫外可視吸光度測定法、発光分析法およびフレーム分析法の執筆を担当し、これらの分析法の原理と応用を薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して記述し、解説した。 担当部分：紫外可視吸光光度法（pp. 6-25）、発光分析法およびフレーム分析法（pp. 63-76） 編者：財津潔、鶴田泰人 共著者：明楽一己、市川和洋、植田正、小嶋英二郎、財津潔、谷本剛、鶴田泰人、野田直規、浜瀬健司、原口浩一、樋口隆一、広瀬順造、道田隆、見留英路、森浩一
(3) 薬学領域の分析化学　（廣川書店）	平成21年4月	薬学生を対象として、薬学分野に関連する分析化学の基礎と応用を能率よく学習できるように編集した教科書である。重量分析（揮発重量法、抽出重量法、沈殿重量法）および容量分析法のキレート滴定の執筆を担当し、これらの分析法の原理と応用を薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した形で記述し、解説した。 担当部分：重量分析（pp. 23-32）、キレート滴定（pp. 125-142） 編者：財津潔、鶴田泰人 共著者：明楽一己、井上裕文、黒木広明、小嶋英二郎、財津潔、齊藤睦弘、谷本剛、檀上博史、千熊正彦、鶴田泰人、浜瀬健司

(4) 薬剤師に必要な臨床機器分析 (廣川書店)	平成22年8月	チーム医療の現場において薬剤師として知っておくべき最低限の臨床分析法について平易に解説した薬学生向きの教科書である。病気の診断や治療経過の観察などには血液や体液中の酵素や代謝物の定量値が臨床検査値として利用されるが、これらの成分測定には免疫反応を利用した測定法が多用されている。この免疫反応を利用した測定法の中でも最もよく利用される酵素免疫測定法 (ELISA) の執筆を担当し、この基本原理やその応用例について記述し、解説した。 担当部分：第3章 酵素免疫測定法 (pp. 33-44) 編者：秋澤俊史 共著者：秋澤俊史、川原正博、小谷明、小西元美、谷本剛、袴田秀樹、道田隆
(5) コンパス 分析化学 (南江堂)	平成25年9月	薬学生を対象として、コアカリキュラムに基づいて薬学分野に関連する分析化学の基礎と応用を能率よく学習できるように編集し，さらには薬剤師国家試験にも対応可能な教科書である。「酸化と還元 酸化還元滴定」，「有機物の確認試験」の章の執筆を担当し、これらの分析法・試験法の原理と応用を薬学教育コアカリキュラムに準拠した形で記述し、解説した。 担当部分：「酸化と還元 酸化還元滴定」 (pp. 73-86)、「有機物の確認試験」 (pp. 113-125)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 学部学生による授業アンケート評価	平成18年4月 ～現在	担当科目の学生による授業アンケート評価を実施し、聞き取りやすい口調で講義され、提示した資料がわかりやすく、講義内容の理解に非常役立つとの評価を得ている。
(2) 大学教員による授業参観による評価	平成22年11月	担当科目の講義において、資料の作成が非常に適切であり、学生の理解を深めるための具体事例を示しながら授業を丁寧に進めているとの高い評価を得ている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
(1) 京都府立医科大学客員講師 京都府立医科大学客員教授	平成8年9月 ～平成19年3月 平成19年4月 ～現在	医学部３年次生に対して、医薬品の開発、有効性・安全性を保証するための品質評価技法などを中心に講義している。また、開発途上国における医薬品事情についてWHOの活動を中心に講義している。
(2) 薬業界の薬事及び品質管理従事者に対する研修	平成12年 ～現在	薬業界の薬事及び品質管理従事者に対して次のような課題で研修講習を行った。①日局の抗生物質各条、エンドトキシン試験法等について (平成12年)、②「日抗基」収載原薬の「第14改正日本薬局方」移行について (平成12年)、③医薬品各条 (抗生物質医薬品) について (平成13年)、④抗生物質医薬品の日局14における品質規格の問題点と今後の対応 (平成13年)、⑤医薬品各条の原案作成要領について (平成14年)、⑥厚生労働科学研究「医薬品の最新品質管理技法の導入及び薬事法改正への対応等による日本薬局方の質的向上並びに信頼性確保に関する研究」 (平成15年)、⑦日本薬局方標準品品質標準原案の提出資料について (平成16年)。

II　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書) 試験検査室管理実践資料集〈3極への対応〉	共著	平成23年8月	情報機構
(論文)　消化酵素リパーゼの力価評価における基質オリブ油の製品間差に関する研究（査読付）	共著	平成21年10月	医薬品研究Vol. 40 pp. 581-586
(論文) Counterfeit Medicines in Cambodia-Possible Causes（査読付）	共著	平成22年10月 平成23年3月	Pharmaceutical Research Published online: 01 Octobar 2010 Vol. 28, pp. 484-489
(論文) Public health concerns for anti-obesity medicines imported for personal use through the internet: a cross-sectional study（査読付）	共著	平成24年5月	BMJ bmjopen. bmj. com on May 28, 2012
(論文) Effects of packaging and storage conditions on the quality of amoxicillin-clavulanic acid - an analysis of Cambodian samples（査読付）	共著	平成25年6月	BMC Pharmacology and Toxicology 2013, 14:33

III　学会等および社会における主な活動	
2002年度～現在	日本公定書協会標準品評価委員会　委員
2004年度～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構　専門委員
2008年度～2012年度	奈良県福祉部健康安全局薬務課　後発医薬品適正使用等協議会委員
2008年度～2012年度	独立行政法人医薬基盤研究所研究倫理審査委員会　副委員長
2011年度～現在	薬事・食品衛生審議会（厚生労働省）　委員
2013年度～現在	奈良県医療政策部薬務課　奈良県後発医薬品安心使用促進協議会　委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　創薬有機化学	職名　特任教授	氏名　富岡　清

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
(1) 主査となった博士論文	平成20年3月	甲　京都大学薬学博士　坂井 健男：「キラル配位子制御によるリチウムアミドの不斉共役付加反応を基盤とする有用化合物合成への展開」
	平成20年3月	甲　京都大学薬学博士　畑 誠司：「リチウムエステルエノラートのイミンへの不斉付加反応の開拓と(-)-Stenineの合成研究への展開」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　HAO XINYU：「Amidomonophosphane-Rodium(I) Complex Catalyzed Asymmetric Arylation of N-Phosphinoylimine」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　土田 晋：「連続型アミノリチオ化ーカルボリチオ化反応の開発」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　前川 勝：「ジメチル亜鉛を開始剤とするエーテル類の官能基選択的ラジカル共役付加反応」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　松本 安正：「C2キラルカルベンー金属錯体を用いる触媒的不斉反応の開発」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　Magdi A. Mohamed：「Synthetic Studies towards (+)-Pancratistatin Using an Asymmetric Conjugate Addition and Oxidation of Amine to Amide as key Steps」
	平成21年3月	甲　京都大学薬学博士　Khalid B. Selim：「Development of Chiral Ligand-Copper(I)-Catalyzed Asymmetric Conjugate Addition and Allylic Substitution with Organometallic Reagents」
	平成22年3月	甲　京都大学薬学博士　佐藤 智洋：「エナールの閉環反応を鍵とする光学活性５員環化合物の合成研究」
	平成22年3月	乙　京都大学薬学博士　山本 康友：「高活性複合系リチウムエステルエノラートの不斉Michael反応と３連続不斉点構築への展開」
(2) 主査となった修士論文	平成20年3月	京都大学薬学修士　安田順信：「リチウムエステルエノラート三成分反応剤の環状α,β-不飽和エステルへの高選択的不斉マイケル付加反応とNMRによる複合活性種の検出研究」
	平成20年3月	京都大学薬学修士　Toma Gabriel Nicolae：「Chemoselective Cross-Coupling Reactions Catalyzed by Iron」
	平成21年3月	京都大学薬学修士　兼重篤謹：「アミノリチオ化とカルボリチオ化の連続化への試み」
	平成21年3月	京都大学薬学修士　鈴木真由子：「四級炭素の不斉構築を鍵とする(-)-Aspidospermidineの全合成」

	平成21年3月	京都大学薬学修士　高田拡嗣：「環化-転位連続反応を経由する光学活性な3-アミノカルボン酸エステルの5員環または7員環ラクタムへの変換反応における理論化学的反応経路解析」
	平成21年3月	京都大学薬学修士　仲野真由：「アシロキシメチルラジカルの発生および付加反応の開発」
	平成21年3月	京都大学薬学修士　馬場廣海：「オレフィンのヒドロアミノ化を応用したJavaberine類合成へのアプローチ」
	平成22年3月	京都大学薬学修士　今井こずえ：「ゲル化能を増強する直鎖ジアミドの添加化学」
	平成22年3月	京都大学薬学修士　金東鉉：「環状テトラアミドゲル化剤の創製」
	平成22年3月	京都大学薬学修士　高濱佑次：「イソシアナートのアルキル化-ブロモラクタム化ワンポットプロセス」
	平成22年3月	京都大学薬学修士　那須裕之：「リチウムアミド-キラルジエーテル配位子錯体のNMR解析」
	平成22年3月	京都大学薬学修士　原田慎吾：「リチウムアミドの不斉共役付加-アルキル化反応を鍵とするアスピドスペルマアルカロイドの不斉全合成」
2　作成した教科書、教材、参考書		
(1) 化学マスター講座　有機化学　（丸善）	平成22年11月	医薬品の物質基盤である有機化合物の化学を初歩から応用まで取り纏めた親しみ易い教科書である
(2) 医薬品のプロセス化学（第２版）（日本プロセス化学会編）化学同人	平成24年4月	医薬品候補化合物や医薬品をいかに効率的にベストな方法で合成するかを研究するプロセスケミストリーは、医薬品を生産する基本技術であるため重要視されている。人に対して安全であり、環境に配慮して、かつ無駄のない化学製造プロセスを確立することは製薬企業にとって必須の研究課題であり、それらの知識と技術をもった人材が求められている。本書はプロセス化学とそれを取り巻く関連分野を簡潔端的に纏めたものである。製薬企業を目指す大学生、大学院生および企業の新入社員研修向けの初めての教科書である。
(3) Copper-Catalyzed Asymmetric Addition Reaction of Imines. (In Copper-Catalyzed Asymmetric Synthesis, pp. 239-266, ed by A. Alexakis, N. Krause, and S. Woodward, Wiley)	平成26年1月	銅触媒を用いるイミンへの不斉アルキル化反応を網羅的に纏めたもので絶好の教科書である
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		特記すべき事項なし

II　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Aminolithiation of Carbon-Carbon Double Bonds as A Powerful Tool in Organic Synthesis (査読付)	共著	平成21年2月	Pure and Applied Chemistry
(論文) Efficient Chiral NHC-Copper(I)-Catalyzed Asymmetric Allylic Arylation with Aryl Grignard Reagents (査読付)	共著	平成21年11月	Angewandte Chemie Internal Edition
(論文) Rhodium-Catalyzed Asymmetric Phenylation of N-Phosphinoylarylimines with Triphenylborane (査読付)	共著	平成23年1月	Catalysis Science & Technology
(論文) Chiral N-Heterocyclic Carbene-Copper(I)-Catalyzed Asymmetric Allylic Arylation of Aliphatic Allylic Bromides: Steric and Electronic Effects on γ-Selectivity (査読付)	共著	平成23年2月	Journal of Organic Chemistry
(論文) Addition and in situ halo-cyclization of ω-alkenylmagnesium halide with aldehydes, ketone, carbon dioxide, and azodicarboxylate (査読付)	共著	平成25年12月	New Journal of Chemistry

III　学会等および社会における主な活動

2000年～2010年度	財団法人サントリー生物有機科学研究所　評議員
2002年～現在	財団法人科学技術教育協会　顧問
2003年～現在	Consulting Editor of Tetrahedron and Tetrahedron Letters
2013年～現在	独立行政法人日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員
2004年～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構　専門委員
2006年～現在	Honorary Advisor to the Editorial Board of Heterocycles
2007年～現在	Editor of Tetrahedron
2008年～2012年	財団法人大学基準協会専門委員
2008年	Regional Editor of Letters in Organic Chemistry
2010年度	独立行政法人大学評価・学位授与機構　認証評価委員会専門委員
2010年～現在	Editorial Advisary Board of ACS (Americam Medical Society) Medical Chemistry Letters
2011年度～現在	公益財団法人サントリー生命科学財団　理事
2011年～現在	一般社団法人　学術著作権協会　理事
2011年～2013年	公益社団法人日本薬学会　副会頭

2010年～現在	日本プロセス化学会　会長
2010年～現在	日本フランス医薬精密化学会議　議長
2011年～	日本プロセス化学会　会長

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 2号特任教授	氏名 山本 育由

Ⅰ 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 薬事法規・制度：教育内容・方法の工夫	2007年4月より	講義は資料と教科書に基づき行っている。本講義の目的は、薬剤師が知っておくべき各種の法律について理解を深めることにある。法律は理解しにくい部分があり、それを理解するために、講義のみではなく各章毎に演習問題に触れて、問題を解いていく過程で法律の意味するところを理解する方法もとる。また、患者さんの命を預かる医療職の一員であり、重要な役割があることを講義を通じて理解を深めることも目的である。
2 作成した教科書、教材、参考書		特記すべき事項なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1. 乳がん患者の服薬履行度チェックと乳がん再発防止の関わりへの可能性（ポスター発表）	2009年10月	第19回日本医療薬学会年会 長崎
2. 茶カテキンの臨床分離MRSAに対するIPMの抗菌活性に与える相乗効果 （震災による紙上開催）	2011年3月	日本薬学会第131年会 静岡
3. イミペネムの抗菌活性に及ぼす4種のハギから得られたフラボノイド類の影響とそれらの構造活性相関	2013年10月	第63回日本薬学会近畿支部大会
4. 糖尿病患者に対するアドヒアランス向上のための薬局薬剤師の役割（アンケート調査に基づいて）	2013年10月	第63回日本薬学会近畿支部大会
4 その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
1．日本病院薬剤師会近畿ブロック癌化学療法専門薬剤師認定（第99号）	2009年9月1日～2010年	注射薬調剤、抗癌剤調製方法を癌化学療法専門薬剤師として学生に指導できる。
2．日本病院薬剤師会実務実習指導薬剤師認定（第12492）	2006年12月～2011年3月	学生の受け入れ側としての実務実習指導薬剤師認定であるが、送り出す側としてもこの知識を活かして学生の指導に当たるよう努力している。
3．新入生のためのオリエンテーション	2005年4月～	毎年４月に実施。6人のアドバイザーとなり、学業や生活面でのサポートを行う。

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬学生のための病院・薬局実習の手引き2007年度版	分担執筆	2007年12月25日	じほう pp. 91-109 薬剤管理指導業務と患者への服薬指導
（論文） L-Dopaの着色変化に関するpH, 酸素および室内光の影響	共著	2013年5月	医学と薬学 69(5)：767 -774

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

平成 7月 6日	日本TDM学会評議員（現在に至る）
平成 12年 1月	日本医療薬学会評議員（現在に至る）
平成 19年 4月	奈良県一般用医薬品登録販売者試験委員（現在に至る）

［注］ 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　病態生理学	職名特別任用助教	氏名　　天ヶ瀬　葉子

I　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009-2013 2013	2009-2013年度薬理学実習及び2013年度薬理学特論の一部を担当しており、いずれも授業アンケートによる評価を受けている。
2　作成した教科書、教材、参考書	2013年3月27日	はじめての薬学英語　（共著　講談社）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2011-2013	京都薬科大学非常勤講師（薬学英語）

II　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
HES6 enhances the motility of alveolar rhabdomyosarcoma cells.	共著	2013年1月	Experimental Cell Research (319(1):103-12
Hes6 is required for actin cytoskeletal organization in differentiating C2C12 myoblasts	共著	2011年7月	Experimental Cell Research 317(11):1590-602
MCM3AP is transcribed from a promoter within an intron of the overlapping gene for GANP.	共著	2011年2月	Journal of Molecular Biology 406(3):355-61
mRNA export from mammalian cell nuclei is dependent on GANP.	共著	2010年1月	Current Biology 20(1):25-31

III　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　医薬品製造化学	職名 特任助教	氏名 榎本 光伯

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) A novel route for the construction of Toxol ABC-ring framework: skeletal rearrangement approach to AB-ring and intramolecular aldol approach to C-ring	共著	2008年2月	Tetrahedron Vol. 64 4051-4059
(論文) 分子内アルドール反応を鍵反応としたタキソールABC環部の合成（博士論文）	共著	2008年3月	奈良先端科学技術大学院大学
(論文) Palladium-Catalyzed 1, 2-Addition of Potassium Aryl- and Alkenyltrifluoro borates to Aldehydes using Thioether-Imidazolinium Carbene Ligands	共著	2008年8月	J. Org. Chem Vol. 73 3939-3942
(論文) Synthesis of plannar-chiral bridged bipyridines and terpyridines by metal-mediated coupling reactions of pyridinophanes	共著	2009年12月	Tetrahedron Lett. Vol. 50 2740-2743

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　臨床病態生化学	職名 特任助教	氏名 菅野 陽介

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) The absence of uPAR is associated with the progression of dermal fibrosis.	共著	2008年12月	J Invest Dermatol. Vol. 128 2792-2797
(論文) Alpha2-antiplasmin is associated with the progression of fibrosis	共著	2010年1月	Am J Pathol. Vol. 176 238-245
(論文) uPAR is associated with the development of adipose tissue.	共著	2010年12月	Thrombosis and Heamostasis Vol. 104 1124-1132.
(論文) Plasminogen/Plasmin modulates bone metabolism by regulating the osteoblast and osteoclast function	共著	2011年3月	J Biol Chem. Vol. 286 8952-8960
(論文) Alpha2-antiplasmin regulates the development of dermal fibrosis by PGF2a synthesis through ATGL/iPLA2.	共著	2013年2月	Arthritis Rheum. Vol. 65 492-502.

III　学会等および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生化学	職名 特任助教	氏名 川村 暢幸

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 免疫・感染特論の授業評価	2011年度～	
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 薬学教育者ワークショップ タスクフォース参加	2010年1月	（第44回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 H22.1.10,11　立命館大学）
薬学教育者ワークショップ タスクフォース参加	2012年7月	（第61回認定実務実習指導薬剤師養成のための ワークショップ in 近畿 H24.7.15,16　兵庫医療大学）
薬学教育者ワークショップ タスクフォース参加	2013年8月	（第68回認定実務実習指導薬剤師養成のための ワークショップ in　近畿 H25.8.24,25　京都薬科大学）

Ⅱ　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文)Direct recruitment of H+-ATPase from lysosomes for phagosomal acidification.	共著	2009年7月	J Cell Sci. 2009 Jul 15;122(Pt 14):2504-13. PMID: 19549681
(論文)Optic nerve compression and retinal degeneration in Tcirg1 mutant mice lacking the vacuolar-type H+-ATPase a3 sub	共著	2010年8月	PLoS One. 2010 Aug 10;5(8):e12086. PMID: 20711468 doi: 10.1371/journal.pone.12086
(論文)Delivery of endosomes to lysosomes via microautophagy in the visceral endoderm of mouse embryos.	共著	2012年9月	Nat Commun. 2012 Sep 18;3:1071. doi: 10.1038/ncomms2069. PMID: 22990867
(論文)Microautophagy in the visceral endoderm is essential for mouse early development.	共著	2013年2月	Autophagy. 2013 Feb 1;9(2):252-4. doi: 10.4161/auto.22585. Epub 2012 Oct 29. PMID: 23108279
Critical roles of type III phosphatidylinositol phosphate kinase in murine embryonic visceral endoderm and adult intestine	共著	2013年1月	Proc Natl Acad Sci U S A. 2013 Jan 29;110(5):1726-31. doi: 10.1073/pnas.1213212110.

Ⅲ　学会等及び社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　臨床病態生化学	職名 特任助教	氏名 河下 映里

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		記載事項なし。
2　作成した教科書、教材、参考書		記載事項なし。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		記載事項なし。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		記載事項なし。

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Abnormal production of macrophage inflammatory protein-1 alpha by microglial cell lines derived from neonatal brains of Sandhoff disease model mice	共著	2009年3月	Journal of Neurochemistry Vol. 109 No. 5 1215-1224
(論文) Alpha2-antiplasmin is associated with the progression of fibrosis.	共著	2010年1月	Am J Pathol. Vol. 176 No. 1 238-245
(論文) Prostaglandin E2 reverses aberrant production of an inflammatory chemokine by microglia from Sandhoff disease model mice through the cAMP-PKA pathway.	共著	2011年1月	PLoS One Vol. 6 No. 1 e16269
(論文) Alpha2-antiplasmin regulates the development of dermal fibrosis in mice by prostaglandin F(2α) synthesis through adipose triglyceride lipase/calcium-independent phospholipase A(2).	共著	2013年2月	Arthritis Rheum. Vol. 65 No. 2 492-502
(論文) Involvement of α2-antiplasmin in dendritic growth of hippocampal neurons.	共著	2013年7月	Journal of Neurochemistry Vol. 126 No. 1 58-69

III　学会等および社会における主な活動

2012年	第11回APSN・第55回JSN合同国際学会及び第58回SSC国際学会で研究業績を発表
2013年	第24回ISTH国際学会及び第86回日本生化学会で研究業績を発表

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬物動態学	職名 特任助教	氏名 喜里山 暁子

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Analysis of hepatic metabolism affecting pharmacokinetics of propranolol in humans	共著	2008年2月	International Journal of Pharmaceutics Vol. 349 No. 1-2 53-60
(論文) Pharmacokinetic Profiles of Coenzyme Q10: Absorption of Three Different Oral Formulations in Rats	共著	2009年8月	Journal of Health Science Vol. 55 No. 4 540-548
(論文) Binding of Multivalent Anionic Porphyrins to V3 Loop Fragments of an HIV-1 Envelope and Their Antiviral Activity	共著	2010年4月	Chem. Asian J. 5巻 825-834
(論文) A diatomic molecule receptor that removes co in a living organism	共著	2010年	Angew. Chem. Int. Ed. Engl. 49, 1312-1315
(論文) Pharmacokinetic/pharmacodynamic models of nifedipine and captopril in spontaneously hypertensive rats to investigate of combination	共著	2013年	Biomedicine & Aging Pathology Vol. 3 No. 3 107-114

III　学会等および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　創薬有機化学	職名 特任助教	氏名 宮脇あかり

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Enantioselective syntheses of the assigned structures of the helibisabonols A and B	共著	2011年4月	Tetrahedron, 67, 6753-6761
Enantioselective total synthesis of heliespirone B	共著	2012年1月	Tetrahedron Letters, 53, 1236-1239
Total synthesis of natural enantiomers of heliespirones A and C via the diastereoselective intramolecular Hosomi-Sakurai reaction	共著	2012年8月	J. Org. Chem. 77, 8231-8243

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　病態生理学	職名 特任助教	氏名 水川 裕美子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2007-2013年	2007-2013年度「薬理学実習」と2011-2013年度「薬理学特論」のそれぞれ一部を担当しており、いずれもアンケートによる授業評価を受けている.
2　作成した教科書、教材、参考書	2007-2013年	本学の薬理学実習書（2007年度版-2013年度版）の一部
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2010年8月20-22日	第48回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）にタスクフォースとして参加

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Gene expression profiling of methapyrilene-induced hepatotoxicity in rat	共著	2008年2月	The Journal of Toxicological Sciences Vol. 33 No. 1 37-50
(論文) A toxicogenomics approach for early assessment of potential non-genotoxic hepatocarcinogenicity of chemicals in rats	共著	2008年8月	Toxicology Vol. 250 No. 1 15-26
(論文) Mechanism-based biomarker gene sets for glutathione depletion-related hepatotoxicity in rats	共著	2010年9月	Toxicology and Applied Pharmacology 247巻3号　211-221

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

日本薬学会薬理系薬学部会　若手世話人	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生物薬剤学	職名 特任助教	氏名 西村 亜佐子

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 (1) 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム（羊土社）		ヒューマニズム関連分野について、薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した内容であり、到達目標をおさえた解説に加え、豊富な事例や演習問題を収録している。薬学生および薬剤師にも使える一冊 分担著者：後藤恵子、有田悦子、西村亜佐子など
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) 脂溶性薬物の疾患時における体内動態ならびにシトクロムP4503AおよびP-糖タンパク質を介した薬物相互作用に関する研究（博士論文）	単著	2010年3月	京都薬科大学
(論文) Preparation and pharmaceutical evaluation of new sustained-release capsule including starch-sponge matrix (SSM)	共著	2010年5月	Biomedicine & Pharmacotherapy Vol. 64 352-358
(論文) Pharmacokinetic Interaction between Nifedipine and Coenzyme Q10 in Rats: a New Type of Drug-Supplement Interaction	共著	2010年6月	Journal of Health Science Vol. 56 No. 3 310-320
(論文) Pharmacokinetic and pharmacodynamic evaluation of a new sustained-release capsules using starch-sponge matrix (SSM) release system for nifedipine in rats	共著	2011年4月	International Journal of Drug Delivery 3巻2号 270-278
(論文) Controlled release of insulin from self-assembling nanofiber hydrogel, PuraMatrix™: Application for the subcutaneous injection in rats	共著	2012年1月	European Journal of Pharmaceutical Sciences 45巻1号　1-7

III　学会等および社会における主な活動

2010年度	けいはんな女性研究者ネットワーク　世話人
2011年度～2012年度	独立行政法人南京都病院　学術研究員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生命物理化学	職名 特任助教	氏名 根木 滋

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Zn(II) binding and DNA binding properties of ligand-substituted CXHH-type zinc finger proteins	共著	2012年4月	Biochemistry, 査読有, Vol. 24, pp. 3342-3348.
（論文）Rational design of DNA sequence-specific zinc fingers	共著	2012年3月	FEBS Lett. 査読有, Vol. 586, pp. 918-923.
（論文）An arginine residue instead of a conserved leucine residue in the recognition helix of the finger 3 of Zif268 stabilizes the domain structure and mediates DNA binding	共著	2011年7月	Biochemistry, 査読有, Vol 50, pp. 6266-6272.
（論文）Binding of multivalent anionic porphyrins to V3 loop fragment of HIV-1 and their antiviral activity	共著	2010年4月	Chem. Asian J. 5巻 825-834
（論文）Cytochrome C polymerization by successive domain swapping at the C-termina helix	共著	2010年3月	Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 査読有, Vol. 107, pp. 12854-12859.

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生薬学	職名 特任助教	氏名 小川 優子

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動			
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）N-Glycosides of amino acid amides from Hemerocallis fulva var. sempervirens	共著	2009年10月1日	Chem. Pharm. Bull. Vol. 57 1110-1112
（論文）Preventive effects of the extract of kinka-cha, a folk tea, on a rat model of metabolic	共著	2011年4月1日	J. Nat. Med. Vol. 64 1330-1333 610-616
（論文）Allergy-preventive effects of Chlorogenic Acid and Iridoid Derivatives from Flower Buds of Lonicera japonica	共著	2011年8月1日	Biol. Pharm. Bull. Vol. 34 1330-1333
（論文）Oxypinnatanine promotes non-rapid eye movement sleep in mice	共著	2013年1月1日	Sleep Biol. Rhythms Vol. 11 40-45
（論文）Variation of body temperature after administration of amino acid amides	共著	2013年7月1日	Res. J. Phytochem. Vol. 7 10-17
（その他）特許　睡眠改善剤　特願2010-062620号			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　衛生化学	職名 特任助教	氏名 眞田 法子

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Repression of Activated Aryl Hydrocarbon Receptor-Induced Transcriptional Activation by 5alpha-Dihydrotestosterone in Human Prostate Cancer LNCaP and Human Breast Cancer T47D Cells	共著	2009年3月	Journal of pharmacological sciences Vol. 109 No. 3 380-387
(論文) 胎生期・授乳期3-メチルコランスレン暴露による新生マウスの記憶・学習機能に関する研究	共著	2012年	総合分化研究紀要、29巻

III　学会等および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　生化学	職名 特任助教	氏名 田畑 裕幸

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2007～2013年	生化学実習において、学生が講義などで得た知識を定着させるために、口頭試問を実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書 生化学実習　実習テキスト　第２～８版	2007～2013年	生化学実習で用いるテキストを毎年改訂している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Vacuolar-type H (+) -ATPase with the a3 isoform is the proton pump on premature melanosomes	共著	2008年6月	Cell and Tissue Research Vol. 332 No. 3 447-460
(論文) Vacuolar-type proton ATPase as regulator of membrane dynamics in multicellular organisms	共著	2008年6月	J. Bioenerg. Biomembr. Vol. 40 No. 1 53-57
(論文) Direct recruitment of H+-ATPase from lysosomes for phagosomal acidification	共著	2009年7月	Journal Cell Science Vol. 122 No. 14 2504-2513
(論文) Optic nerve compression and retinal degeneration in Tcirg1 mutant mice lacking the vacuolar-type H-ATPase a3 subunit	共著	2010年8月	PLoS One 5巻8号 E12086
(論文) Generation of chicken monoclonal antibodies against the a1, a2, and a3 subunit isoforms of vacuolar-type proton ATPase	共著	2012年4月	Hybridoma 30巻2号 199-203

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2011年4月～2014年3月	公益社団法人 日本薬学会の学会誌「ファルマシア」において、ファルマシアトピックス専門小委員を担当。

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　薬理学	職名 特任助教	氏名 高鳥 悠記

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2007年～2013年 2011年～2013年	薬理学実習 薬理学特論
2　作成した教科書、教材、参考書	2012年1月10日 2013年4月30日 2007年～2013年	最新薬理学（廣川書店）　43-74 グッドマン・ギルマン薬理書（廣川書店） 薬理学実習書「中枢神経系に影響を及ぼす薬物」
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2009年11月 2010年11月 2012年8月	第41回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）運営　薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 日本学術会議公開シンポジウム「新薬学教育における学士力　博士力」運営　日本学術会議薬学委員会薬学教育分科会 「第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿」運営　一般社団法人　薬学教育協議会　病院・薬局実務実習近畿地区調整機構

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
(著書) 最新薬理学	共著	2012年1月	廣川書店
(論文) Mechanisms of alpha7-nicotinic receptor up-regulation and sensitization to donepezil induced by chronic donepezil treatment	共著	2008年6月	European Journal of Pharmacology Vol. 590 No. 1-3 150-156
(論文) Mechanism of neuroprotection by donepezil pretreatment in rat cortical neurons chronically treated with donepezil	共著	2008年7月	J. Neurosci. Res. Vol. 86 No. 16 3575-3583
(論文) Mechanisms of Neuroprotective Effects of Nicotine and Acetylcholinesterase Inhibitors: Role of alpha4 and alpha7 Receptors in Neuroprotection	共著	2010年1月	Journal of Molecular Neuroscience Vol. 40 No. 1-2 211-216
(論文) Mechanisms of Chronic Nicotine Treatment-Induced Enhancement of the Sensitivity of Cortical Neurons to the Neuroprotective Effect of Donepezil in Cortical Neurons	共著	2010年3月	J Pharmacol Sci. Vol. 112 No. 3 265-272

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2009年4月	日本薬理学会　学術評議員
2012年9月	日本薬理学会　代議員
2013年6月	日本薬学会薬理系薬学部会　薬理系薬学部会若手世話人

［注］ 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 同志社女子大学	講座名　創薬有機化学	職名 特任助教	氏名 山本 康友

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

II　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書) 使える！有機合成反応241　実践ガイド	分担執筆	2010年4月	化学同人
(論文) Asymmetric Construction of Three Contiguous Stereogenic Centers by Conjugate Addition-Alkylation of Lithium Ester Enolate	共著	2009年5月	Org. Lett. Vol. 11 No. 9 2007-2009
(論文) NMR Studies of a Ternary Complex Reagent of Lithium Ester Enolate, Chiral Diether, and Lithium Diisopropylamide in an Asymmetric Michael Reaction	共著	2010年4月	Tetrahedron Vol. 66 No. 13 2470-2473
(論文) NMR studies on the structure of a lithium amide-chiral diether complex for an asymmetric reaction	共著	2013年5月	Tetrahedron Vol. 69 No. 19 3836-3840
(論文) One-pot synthesis of N-heterocycles by a tandem addition reaction of ω-alkenylmagnesium bromide with C=N double bond-oxidative	共著	2013年8月	Tetrahedron Lett. Vol. 54 No. 32 4313-4315

III　学会等および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。

5　「III　学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。